第８節　考察

古市カハラケ田遺跡の集落の様相　－弥生時代後期から古墳時代を中心に－

今回の調査の結果、古市カハラケ田遺跡は縄文時代後期から中世にかけての複合遺跡であることを確認した。ここでは、出土遺物の時期に連続性の見られる弥生時代後期から古墳時代後期にかけての古市カハラケ田遺跡の集落の姿を考察してみたい。

１．遺跡内の遺構の消長

第４節で記述した内容に基づいて、遺跡内の主要遺構の消長を示したのが表１である。

ＳＩ01、02、03は弥生時代後期前葉から後葉にかけて、拡張を伴う建て替えを行っており、一時期に存在していた竪穴住居は１棟のみである。その南側にあるＳＤ19は幅広の直線的な溝状遺構で、弥生時代後期を通した時期の土器が出土している。ＳＤ14、27、30はＳＤ19に並行する。これらの遺構はほぼ同時期に存在していたものと見られ、古市カハラケ田遺跡の集落は弥生時代後期前葉から始まると言える。

古墳時代前期の遺物が出土する遺構はＳＤ19がある。出土遺物の量から、古市カハラケ田遺跡において古墳時代前期に集落が営まれていたことは間違いないが、その時期の遺物を伴う建物跡が見つかっていないため集落景観を復元することは難しい。

古墳時代中期の遺構は前期から引き続きＳＤ19が存在するが、新たに遺構が出現するのは中期後葉の時期である。ＳＤ29、32、41がＳＤ19に並行しているのに対し、ＳＤ21はこれらの溝状遺構に直交する位置にある。ＳＩ05、06、07はそのＳＤ21の方向に関連があるものと見られる。ＳＩ08、09、04はこれらの遺構の方向とはやや方向を異にする。ＳＤ40はＳＩ08、09を切るように検出された自然流路であり、ＳＤ21と並行している。出現の時期は明確でないが、位置と埋土の関係からＳＤ40の形成と発達の過程が、ＳＩ08をはじめとする周辺の遺構群の消長に深くかかわっているものと考えられる。

遺構の消長から古市カハラケ田遺跡には弥生時代後期前葉と古墳時代中期後葉に画期を見いだすことができる。二つの画期に共通するのは溝状遺構の方向性である。特にＳＤ19は弥生から古墳時代を通じて存在し、他の溝状遺構の方向の基準とも見てとれる。

２．溝状遺構の性格

弥生時代の集落の溝状遺構と言えば、環濠集落の濠が代表として挙げられる。集落全体を取り囲むものを環濠、集落が丘陵上や尾根上に立地している場合、その付け根を切断するような直線的なものを条濠と呼ぶこともあるが、いずれにしても集落を外界から画することで一致している。環濠集落は稲作の伝来とともに大陸から伝わった集落形態である。濠は集落を外敵から守るための施設であることから、その出現時期に地域の社会的緊張状態を見いだすこともある。弥生時代のほぼ全期間にわたって存在し、古墳時代には存続しない集落形態である。

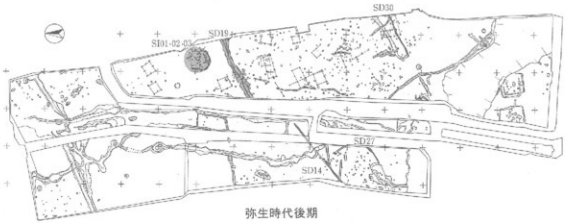
古市カハラケ田遺跡の周辺地域では環濠集落は弥生時代前期後葉から中期前葉、後期に見られる（第２章参照）。これらの環濠の規模及び形態の比較から、古市カハラケ田遺跡の溝状遺構は環濠集落のそれとは異なる性格のものと考えられる。遺構測量図を周辺の地形図と重ねると、ＳＤ19をはじめとする東西方向の溝状遺構は、背後の丘陵から伸びる等高線にほぼ平行する位置関係にあることが分かる（第43図）。つまりは本来の自然の傾斜の方向に直交するということであり、これは自然流路であるＳＤ40との関係からも裏付けられる。東西の溝状遺構の方向は古墳時代においても継承されていることから、地形による制約が強いものと考えられる。

３．溝状遺構と建物跡の関係

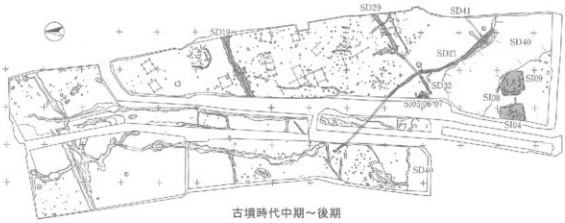
溝状遺構と他の遺構との関係を見てみると、ＳＤ19及びＳＤ14を境としてその南北で、遺構の密度に大きな差

	弥生時代後期	古墳時代前期	古墳時代中期	古墳時代後期
SI01,02,03	———			
SD14	———			
SD30	———---			
SD27	---———---			
SD19	———————	———————	———	
SD21			---—	
SD41			---—	
SD29			---———-----	
SD32				———
SI05,06,07			---———	
SI08			---—	
SI09				———
SI04				———
SD40				---———

表1　古市カハラケ田遺跡内遺構消長



弥生時代後期



古墳時代中期～後期

第42図　古市カハラケ田遺跡内遺構変遷

があることが分かる。特にＳＤ19の南北では境界ともとれる程の差がある。弥生時代後期の竪穴住居はＳＤ19の北側でのみ検出しており、南側では見つかっていない。また掘立柱建物跡に着目してみると、その主軸がＳＤ19と並行するものが多く、ＳＢ01、02、09～13がそれにあたる。さらにＳＤ21の東西においては、東側の掘立柱建物地区に対して、西側は竪穴住居地区とも言える景観を見せる。これらのことからＳＤ19をはじめとする溝状遺構が集落内の建物の構成において大きな意味を持つ施設であったことが推測され、当時の建物の建造の際の基準もしくは規制となっていたことが考えられる。ＳＤ19以南およびＳＤ21以東のピット群が掘立柱建物の区域であるとするならば、集落内の建物は溝状遺構によって区分されていたのではないだろうか。１間×３間の建物はＳＤ19以南にのみ存在しており、これらを倉庫と見るならば、貯蔵区と居住区が溝状遺構によって分けられていたと考えられる。

４．区画の持つ意味

古墳時代中期後葉に出現するＳＤ21は、弥生時代後期以来の東西方向の溝状遺構に直交することによって集落内を格子状に区画し、竪穴住居跡と掘立柱建物跡の偏在性を際立たせている。都出比呂志氏は古墳時代における竪穴住居を主体とする住居群の居住者を一般農民層と捉え、掘立柱建物の平地式住居を主体とする住居群を、首長層あるいは農民の中の上位の階層の居館や屋敷地にあたるものとして、建物の違いに階層的な差異を見ている[2]。都出氏の建物による区分に従えば、古市カハラケ田遺跡では単位集団の形成する建物群のまとまりは認められないが、ＳＤ21の西側の竪穴住居地区が一般農民層の居住域で、東側の掘立柱建物地区は貯蔵施設を管理下に置いた、それより上位の階層の屋敷地という見方ができる。しかし建物の規模を比較すると、倉庫と見られる１間×３間の建物を含めたとしても、竪穴住居跡の床面積を凌駕する掘立柱建物跡は見当たらず、平地式住居の竪穴住居に対する優位性は古市カハラケ田遺跡においては認められない。

渡井美誉氏は集落内の棟列あるいは溝によって方形に区画された空間に着目し、区画の有無、区画内外の建物の構成の比較から集落間及び集落内の階層差を見いだしている[3]。渡井氏の提示する「Ⅱ類　小深田型」は一般集落の中に溝や柵による方形区画を持つタイプである。モデルとなった静岡県焼津市小深田遺跡は「区画内が重複の目立つ竪穴住居と散在する掘立柱建物、井戸などにより構成される」ものであるが、「消費単位としての建物群の構成は一般の集落の単位集団と変わるものではなく、そこに格差は見られない」としている。さらにⅡ類の遺跡に見られる「このような区画の溝は、沖積平野に立地する遺跡の日常的な排水や自然災害に対処する施設として捉えられるもので、集落内の階層差やその集落の隔絶した性格を規定するまでの施設とは考え難い」とし、区画の在り方を立地条件の面から十分検討する必要性を述べている。

古市カハラケ田遺跡の集落は緩斜面に立地していることから、緩横の溝状遺構は排水溝としての性格が強いものと考えられる。また建物に関しては弥生時代後期から、同じ場所に住居の建て替えを繰り返す「個々の住居単位の占地の固定化」[1]が見られる。溝によって分かれているそれぞれの区画は単位集団の占有地であるが、掘立柱建物群の区画はこれらのいくつかの集団の共有地であって、収穫物の共同管理の場として存在するものと考えられる。

５．集落とその背景

古市カハラケ田遺跡の集落の開始期である弥生時代後期前葉は、法勝寺川水系の拠点的集落である青木遺跡や日野川水系の越敷山遺跡において集落規模が一時的に縮小を見せる一方で、大山山麓の丘陵上に尾高浅山遺跡、洞ノ原遺跡といった環濠を持つ高地性集落が出現し、集落内が機能的に分化された妻木晩田遺跡群のような大集落の形成へと繋がる時期である。出雲東部地域では、安来市門生黒谷Ⅰ遺跡で丘陵上に新たな集落が出現し、塩津丘陵には後期後半から後期末にかけて大集落が展開する。池淵俊一氏は「安来平野周辺においては中期末から後期前半にかけての集落がその地域最初の弥生時代集落となるケースが非常に多い」と指摘し、丘陵上に集落を構成することに谷水田の開発のために進出してきた開拓村的側面を考慮した上で、防御的意図を付加している[4]。

山陰地方の弥生時代の大きな画期とも言える中期後葉から後期にかけての集落の縮小や分散、廃絶や出現に現れている大きな社会変動は、汎西日本的な現象と認識されており、その要因に洪水等の自然災害や、利器の石器から鉄器への移行に伴う流通システムの変動が提示されている[5]。

周辺の遺跡の状況を見ると、古市カハラケ田遺跡とは同一丘陵の縁辺部に立地する吉谷上ノ原山遺跡では弥生時代後期前葉と古墳時代前期の住居跡が確認されており、加茂川対岸の低丘陵の斜面地に立地する新山山田遺跡では弥生時代中期後葉から古墳時代後期初頭、末期から奈良時代にかけての集落が、新山研石山遺跡では古墳時代前期から後期初頭、後期後半及び奈良時代から平安時代を中心とする集落跡が確認されている（第43図）。一円の弥生時代の集落の始まりはほぼ同時期と見られ、継続期間もほぼ並行するものである。それぞれの集落立地は決して特殊なものではなく、長期に渡って継続していたことからも、加茂川の氾濫原や谷部に耕地を求めた集団の開いた村として捉えたい。

古市カハラケ田遺跡は古墳時代後期以降、シルトと砂の層に覆われて居住域の痕跡を残さない。遺跡内の集落はＳＤ40を形成した水害によって廃絶し、耕地へ推移したものと考える。そして居住域は高所へ移動していったのだろう。

（家塚）

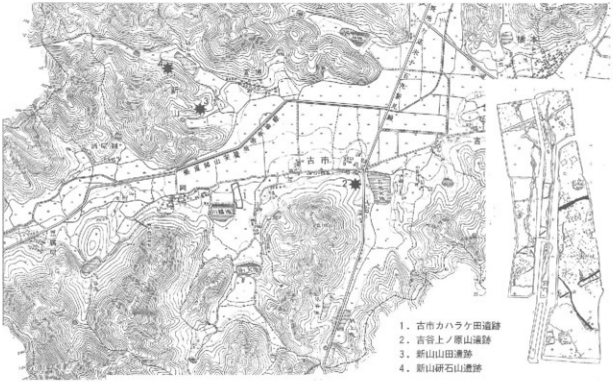
註　1）都出比呂志　1989　「古墳時代集落と階層分解」『日本農耕社会の成立過程』岩波書店

2）渡井英誠　1995　「古墳時代前期の集落景観」『静岡県考古学シンポジウムⅧ　古墳時代の集落　収録集』静岡県考古学会

3）前掲註１、Ｐ241

4）池淵俊一　1998　「弥生時代後期集落をめぐる諸問題」『門生黒谷Ⅰ遺跡・門生黒谷Ⅱ遺跡・門生黒谷Ⅲ遺跡』島根県教育委員会

5）1999年２月、第45回埋蔵文化財研究集会「弥生時代の集落－中・後期を中心として－」における内容に基づく。



第43図　古市カハラケ田遺跡周辺図（昭和31年一万分ノ一都市計画図米子市其三を２分の１に縮小）

第9節　まとめ

古市カハラケ田遺跡では以上に述べてきたように、縄文時代後期から中・近世に至る遺構、遺物を検出した。

縄文時代においては後期中葉に属する土坑を1基検出したが、土器のみならず黒曜石製のスクレイパーが出土した。その他埋土の洗浄によってコナラ属（アカガシ亜属である可能性）の炭化子葉と堅果片を検出し、周辺にアカガシ亜属（カシ類）の照葉樹林が分布していた可能性が考えられるなど、当時の環境復元に追った。

弥生時代から古墳時代にかけては本遺跡の中心となる時代であり、該期の集落跡を検出した。その中でも弥生時代後期と古墳時代中・後期の2期に大きく分かれ、古墳時代前期においては遺構数が減少するという特徴を持つ。これら集落はＳＤ19など溝状遺構の軸にあわせて形成されたものと考えられ、ＳＤ29あるいは30との間には掘立柱建物跡群がある。さらに弥生時代後期にはＳＤ19の北側に円形の竪穴住居跡（ＳＩ01～03）が、古墳時代中・後期にはＳＤ21より南東側に方形の竪穴住居跡群（ＳＩ04～09）が造られている。

中世においては中世前期に属するものが大半を占め、西1区を中心に溝状遺構を6条検出した。一部に杭を打ち込み、礫を積んで堰のような施設を造っている部分を検出したが、これら溝状遺構はその堆積から恒常的な水の流れが観察された。これらの他には遺構は検出していないが、Ａ・Ｂ2グリッドから18点中12点（66.7%）と銭貨が集中して出土するなど、何らかの施設があったことが想定される。

本遺跡の位置する地域は旧山陰道のルートのひとつと推定されているが、今回の調査ではそれに関連する遺構・遺物とも検出し得なかった。今後の調査に期待したい。

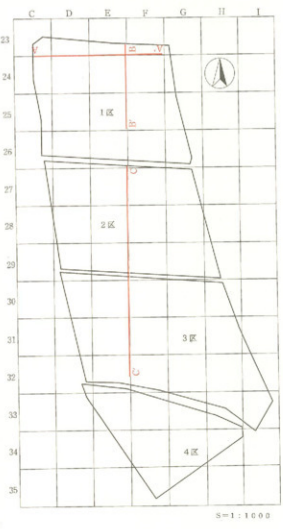
最後になりましたが、今回の発掘調査にあたり様々な方、各機関からご協力を頂きました。作業員の皆さんには暑い中、また時には雨降る中作業をしていただき、未熟な調査員を支えて下さいました。また地元の皆様には調査を温かく見守っていただきました。ここに記し、厚く御礼を申し上げます。　（中森、家塚、内田）

第４章　古市河原田遺跡の調査

第１節　調査の経過と方法

古市河原田遺跡は米子市古市字河原田に所在する縄文時代中期から近世に至る複合遺跡である。東西南の三方を山に囲まれ、南北に広がっていく谷筋に位置しており、北側には加茂川がほぼ東西に流れている。また、調査地のすぐ南に位置する丘陵上には、古市４～10号墳といった小規模な前方後円墳や円墳が築かれている[1]。調査地内の標高は約25.5ｍ～27ｍで、南から北へ緩やかに傾斜している。調査地内は米子市教育委員会により事前に試掘調査が行われ、遺構、遺物の検出状況および地形から判断し調査範囲が決められた[2]。調査地には水田が営まれており、圃場整備のさい、撹乱を受けている可能性が想定された。

現地調査は、平成10年４月に着手し、11月に終了した。調査面積は10,948平方メートルである。試掘調査の結果、調査地内の南側はかなりの削平を受けているものの、北側には複数の包含層、遺構面が存在することが判明した。また、南側においても縄文時代の遺物包含層および遺構面が一部に遺存していることが窺われた。包含層上には客土が厚く堆積しており、そのため、表土および水田床土を重機で除去した後、調査に取りかかることにした。



第44図　古市河原田遺跡グリッド配置

重機による掘削終了後は、調査区内に南北軸に沿う10ｍ画グリッドを設定した。また、便宜上、調査前の水田区画を北より１～４区とし、１区から順次調査を進めた（第44図）。包含層に含まれる遺物の取り上げについては、グリッドごとに一括して取り上げたが、遺物の出土状況によってはトータルステーション・平板を使用し、出土状況を記録した。また、遺構や地形の測量についてはグリッド・トータルステーション・平板を併用して行った。

調査の開始においては、グリッドに沿って南北のトレンチを数本設定し、土層断面の観察を行いながら、掘り下げを行った。精査を繰り返しながら掘り下げていくうち、５面の遺構面および遺物包含層を検出した。ただし、予想以上に遺跡が削平されていたことに加え、調査地が遺跡の主体から少しはずれていたことから、検出できた遺構の数は少ない。また、上方から運ばれてきた土石により谷地形が徐々に埋められた結果、現在の地形が形成されている。その堆積状況は複雑で、層位的な遺物の取り上げを心懸けたが、一部で上・下層の遺物を分けて取り上げできなかった場合もある。包含されている遺物は磨滅したものが多く、拳大～人頭大の礫に混ざって出土することも多々あり、大半が二次的な堆積と考えられる。しかし、縄文時代後・晩期の土器や石器が豊富に出土しており、縄文時代における米子平野周辺を考えるうえで、好資料を得ることができたといえよう。調査地周辺には縄文時代後・晩期の集落跡が広がる可能性がある。なお、

検出した遺構、遺物についてはそれぞれ写真撮影・実測を行い、記録にとどめた。（濱田）

註　1）米子市教育委員会編 1994『米子市埋蔵文化財地図』
　　2）杉谷愛象　下高瑞哉 1997『米子市内遺跡発掘調査報告書』米子市教育委員会

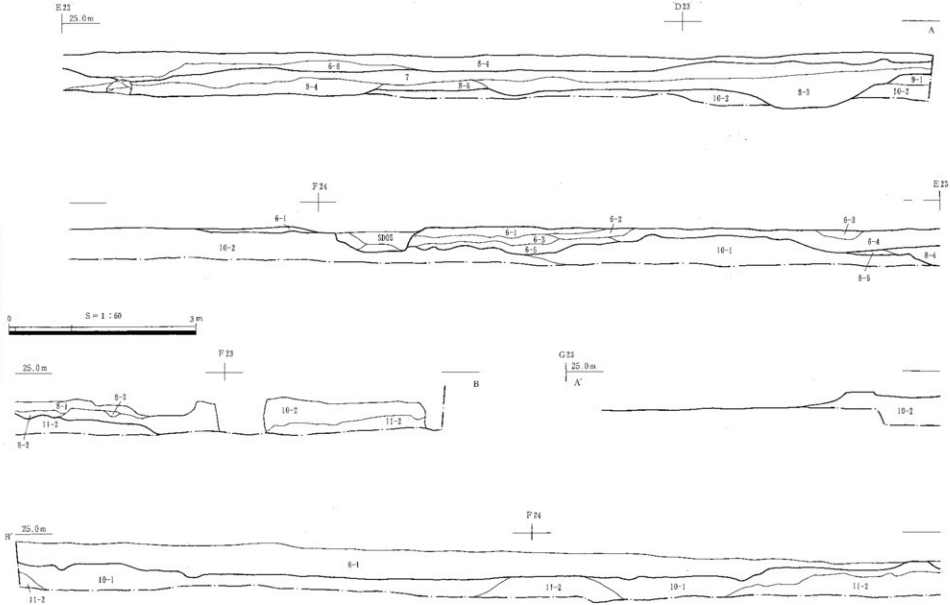
第2節　調査区内の堆積について

土層断面の観察は、グリッドラインにそって設定したトレンチおよび調査区内の壁面を利用して行った。ここで図示した土層断面は、調査時に基本層序としたもので、A－A'は1区の東西方向、B－B'・C－C'は1区から3区にかけての南北方向の堆積状況である（第44図）。

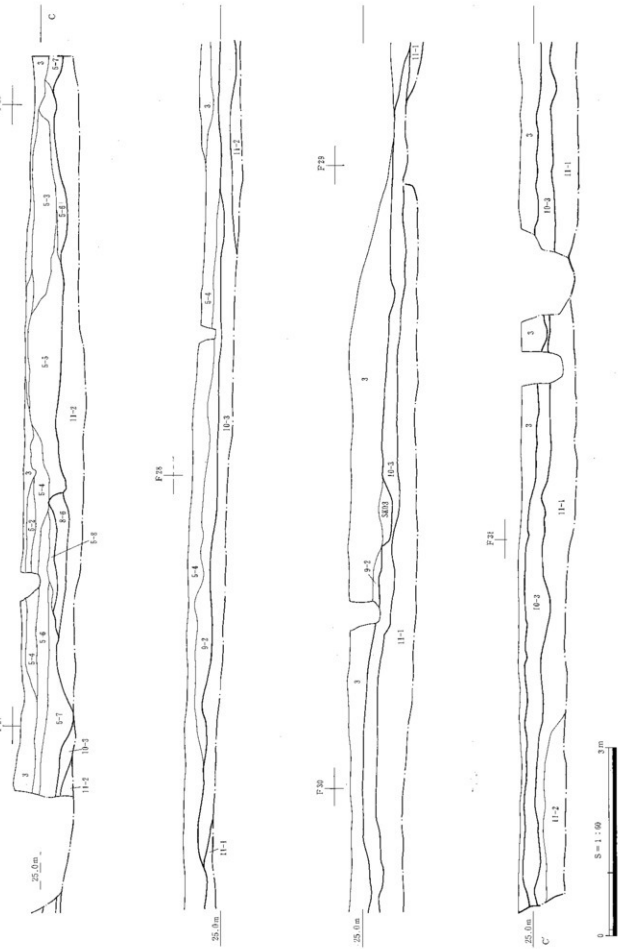
前述したが、調査地は谷筋に位置しており、南北にかけて緩やかに傾斜する。また、東側に丘陵が位置しており、調査区の東から西にむけてわずかに傾斜する。基本的には、このような地形に、縄文時代から近世にかけて徐々に堆積が進むことで現在にいたる。調査地内の堆積を出土遺物から大別すると、縄文時代後期以前、後期、晩期の堆積、弥生時代前期、中期から後期、古墳時代、中世から近世の堆積が認められる。

しかし、調査地全体にこのような堆積が一様に確認できるわけではない。特に2区・3区は圃上整備による削平が著しく、水田床土直下で縄文後期の遺構が検出される状況であった。4区については、ほぼ全面が攪乱され、遺物包含層はほとんど残っていなかった。また、埋積の過程で消失した堆積もあるようで、例えば、縄文時代晩期の包含層などは、1区と2区の一部に認められるにすぎない。以下、堆積について概略する（第45・46図）。

1層　表土。
2層　水田床土。
3層　古墳時代後半から中・近世の遺物包含層。
4層　古墳時代前半の遺物包含層。
5層　弥生時代中期から後期の遺物包含層。
5－1層　淡灰色土。
5－2層　暗褐色土。
5－3層　灰色細砂。
5－4層　灰褐色土。
5－5層　黄褐色土。
5－6層　暗灰色砂。
5－7層　明黄褐色土。
5－8層　黒灰色土。
5－9層　淡灰色土。
6層　弥生時代前期の遺物包含層。6－4層から少量の土器小片が出土した。また、6層除去後、7層上面でSK14を検出した。
6－1層　灰色土。
6－2層　灰色土（6－1よりかたくしまる）。
6－3層　灰色砂。
6－4層　明黄灰色粘質土。
6－5層　黄灰色砂（黄褐色土、黄褐色粘土の粒・塊を含む）。
6－6層　黄灰色シルト。
7層　縄文時代晩期末から弥生時代前期初頭に堆積したと思われる包含層。土器小片が少量出土したにす



第45図 調査区内土層断面1



第46図　調査区内土層断面2

ぎず、時期を特定できる遺物は出土していない。

8層　縄文時代晩期後葉の遺物包含層。以下の各層から晩期後葉の土器・石器が出土した。

8－1層　黄褐色粘質土。

8－2層　暗灰褐色砂質土。

8－3層　灰色粘土。

8－4層　淡黄灰色砂。

8－5層　黄褐色小礫層。

8－6層　灰色シルト。

9層　縄文時代後期中葉の堆積。

9－1層　褐色礫層。

9－2層　淡暗灰色土。

10層　縄文時代後期中葉の堆積。

10－1層　黄灰色土。

10－2層　灰褐色礫層。

10－3層　灰色土。

11層　縄文時代中期から後期前葉の堆積。11－2層は無遺物包含層である。

11－1層　黄灰色土。

11－2層　褐色礫層。

以上、各層について概略した。次に全体の状況について簡単にまとめる。まず、11層以下が縄文時代後期以前の堆積である。11－1層からは縄文時代中期～後期前葉の土器が少量出土している。11－2層からは遺物が出土しておらず、無遺物包含層と思われる。11－2層以下については、一部深掘りによる確認にとどまるが、地表から約3mほど掘り下げたにも関わらず、地山を確認することができなかった。その間、遺物が含まれていないことから、ここで調査を終了することにした。また、11－1・2層中には、多量に礫が含まれていた。特に、11－2層はその傾向が顕著であった。かつては、現在より深い谷地形を呈しており、これらの堆積により、徐々に谷が埋没し、ほぼ現在のような緩やかな傾斜の地形を形成していったものと推察される。

また、第45・46図の土層断面の太線は遺構面を示している。第1遺構面（縄文時代後期中葉）は11層上面に形成されており、3区で検出できた。第2遺構面（縄文時代後期中葉）は10層上面に形成され、1区から3区にかけて広がる。1区では、縄文時代後期中葉の堆積、9層は狭い範囲に薄く広がるだけで、8層直下で第2遺構面が検出される場合があった。後述するが、第1遺構面、第2遺構面については、後期中葉の幅の中で、土器型式にして一型式程度の時間差を想定している。第3遺構面（縄文時代晩期後葉）は9層上面で検出したが、第2遺構面から第3遺構面の間に、縄文時代後期後葉～晩期中葉の遺構面ないしは遺物包含層は認められなかった。また、第3遺構面上にのる8層は6つに細分できるが、出土する土器に層位による型式差はほとんどないものと思われる。7層上面には第4遺構面（弥生時代前期）が形成されるが、1区以外では認められない。この後、弥生時代中期から後期の土器を包含する5層が堆積する。ここから出土する遺物は著しく磨滅しているものばかりであった。また、面として確認できなかったが、3区において第2遺構面で弥生時代後期の土坑・ピットを検出した。これは、3区が圃場整備に伴う削平を受けていることによる。第5遺構面は古墳時代前半の遺構面で、1区にのみ遺存していた。

このように、全ての遺構面、各時代の包含層が調査区全面で確認できたわけではない。その理由は、堆積の過程で流出し欠落する場合もあれば、近年の削平によるものもある。ただ、遺物と合わせ考えると、古市河原田遺跡は縄文時代中期から現在にいたる長期間にわたって断続的に営まれてきた遺跡であることが窺われる。しかし、各遺構面で検出できた遺構は決して多いと言えない。このことから本調査区は、遺跡の縁辺部に位置していると考えられ、主体は、本調査区の東側または西側の山裾に広がるものと推測される。（濱田）

第３節　縄文時代（第１・２・３遺構面）の遺構と遺物

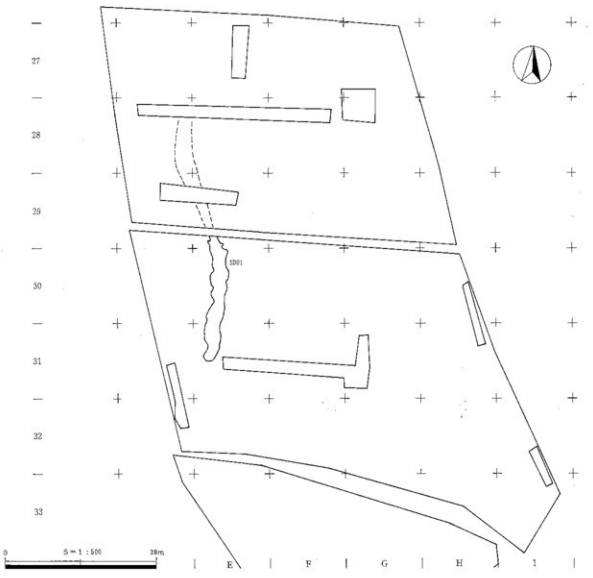
１．概要

今回の調査では縄文時代の遺構面が３面確認できた。下から後期中葉の第１遺構面（第47図）、第２遺構面（第52図）、晩期後葉の第３遺構面（第63図）である。包含層から出土した土器の中には、中期にさかのぼるものも散見されるが、中期の遺構はみられない。また、包含層出土土器も、後期中葉、晩期後葉に偏る傾向にある。第２遺構面と第３遺構面の間に、後期後葉～晩期中葉の包含層、遺構面が確認できなかったことと合わせ考えると、この間は遺跡が一時的に断絶するものと推察される。

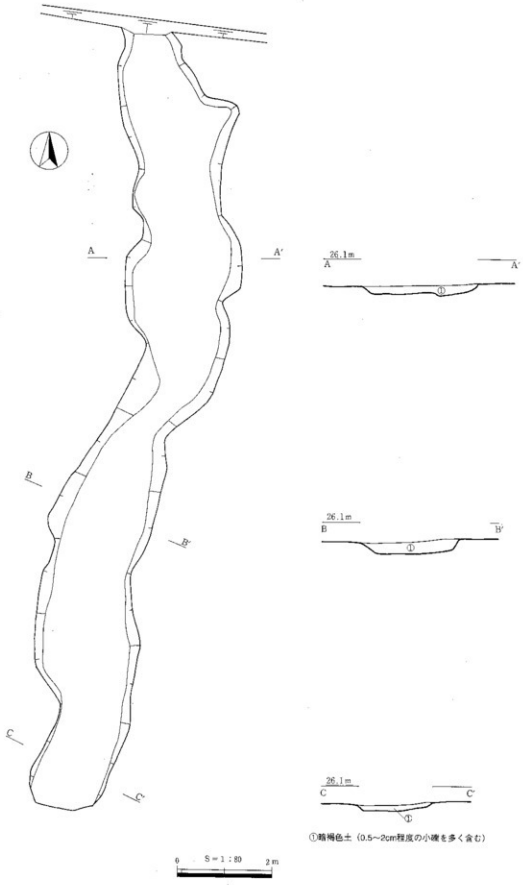
以下、各遺構面の遺構と遺物、および包含層から出土した遺物について報告する。　（濱田）

２．第１遺構面（縄文時代後期中葉）の遺構と遺物

３区において、10層除去後、11層上面で第１遺構面（第47図）を検出した。しかし、削平により攪乱されている４区は別にして、１・２区でも３区から連続すると思われた第１遺構面を確認することはできなかった。検出できた遺構は流路１条である。10層中には彦崎ＫⅡ式古段階と思われる土器片が数点含まれるもの[1]、遺構内出土の遺物で最も新相を示すものは北白川上層式である。いずれにしても、後期中葉と考えられ、第２遺構面よ



第47図　縄文時代後期中葉（第１遺構面）遺構配置



第48図　ＳＤ01

りも確実に古い遺構面である。（濵田）

ＳＤ01（第48・49・50・51図）

調査区西側、Ｅ・Ｆ21～Ｅ31グリッドに位置し、南から北へ走る浅い溝ないし流路状の遺構である（第48図）。３区においては10層直下で検出した。一方、２区は削平が著しく、耕作土ないし中・近世層直下で既に第1遺構面に到達した。そのため２区における当遺構の遺存状況は薄く埋土が残っている程度で、調査中は薄く広がる包含層として掘り進めたため遺構として認識していなかった。しかし、幸いにも遺物の分布範囲を記録していたことから、第47図に示したように２区における遺構の範囲を推定することができた。検出規模は幅約1.2m～2.4m、長さ32m以上を測り、深さ約0.2mである。

遺構内には暗褐色土が堆積しており、多量の礫に混ざり、土器小片・石器が包含されていた。第49～51図は出土した遺物である。１～10は沈線文が施される土器である。１は内湾する波状口縁と思われる。２も波状を呈する口縁部片である。４～７は口縁部、８・９は胴部片、９は沈線を波状に施す。10は底部で沈線が施される。11～18は磨消縄文が施される土器である。平行沈線が施される12～14、２条ないし３条の沈線が弧状に施される15～17がある。18は結節縄文か。19は胴部片で、貼付突帯に刻目を施す。20は器面に棒状工具で刺突を施す。21～27は粗製の深鉢ないし鉢である。24は細かな条痕が施されている。28～32は底部片である。なお、土器の時期については、磨滅した小片が多く、不明とせざるを得ないものが多くある。そのうち、１、19、20は中期にさかのぼるだろう。また、沈線で飾られる土器の多くは中津式と考えられる。磨消縄文が施される類のうち、15～18は福田ＫⅡ式～北白川上層式に相当する。また、33は土製品である。形態から足形を想像させるが、中空を呈すことから、土偶の足部とは考えがたい。

Ｓ１～Ｓ９は石鏃で、Ｓ５はサヌカイト製、それ以外はすべて黒曜石製である。いずれも凹基式である。Ｓ10～Ｓ13は楔形石器である。Ｓ10～Ｓ12は黒曜石製、Ｓ13は水晶製である。Ｓ14は微細剥離痕のある剥片である。サヌカイト製で、扁平な剥片の一側縁に剥離痕がみられる。Ｓ15は磨製石斧の基部、Ｓ16は石錘である。Ｓ16は上下両端を打ち欠いている。Ｓ17～Ｓ19は礫石器類[1]である。分類については「当節４．包含層出土の遺物 Ｃ石器」で述べるが、Ｓ17・Ｓ18が2-0-0、Ｓ19が1-1-2である。いずれも表裏両面に磨面をもつ。Ｓ19は上下両端を敲打に用いている。Ｓ20は砥石である。

遺構の掘没時期は、土器から判断すると、縄文時代後期中葉と考えられる。なお、この遺構が自然のものなのか否かはわからない。（濵田・濵）

３．第２遺構面（縄文時代後期中葉）の遺構と遺物

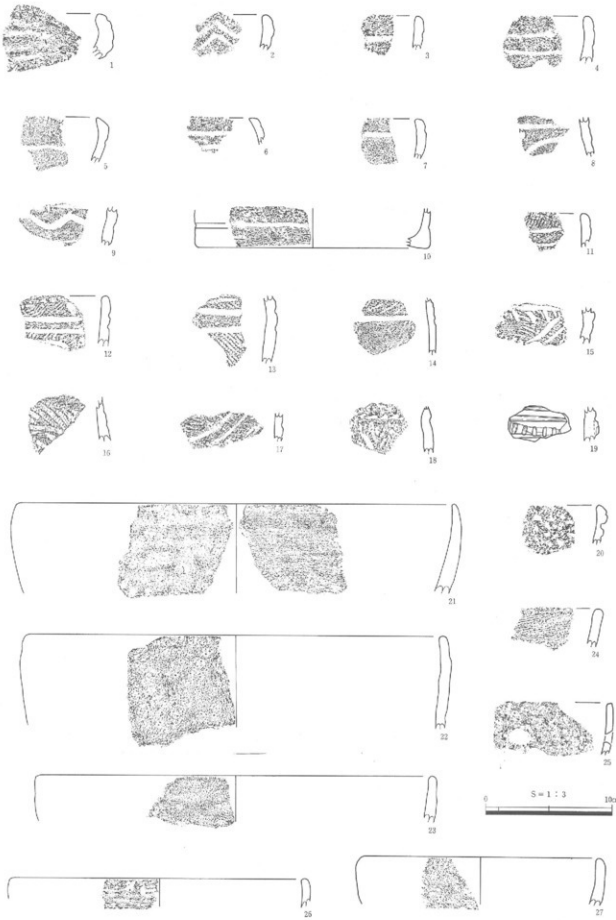
９層または８層除去後、10層上面で検出したのが第２遺構面（第52図）である。一部は圃場整備による削平を受けており、調査区全面で確認することはできなかった。検出できた遺構は、土坑13基、ピット44基、溝２条で、１・３区に認められる。９層および遺構から出土した土器は、いわゆる彦崎ＫⅡ式に相当し、縄文時代後期中葉に位置づけられる。（濵田）

ＳＫ01（第53図）

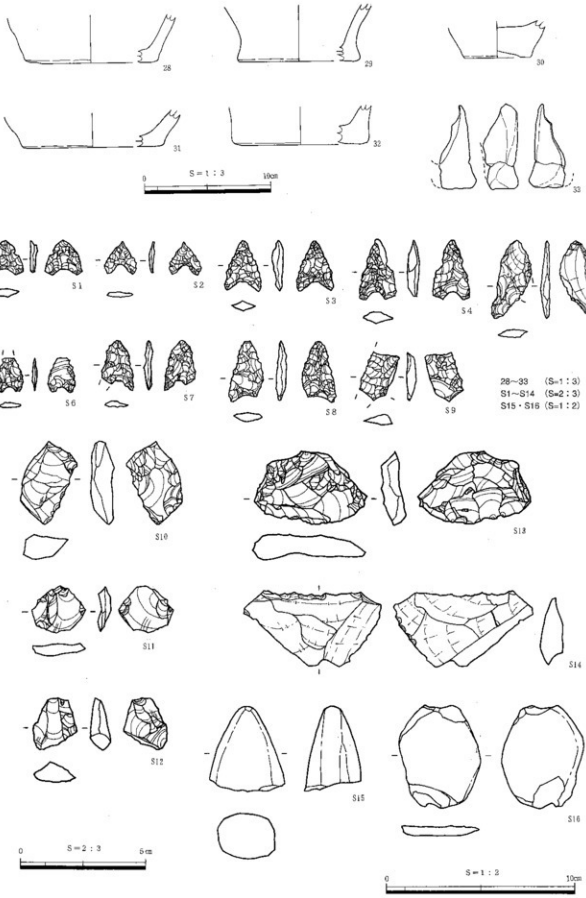
１区Ｇ26グリッドに位置する。調査区外に広がっており、規模・形状については明らかでないが、長径1.6m程度の楕円形を呈すると思われる。埋土は灰色土で、拳大程度の礫を多量に含んでいた。埋土中からは縄文時代後期の粗製深鉢の口縁部片（34）が１点出土している。（濵）

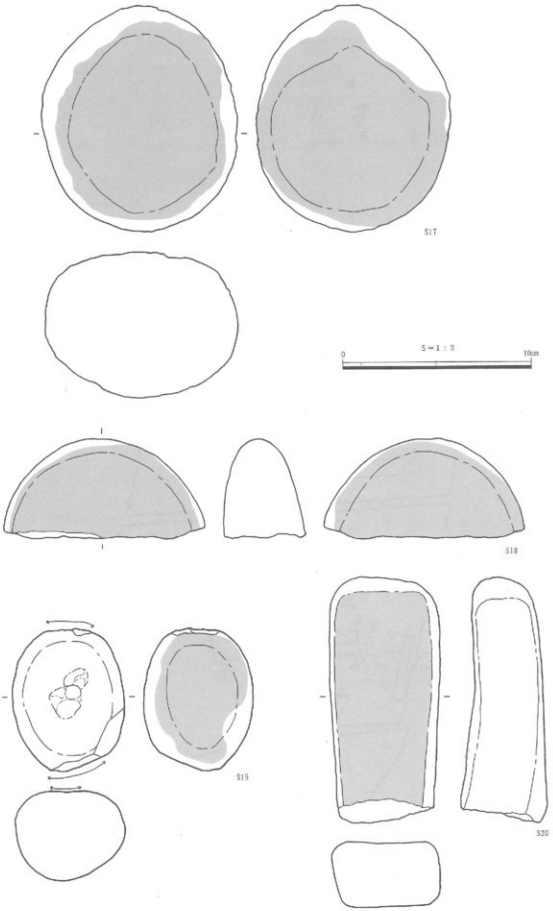
ＳＫ02（第54図）

１区Ｅ25グリッドに位置する。平面形は不整な楕円形を呈す浅い土坑状の遺構で、長径0.8m、短径0.43m、深さ0.03mを測る。埋土は灰色粘土で、炭化物を少量含んでいた。埋土中には拳大の礫、縄文土器片が多く含まれていた。また、検出時、遺構の周辺にも拳大～人頭大の礫と縄文土器の広がりが認められ、この土坑に関連するものと思われる。本来、明確な掘り込みをもった遺構ではなく、窪地に土器・礫が溜まったものと推定される。

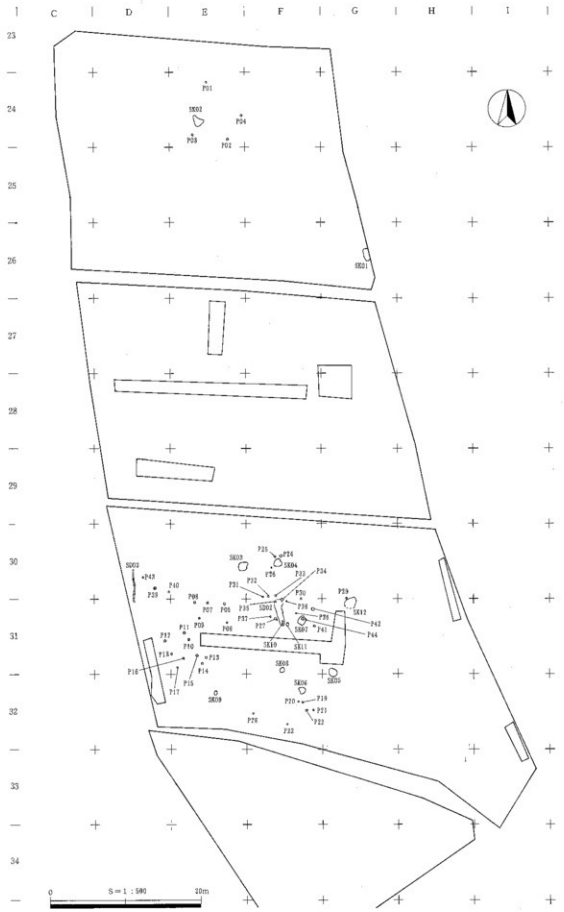


第49図　ＳＤ01出土遺物１


28
29
30
31
32
33
0 S=1:3 10cm
S1
S2
S3
S4
S5
S6
S7
S8
S9
28~33 (S=1:3)
S1~S14 (S=2:3)
S15・S16 (S=1:2)
S10
S13
S11
S14
S12
S15
S16
0 S=2:3 6cm
0 S=1:3 10cm



第51図　ＳＤ01出土遺物３



第52図　縄文時代後期中葉（第２遺構面）遺構配置

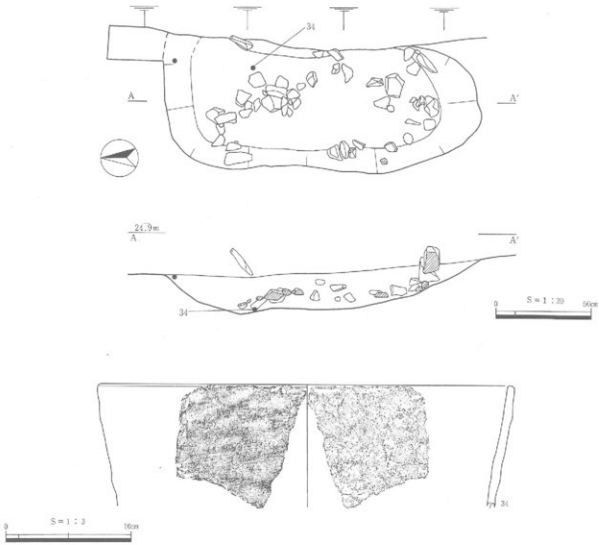
35～39が当遺構出土土器である。35・36は有文で、35は平行ないし斜行する沈線を施し、結節縄文を施文する深鉢。36は浅鉢で、平行沈線を施し、沈線内には細かな刻みが施される。37・39は粗製の深鉢。38は底部である。これらは彦崎KⅡ式古段階に相当すると思われる。（濱・濵田）

ＳＫ03（第55図）

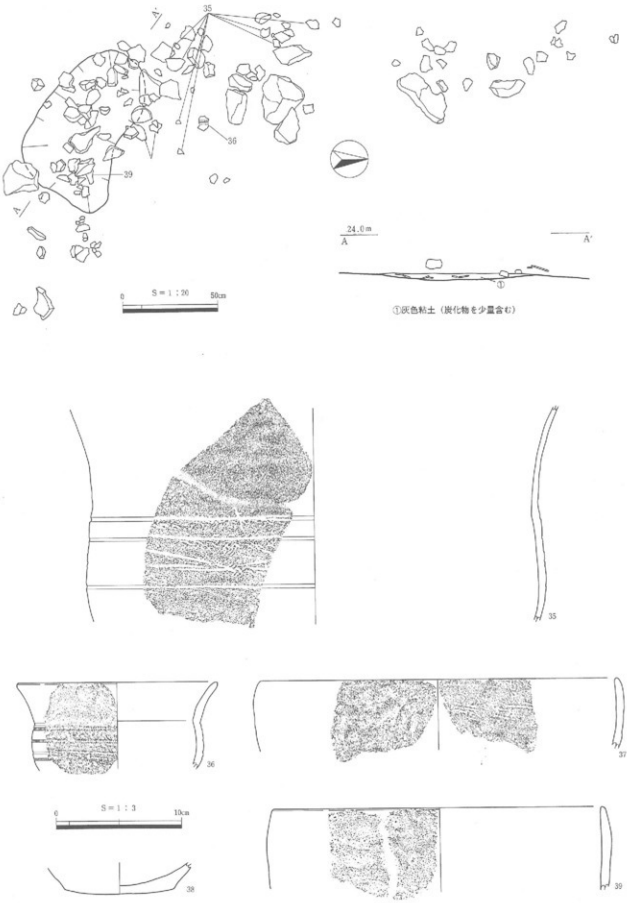
3区北側、E30グリッドとF30グリッドの境界に位置する。土層観察のため設けたトレンチの断面で10層を掘り込む当遺構を検出した。平面形は不整形を呈し、長軸1.29m、短軸1.18m、深さ0.23mを測る。断面形は皿状を呈し、埋土は灰色土である。土器・石器が出土しており、40は底部、S21はサヌカイト製の石鏃で凹基式である。（吉田）

ＳＫ04（第56図）

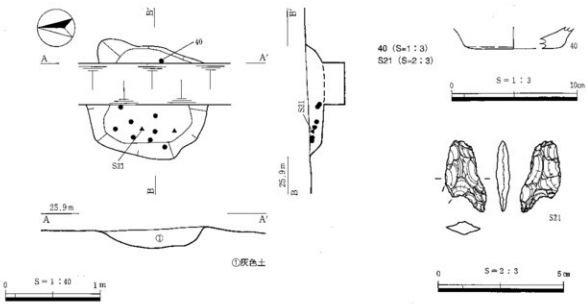
3区北側、F30グリッドに位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸1.11m、短軸1.05m、深さ0.17mを測る。底面形はほぼ円形で、断面形は逆台形である。埋土は多量の礫を含む暗褐色土と暗灰褐色土の2層に分かれ、ともに0.5～1cm程度の炭化物を含んでいる。埋土中からは縄文土器が多量に出土しており、石器も少量認められた。41・42・44は粗製の深鉢。45は有文土器の口縁部であろうか。43は浅鉢、46は底部である。S22は礫石器類2-0-2である。表裏両面に磨面をもち、上下両端を敲打に用いている。（吉田）



第53図　ＳＫ01および出土遺物



第54図　ＳＫ02および出土遺物



第55図　ＳＫ03および出土遺物

ＳＫ05（第57図）

３区Ｇ31～32グリッドにかけて位置する。平面形は長径1.26m、短径1.06mの楕円形を呈し、深さ0.2mを測る。埋土は0.5cm程度の炭化物を少量含む暗灰褐色土である。埋土中には10～20cmの礫が多く含まれており、多量の縄文土器片および石鏃が１点出土している。47・48は粗製の深鉢。49は沈線による弧状・クランク状の文様、50は口縁部に２条の沈線が施される。S23はサヌカイト製の石鏃で、凹基式である。（濱）

ＳＫ06（第58図）

３区の南側、Ｆ32グリッドに位置する。検出時の平面形は不整形を呈し、長軸1.02m、短軸0.83m、深さ0.13mを測る。断面形は皿状を呈し、埋土は黄灰褐色土である。埋土中からほぼ完形の浅鉢（51）が出土している。（吉田）

ＳＫ07（第59図）

３区Ｆ31グリッドに位置する。平面形は長径1.2m、短径0.93mの不整形な楕円形を呈し、深さ0.15mを測る。埋土は炭化物を含む暗灰色土である。埋土中には10～20cmの礫が含まれており、口縁部に２条の沈線が施された土器（52）が出土している。すぐ東側に位置するＳＫ17は弥生時代後期の土坑で、当遺構とは関係ないものである。（濱）

ＳＫ08（第60図）

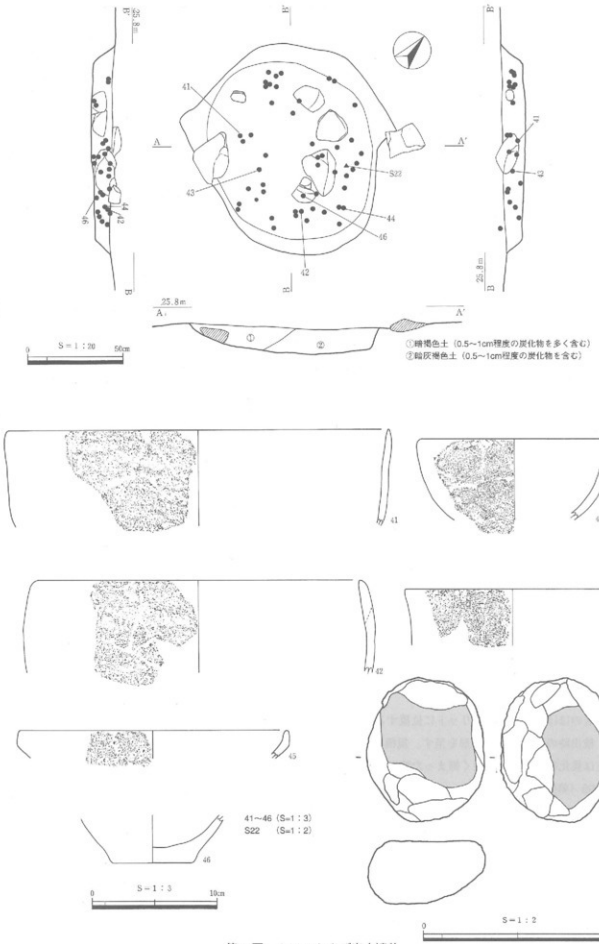
３区のほぼ中央、Ｆ31グリットに位置する。後世に削平を受けていることから、本来の形態・規模は不明である。検出時の平面形は楕円形を呈す。規模は長軸0.72m、短軸0.61m、深さ0.15mを測り、西側に低い段をもつ。埋土は炭化物を少量含む硬く締まった暗灰褐色土で、遺物は出土していない。（吉田）

ＳＫ09（第60図）

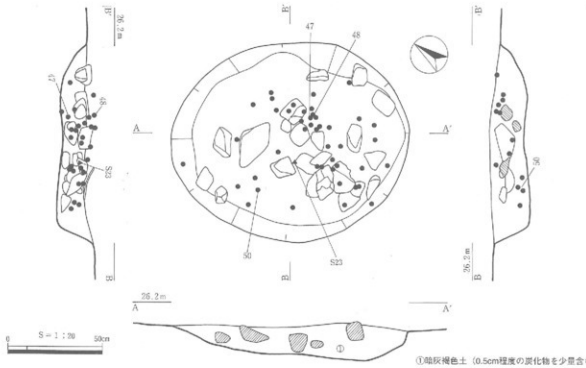
３区の南西側、Ｅ32グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.54m、深さ0.10mを測る。断面形は皿状であり、埋土はやや締まりの弱い淡褐色土である。遺物は出土していない。後世に削平を受けていることから、本来の形態・規模は不明である。（吉田）

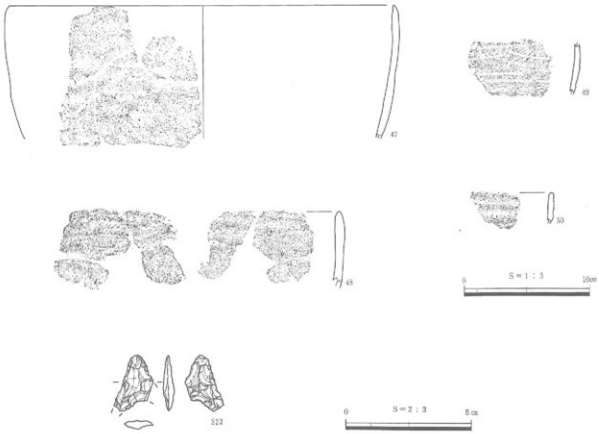
ＳＫ10（第60図）

３区の東側、Ｇ31グリッドに位置する。遺構の南側は攪乱によって削平されている。検出時の平面形は不整形を呈し、上縁部は長軸1.56m、短軸1.34mを測り、深さは0.09mと浅い。埋土は暗褐色土で、遺物は出土していない。（吉田）

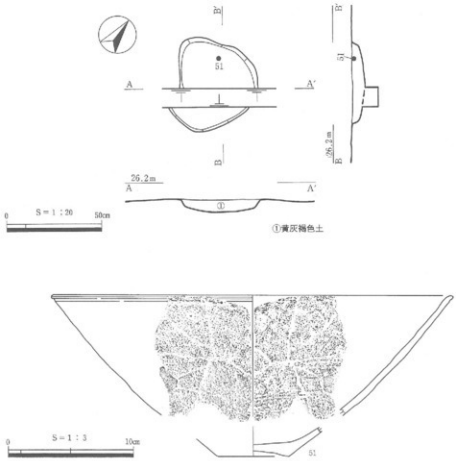


第56図　ＳＫ04および出土遺物





第57図　ＳＫ05および出土遺物



第58図　ＳＫ06および出土遺物

ＳＫ11（第60図）

３区のほぼ中央、Ｆ31グリッドに位置し、ＳＤ02を切り込む形で検出された。検出時の平面形は楕円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.79m、深さ0.14mを測る。底面中央部はやや盛り上がり、埋土は暗灰褐色土である。遺物は出土していない。（吉田）

ＳＫ12（第60図）

３区のほぼ中央、Ｆ31グリッドに位置し、遺構の西側にＳＤ02、ＳＫ10、東側にＳＫ07がある。平面形・断面形・規模はＳＫ12とよく似ている。平面形は楕円形を呈し、長軸1.15m、短軸0.93m、深さ0.27mを測る。底面中央部は盛り上がり、北側部分が深く、起伏している。埋土は暗灰褐色土で、遺物は出土していない。（吉田）

ＳＤ02（第61図）

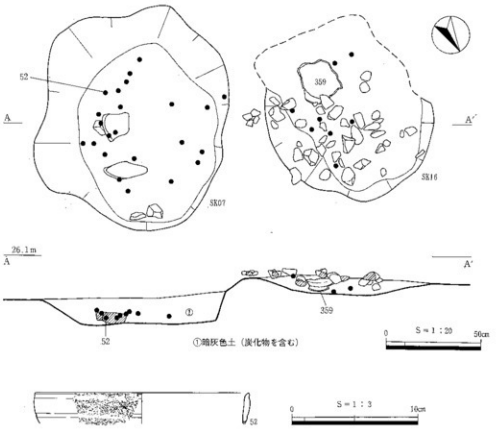
３区Ｆ31グリッドに位置する。南北方向に延びる溝状の遺構である。10層上面で検出された。長さ3.4m以上、幅約0.35m、深さ0.4～0.8mを測る。本来、さらに北側に延びると思われる。底面の高低差より、流走方向は南から北方向と思われる。縄文土器小片が数点出土しているが、図化することはできなかった。（吉田）

ＳＤ03（第62図）

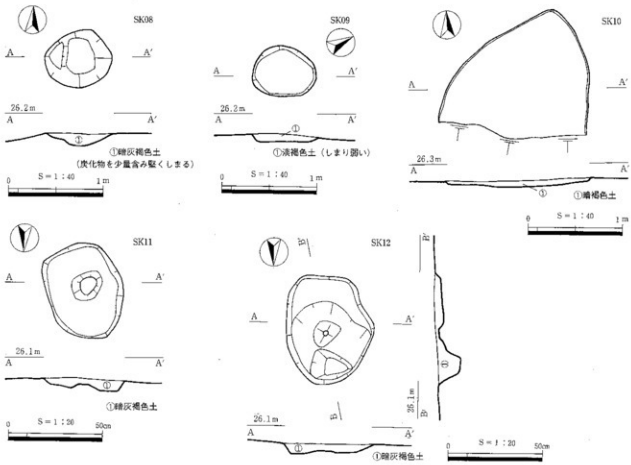
３区の北西側、Ｄ30グリッドで検出した溝状遺構である。南北方向に直線的に延びている。長さは3.45m、幅は約0.25m、深さは約0.10mを測り、埋土は淡灰褐色土である。北側、南側の両端を削平されているため、本来の長さは不明である。遺物は出土していない。（吉田）

ピット（第52図、表１）

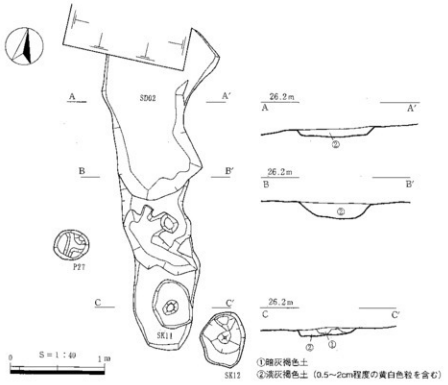
１・３・４区で検出されており、そのほとんどが３区に集中している。１区のピットは縄文時代後期中葉のＳ



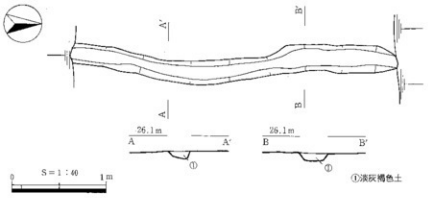
第59図　ＳＫ07・ＳＫ16およびＳＫ07出土遺物



第60図　ＳＫ08・ＳＫ09・ＳＫ10・ＳＫ11・ＳＫ12



第61図　ＳＤ02



第62図　ＳＤ03

K02と同一面で、３・４区のピットは10層上面で検出されたことから、縄文時代後期中葉の時期と判断した。円形で径0.2～0.3m程度のものが大半を占める。これらに竪穴住居跡もしくは掘立柱建物跡と判断されるような配列は確認できなかった。遺物を伴うピットもあるが、いずれも土器小片が少量出土した程度で、それらを図化することはできなかった。（濵）

ピット名	地区	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	時代	備考
P01	1区	E24	0.27	0.21	0.21		縄文時代後期中葉	
P02	1区	E24	0.28	0.25	0.1		縄文時代後期中葉	
P03	1区	E24	0.26	0.21	0.24		縄文時代後期中葉	
P04	1区	E24	0.3	0.18	0.1		縄文時代後期中葉	
P05	3区	E31	0.4	0.28	0.16		縄文時代後期中葉	
P06	3区	E31	0.16	0.13	0.15		縄文時代後期中葉	
P07	3区	E31	0.26	0.25	0.14		縄文時代後期中葉	
P08	3区	E31	0.32	0.29	0.17		縄文時代後期中葉	
P09	3区	E31	0.27	0.24	0.16		縄文時代後期中葉	
P10	3区	E31	0.29	0.26	0.12		縄文時代後期中葉	
P11	3区	E31	0.32	0.27	0.15		縄文時代後期中葉	
P12	3区	D31	0.28	0.26	0.23		縄文時代後期中葉	
P13	3区	E31	0.27	0.22	0.11		縄文時代後期中葉	
P14	3区	E31	0.28	0.25	0.27		縄文時代後期中葉	
P15	3区	E31	0.33	0.28	0.08		縄文時代後期中葉	
P16	3区	E31	0.26	0.24	0.11		縄文時代後期中葉	
P17	3区	E31	0.27	0.26	0.18		縄文時代後期中葉	
P18	3区	E31	0.27	0.23	0.1		縄文時代後期中葉	
P19	3区	F32	0.23	0.21	0.11		縄文時代後期中葉	
P20	3区	F32	0.15	0.13	0.08		縄文時代後期中葉	
P21	3区	F32	0.17	0.15	0.07		縄文時代後期中葉	
P22	3区	F32	0.42	0.33	0.09		縄文時代後期中葉	
P23	3区	F32	0.2	0.17	0.08		縄文時代後期中葉	
P24	3区	F30	0.32	0.27	0.04		縄文時代後期中葉	
P25	3区	F30	0.27	0.22	0.05		縄文時代後期中葉	
P26	3区	F30	0.2	0.18	0.04		縄文時代後期中葉	
P27	3区	F31	0.36	0.33	0.17		縄文時代後期中葉	
P28	3区	E32	0.22	0.19	0.17		縄文時代後期中葉	
P29	3区	G30	0.24	0.24	0.05		縄文時代後期中葉	
P30	3区	F30	0.3	0.27	0.37	土器片	縄文時代後期中葉	
P31	3区	F30	0.26	0.21	0.06		縄文時代後期中葉	
P32	3区	F30	0.34	0.33	0.14		縄文時代後期中葉	
P33	3区	F30	0.27	0.24	0.15		縄文時代後期中葉	
P34	3区	F30	0.5	0.43	0.37		縄文時代後期中葉	
P35	3区	F30	0.34	(0.17)	0.14		縄文時代後期中葉	
P36	3区	F31	0.47	0.39	0.33		縄文時代後期中葉	
P37	3区	F31	0.33	0.28	0.28		縄文時代後期中葉	
P38	3区	F30	0.18	(0.16)	0.04		縄文時代後期中葉	
P39	3区	D30	0.46	0.28	0.25		縄文時代後期中葉	
P40	3区	D30	0.17	0.14	0.08		縄文時代後期中葉	
P41	3区	F31	0.29	0.24	0.3		縄文時代後期中葉	
P42	3区	F31	0.41	0.35	0.32		縄文時代後期中葉	
P43	3区	D30	0.28	(0.24)	0.13	土器片	縄文時代後期中葉	
P44	3区	F31	0.36	0.25	0.14		縄文時代後期中葉	

表1　第2遺構面（縄文時代後期中葉）ピット一覧

ピット名	地区	グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	出土遺物	時代	備考
P45	1区	F25	0.36	0.36	0.2	土器(53)	縄文時代晩期後葉	
P46	1区	E23	0.29	0.19	0.1		縄文時代晩期後葉	
P47	1区	D23	0.19	0.17	0.17		縄文時代晩期後葉	

表2　第3遺構面（縄文時代晩期後葉）ピット一覧

4．第３遺構面（縄文時代晩期後葉）の遺構と遺物

１区および２区の南側において８層除去後、９層上面で検出したのが第３遺構面（第63図）である。遺構の数は土坑１基、ピット３基である。しかし、削平著しい２～４区では確認できなかった。また、１区および２区の北側に広がる8層中から多量の突帯文土器が出土したが、２区の南側、３・４区では出土していない。8層から出土した突帯文土器は、二次堆積層中出土ではあるが、比較的一括性の高い資料といえる。また、当該期の問題のひとつに、突帯文土器と遠賀川系土器の共伴関係がある。しかし、今回の調査では、８層中より遠賀川系土器は出土していない。（濵田）

ＳＫ13（第64図）

１区Ｆ25グリッド゛に位置する。平面形は長径0.82m、短径0.66mの楕円形を呈し、深さ約0.2mを測る。埋土は２層に分層できる。埋土中からは縄文土器が少量出土しているが、いずれも小片で、図化することはできなかった。胎土、胴部片の調整から、縄文時代晩期の土器と思われる。これらの土器片および検出面から縄文時代晩期後葉の遺構と判断した。（濵田）

ピット（第64図、表２）

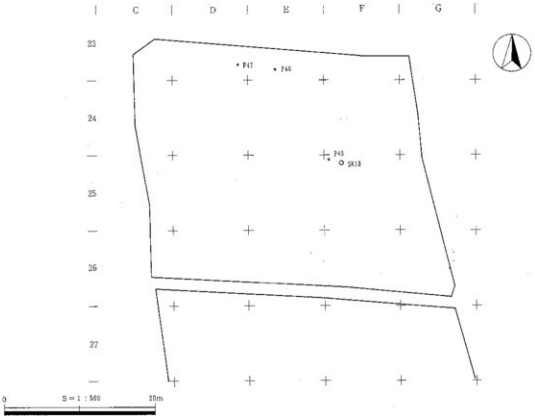
１区において３基検出された。0.2～0.35mの円形を呈し、埋土はいずれも暗灰色系である。検出面および周辺でみられる遺物から、縄文時代晩期後葉と判断した。Ｐ45からは粗製深鉢の口縁部片（53）が出土している。

（濵）

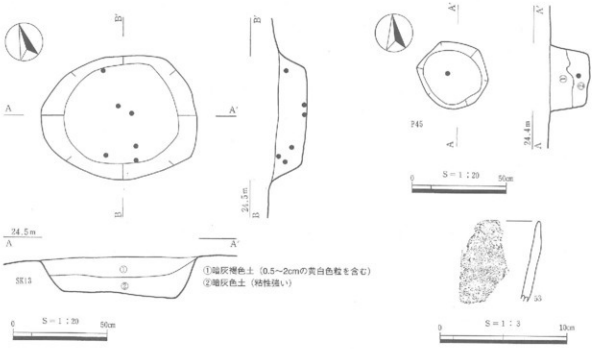
5．包含層出土の遺物

a　土器

ここでは、今回の調査で包含層から出土した縄文時代中期から晩期の土器について概略する。中期の土器は各層に少量が混在する状況で、中期の包含層は確認できなかった。後期前・中葉の土器は10・９層を主体に、これ



第63図　縄文時代晩期後葉（第３遺構面）遺構配置



第64図　ＳＫ13・Ｐ45およびＰ45出土遺物

より新しい晩期以降の堆積からも少量出土している。晩期後葉の土器は、８層からまとまって出土しており、弥生時代以降の堆積からも少量出土している。８層については、後期の土器が少量混ざるものの新しい土器を含まないことから、ほぼ単純層の様相を呈している。土器の特徴については、観察表を第８節の後に掲載しているので、ここでは詳述しない。

〔縄文時代中・後期の土器〕

縄文時代の堆積である11層、10層、９層、８層中および、弥生時代～中近世に遺物を包含する堆積から縄文時代中・後期の土器が出土した。11～９層における遺物の出土状況については、下層ほど古い時期の土器が増加する傾向にあったが、それぞれ数型式の土器が混在していた。そのため、各包含層から出土した土器のうち、最も新しい型式の土器をもって包含層の上限を決定した。

また、多くが小片であり、さらに著しく磨滅したものが多数を占めるため、全ての有文土器について型式を特定することは困難であった。以下、取り上げ層位ごとに説明を加える。

・11層出土の中・後期の土器（第65図）

54は深鉢の口縁部装飾で、中空である。沈線文で飾られ、背面には貫通孔が施されている。中期末の北白川Ｃ式や後期初頭の中津式にこのような口縁部装飾が認められる。55・56は横方向の沈線と縄文が施される。これらは後期前葉まで下る可能性がある。57～60は粗製の深鉢ないし鉢で、口縁部が肥厚気味である。当包含層は中期末から後期前葉の堆積と考えられる。

・10層出土の中・後期の土器（第66・67図）

61～68・79～81は沈線文が施される口縁部片である。61は内湾する口縁部で、半截竹管状工具による平行沈線と二枚貝の背面による圧痕が施されている。62～64も内湾する口縁部で、沈線文が施される。63の口縁部下方には低い段が形成される。65は２本の沈線間を刻む。66は二本の横方向および垂下する沈線文が施される。67は沈線による窓枠状の区画が施されている。68は口縁端部にも沈線文を施す。79～81は口縁部内面に３本からなる平行沈線が施されている。69～78は沈線文で構成される胴部片である。69は平行沈線に波状の沈線が組み合わさる。70・71は沈線により扁平な楕円が描かれる。72は楕円と山形の沈線により眼鏡状の文様が構成されている。73・74には三角状の文様が施される。また、76は３本の沈線、77は４本の沈線が施される。78は沈線内に刺突が加わ

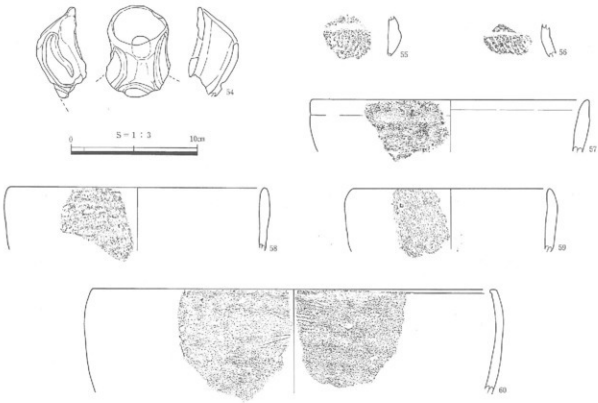
る。82～86は磨消縄文が施される胴部片である。87～89も胴部片で、屈曲部に突帯、さらに刺突ないし刻目が施されている。90・91は突帯がめぐる口縁部片で、91には刺突が施される。92も口縁部片で、棒状工具により連続して刺突が施されている。93・94は注口土器の注口部で、93は注口部下方に円形の浮文が施される。95～107は粗製の深鉢で、砲弾形（95～102）と頸部が緩やかに屈曲するもの（103～107）がある。108～126は底部片で、126は凹底である。このうち、61～63・65・68・70・71・87～89は中期後半に位置づけられるだろう。61・62・63は船元Ⅲ式、65・68・70・71・87～91は船本Ⅳ式～北白川Ｃ式併行と考えられる。72～74は後期初頭、中津式と考えられる。79～81は後期中葉、北白川上層式である。64・78は彦崎ＫⅡ式古段階まで下るかもしれない。いずれにしても後期中葉の範疇で捉えられる堆積である。

・9層出土の中・後期の土器（第69図）

土器の出土量は少ない。127は沈線文と刺突が施される。128は沈線を弧状に施し、口縁部には縄文を施文、内外面には二枚貝による調整が施されている。129は二枚貝の腹縁部による文様、130は沈線文が施される胴部片。127・128は中期後半、129・130は彦崎ＫⅡ式新段階に相当する。

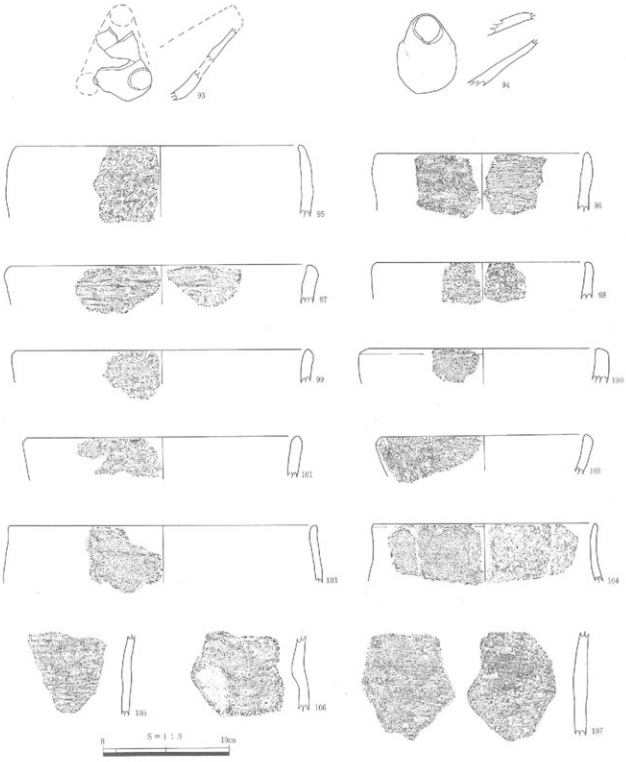
・8層および4・5層出土の中・後期の土器（第70・71図）

第70図は晩期の堆積8層、第71図は弥生時代以降の堆積4・5層から出土した中・後期の土器である。132は口縁部の装飾部と思われる。沈線文と、両側面には円錐状のくぼみが施されている。後期中葉か。131・134～137・143～146・149・150には沈線文が施される。131・143～146・150は中期後半にさかのぼるだろう。149は中津式。134・136は後期中葉、北白川上層式に相当する。137は彦崎ＫⅡ式である。133は胴部片で竹管状工具による刺突文が施される。中期後半にさかのぼるかもしれない。138は浅鉢の胴部か。細い結節縄文が施文されており、彦崎ＫⅡ式と考えられる。139は小型の浅鉢で、一部に赤色顔料が付着している。口縁部には突帯を貼つけている。8層から出土しており晩期後葉の可能性もあるが、ここで報告しておく。147・148は磨消縄文が施される胴部片。148は彦崎ＫⅡ式に相当する。140は注口土器。142・152は粗製の深鉢口縁部。151も深鉢の口縁部であるが、口縁部が屈曲し垂直に立ち上がる。彦崎ＫⅡ式であろう。

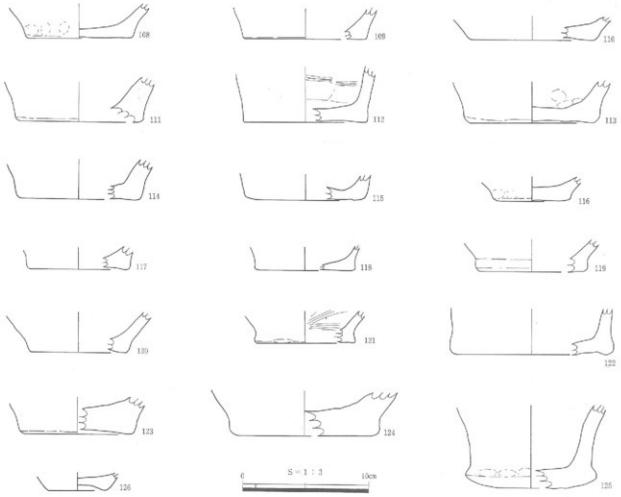


第65図　11層出土遺物（縄文時代中・後期土器）

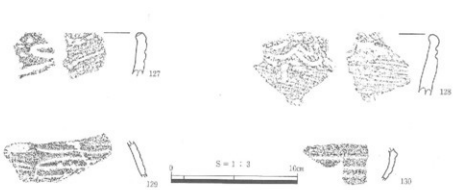
第66図　10層出土遺物（縄文時代中・後期土器）1



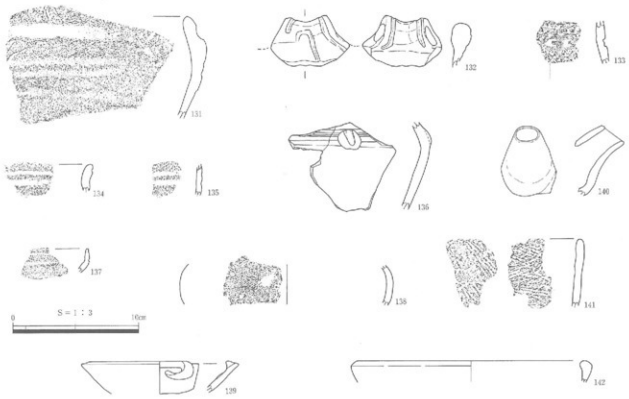
第67図　10層出土遺物（縄文時代中・後期土器）2



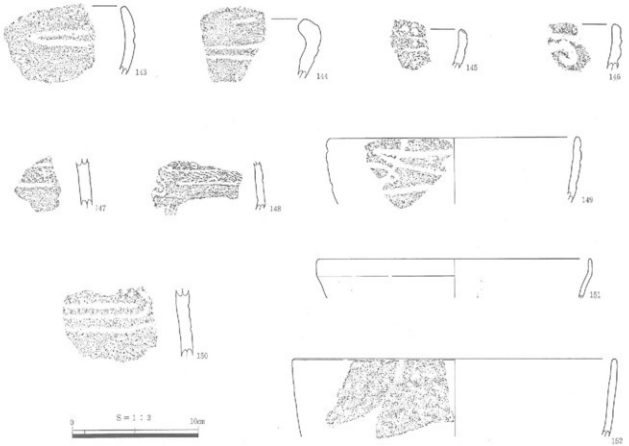
第68図　10層出土遺物（縄文時代中・後期土器）3



第69図　9層出土遺物（縄文時代中・後期土器）



第70図　8層出土遺物（縄文時代中・後期土器）



第71図　5～3層ほか出土遺物（縄文時代中・後期土器）

〔縄文時代晩期後葉の土器〕

第72～78図は８層、第79図は弥生時代、中・近世の包含層、および排土中からの出土である。８層中には、中・後期にさかのぼる土器が少量混在していたが、その他は、晩期後葉に位置づけられる土器ばかりである。以下、器種ごとに分類しながら概観する。この一群の時間的位置づけについては、「第９節 考察 １．古市河原田遺跡出土の突帯文土器について」で検討を加えたい。

・深鉢（第72～76・79図）

深鉢は、口縁部に突帯のつく一条突帯文、さらに体部にも突帯がつく二条突帯文に大別する。さらにこれらを突帯の刻目の有無で各２分類する。このうち、一条刻目突帯文、一条無刻目突帯文については、口縁端部に刻目を施し突帯が口縁端部から突帯の幅一つ程度下がった位置につくＡ類、口縁端部を刻まず口縁端部から突帯の幅一つ程度下がった位置につくＢ類、ほぼ口縁端部に接する位置につくＣ類、口縁に接してつくＤ類、ＩＩ縁端部から垂れ下がるようにつくＥ類とした。

一条刻目突帯文Ａ類・・・・・第72図153～170、第79図322～324

器形には、肩部から口縁部が外反気味に立ち上がるもの（153～156・164・168）と、砲弾形を呈するもの（157・159・165・169・170・323・324）がある。

一条刻目突帯文Ｂ類・・・・・第72図171～第73図207、第79図325～332

器形には、肩部から口縁部が外反気味に立ち上がるもの（194・198）と、砲弾形を呈するもの（171～174・177・178・180・185～190・325・327～329・331・332）があるが、後者が主体的である。

一条刻目突帯文Ｃ類・・・・・第73図208～第74図226

器形には、肩部から口縁部が外反気味に立ち上がるもの（208・223～225）と、砲弾形を呈するもの（209～212・214・216～219・222・226）があるが、後者が主体的である。

一条刻目突帯文Ｄ類・・・・・第74図227～第75図244、第79図331～337

器形には、肩部から口縁部が外反気味に立ち上がるもの（241）と、砲弾形を呈するもの（227～237・239・240・242～244）があるが、後者が主体的である。

一条刻目突帯文Ｅ類・・・・・第75図245～247

器形は全て砲弾形を呈す。

一条刻目突帯文その他・・・・第76図264～267、第79図338・339

いずれも口縁端部を欠損するが、口縁端部に突帯がほぼ接するか、完全に接するＣ・Ｄ類に相当する刻目突帯文であろう。

一条無刻目突帯文Ｂ類・・・・第75図248～256

一条無刻目突帯文に口縁端部を刻むＡ類は認められない。器形は不明なものを除くと、全て砲弾形を呈す。

一条無刻目突帯文Ｃ類・・・・第75図257・258

器形がわかるものはないが、大方、砲弾形を呈するものと思われる。

一条無刻目突帯文Ｄ類・・・・第75図259～263

器形には、肩部から口縁部が外反気味に立ち上がるもの（261）と、砲弾形を呈するもの（259・262・263）がある。

一条無刻目突帯文その他・・・第76図268・269

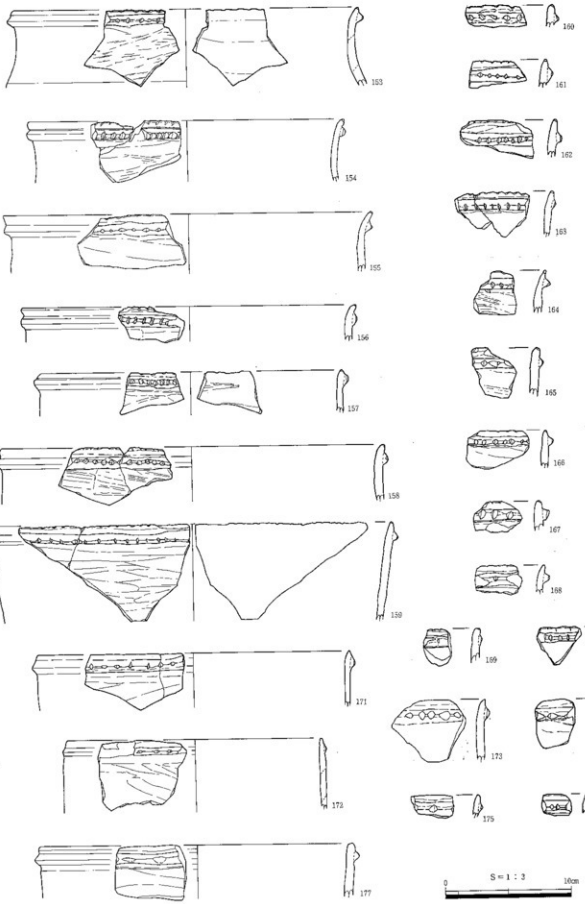
口縁端部を欠損する無刻目突帯文で、いずれも突帯が口縁端部に接するか接しないかのＣ・Ｄ類と思われる。

二条刻目突帯文・・・・・・・第76図270・271、第79図340

二条無刻目突帯文・・・・・・第76図272

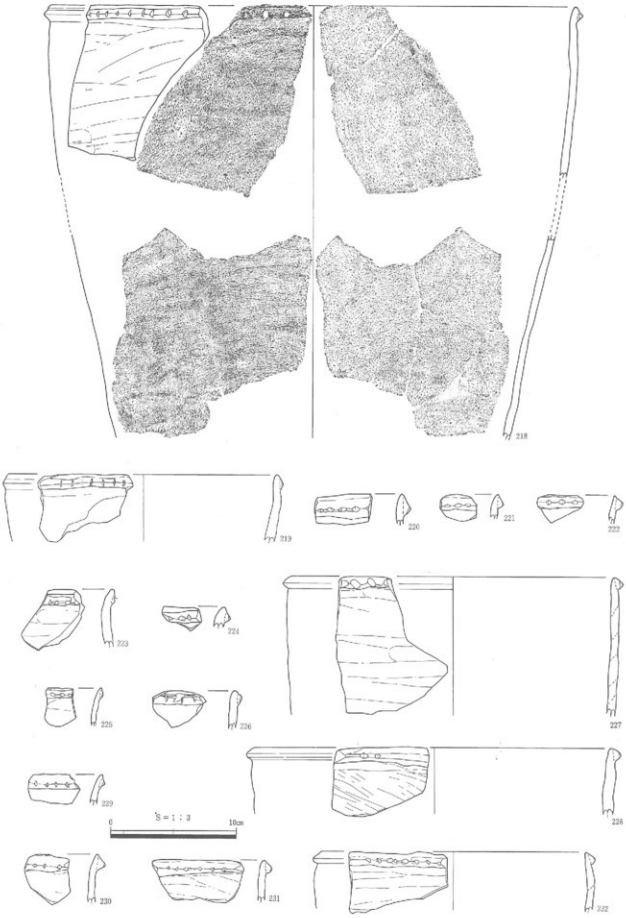
・壺（第76図）

壺は、口縁部に突帯が施されるＡ類、口縁部が短く屈曲するＢ類に大別できる。

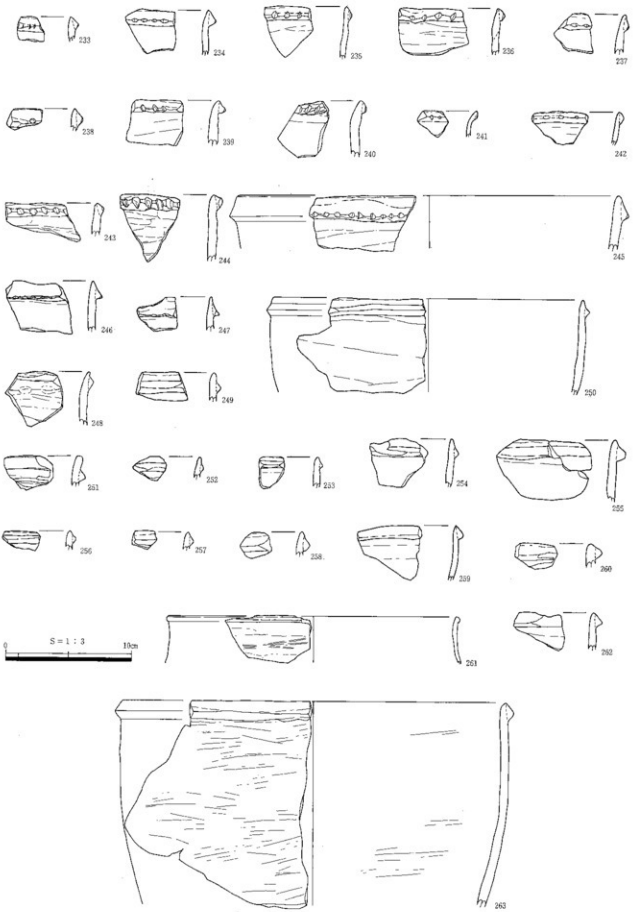


第72図　8層出土遺物（縄文時代晩期土器）1

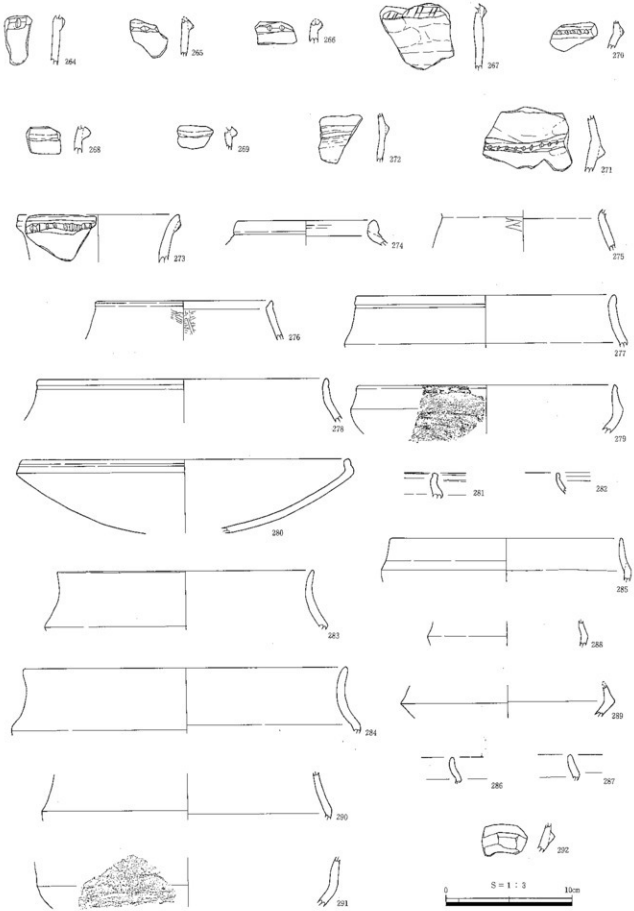
第73図　8層出土遺物（縄文時代晩期土器）2



第74図　8層出土遺物（縄文時代晩期土器）3



第75図　8層出土遺物（縄文時代晩期土器）4



第76図　8層出土遺物（縄文時代晩期土器）5

壺Ａ類・・・・・・・・・・・第76図273

273がこれに相当する。口縁部には刻目突帯が施されている。

壺Ｂ類・・・・・・・・・・・第76図274～276

274は短い口縁部がほぼ垂直に立ち上がる。275は口縁端部を欠損するが、276のように口縁部が短く外屈すると思われる。

・浅鉢（第76・77・79図）

浅鉢は、口縁部が内傾するＡ類、外傾するＢ類、頸部をもたず椀形、鉢形、皿形を呈す類を一括しＣ類とした。Ａ類については、口縁部の長い１類、口縁部の短い２類に分け、口縁部の形態的特徴から、口縁端部が肥厚ないし口縁端部直下に沈線が施され玉縁状を呈すものをａ類、口縁部になにも施されないものをｂ類、口縁部が波状を呈すものをｃ類とする。また、Ｂ類は口縁部が外反しながら外に開くものを１類、口縁部が「く」字状に屈曲するものを２類とする。さらにＣ類は、口縁部内面に沈線が施されるものを１類、なにも施されないものを２類とする。

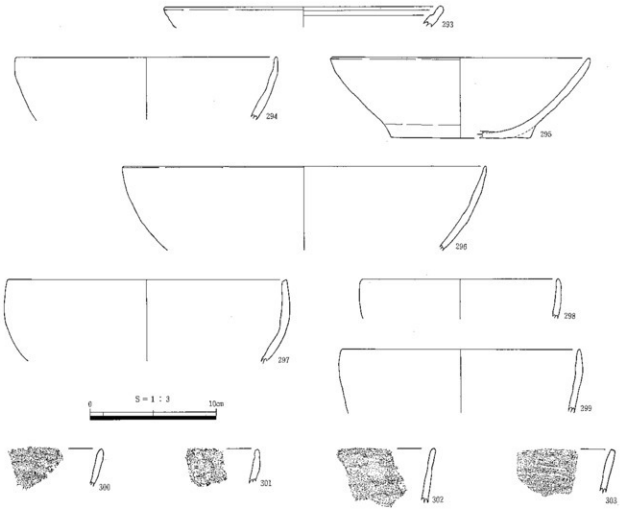
浅鉢Ａ１ａ類・・・・・・・・第76図277・278、第79図341

浅鉢Ａ１ｂ類・・・・・・・・第76図283・284

浅鉢Ａ１ｃ類・・・・・・・・第79図343

浅鉢Ａ１類その他・・・・・・第76図290

口縁部を欠損するため、口縁端部の形状は不明である。



第77図　８層出土遺物（縄文時代晩期土器）６

浅鉢Ａ２ａ類・・・・・・・・第76図279～282

280は他に比べ口縁部がさらに短い。

浅鉢Ａ２ｂ類・・・・・・・・第76図285～287

浅鉢Ａ２類その他・・・・・・第76図288・289

口縁部を欠損するため、口縁端部の形状は不明である。

浅鉢Ｂ１類・・・・・・・・・第76図291・292

291は口縁部を欠損するため、口縁端部の形状は不明である。292は小片のため、全形は不明であるが、胴部に突帯が施されている。この突帯が波状を呈すと思われることから、平面形が方形を呈す口縁波状の浅鉢の可能性もあろう。

浅鉢Ｂ２類・・・・・・・・・・第79図342

口縁部は水平を呈すと思われるが、突起が施されている。

浅鉢Ｃ１類・・・・・・・・・・第77図293

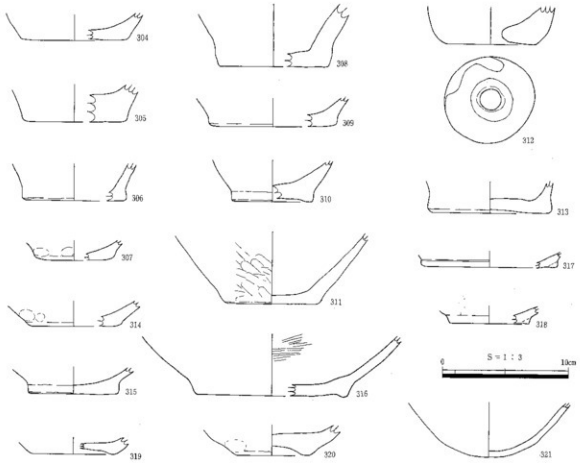
口縁部内面に一条の幅の広い沈線が施される。

浅鉢Ｃ２類・・・・・・・・・・第77図294～303

粗製の鉢ないし深鉢のようなものも本類に含めた。295は口縁部から底部まで遺存している。底部に粘土帯を貼り付けることで平底ないし高台状に成形する。

・底部片（第78図）

平底（304～318）が大多数を占めるが、凹底（319・320）、丸底（321）も少量出土している。312は分厚い作りで、底部に焼成前に穿孔が施されている。また、316～318は、浅鉢Ｃ２類とした295の底部と同様の形態であ



第78図　８層出土遺物（縄文時代晩期土器）７

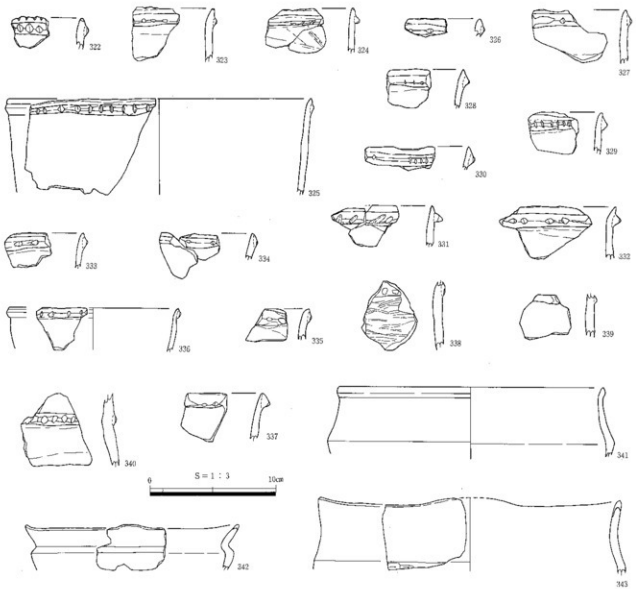
ることから、浅鉢の底部片と思われる。また、胴部への立ち上がりの角度から、304～313は深鉢、314・315は浅鉢と考えることもできる。（濱田）

b　土製品・石製品（第80図）

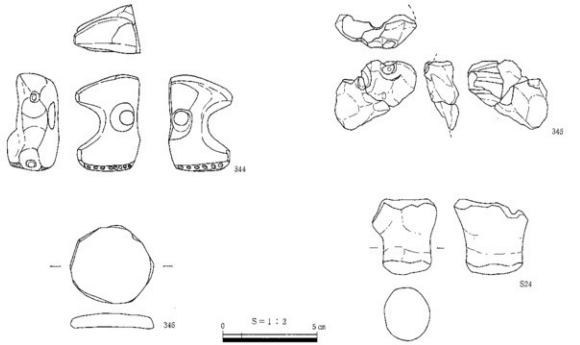
344は10層中から出土した土製品で、土偶と思われる。下側と考えた側にのみ表裏に刺突文を施すこと、この側は平たく仕上げてあることから上下が窺われる。また、下方は背面が肥厚しており、臀部と思われる。頭部、足部は表現されていないが、腕部の先端と腰部の側面には刺突が施されている。また、胸部は貫通孔により表現されている。345は5層出土で、胎土などから縄文時代のものと判断できる土製品である。短い縦線と刺突が施されており、刺突部は膨らみをもつことから乳房を表現しているものと考えられ、土偶の胸部と思われる。短い縦線は体の中心を示す正中線であろうか。また、剥離した側は、接合痕で剥離しており、一部に棒状の痕跡が窺われる。346は8層出土で、土器片を円形に加工しており、晩期後葉の土製円盤と思われる。また、S24は10層出土で、石英を加工した石製品である。一見、足形を呈しており、岩偶の可能性を指摘しておきたい。（濱田）

c　石器（第81～102図）

ここでは遺構外から出土した縄文時代の石器ついて報告する。9～11層出土の石器を後期、8層出土の石器を晩期、他の包含層出土の石器は時期不明として、時期ごとに各器種について報告する。



第79図　5～3層ほか出土遺物（縄文時代晩期土器）



第80図　土製品・石製品

なお、石鏃は基部形態により凸基式、平基式、凹基式に分類した。また、磨石、凹石、敲石類など礫石器については、各要素をあわせもつものが多く、以下のように数字を用いて表現する。要素をもつ面のうち、一面のみのものを1、複数もつものを2、要素をもたないものを0として、左から磨石－凹石－敲石の順に表記する。

〔縄文時代後期〕

第81図S25～S28は石鏃である。S25は黒曜石製で、他はサヌカイト製である。S25は凸基式、S26・S27は凹基式である。S28は基部が欠損しており不明である。第87図S118・S119・S121は楔形石器である。いずれも黒曜石製である。第90図S140は撥形の打製石斧である。第93図S154は磨製石斧の基部である。第94図S164～第96図S173は礫石器類である。S164・S166・S168は2-0-0、S167は2-1-2、S169・S171は2-1-0、S172・S173は2-0-1である。いずれも表裏両面とも磨面をもつ。S167は一部に赤色顔料が付着しており、顔料の錬成に使用されたものと思われる。この赤色顔料については蛍光X線分析を行っている。詳細は「第8節 自然科学分析　5．古市河原田遺跡出土石器に付着した赤色顔料の蛍光X線分析」に報告があり、水銀朱という結果を得ている。第95図S170・第102図S197・S198は石皿である。いずれも欠損しており、本来の形状は不明である。S198は残存するほぼ全面に磨面をもつ。第102図S199・S200は石錘である。いずれも両端を打ち欠いている。

〔縄文時代晩期〕

第82図S29～S37は石鏃である。S30～S32・S37は黒曜石製で、他はサヌカイト製である。S29～S33は凹基式、S34は平基式である。S35～S37は基部が欠損しており不明である。S38は加工痕のある剥片である。剥片の一側縁に剥離痕がみられる。第86図S120・S122は黒曜石製の楔形石器である。第87図S130はサヌカイト製のスクレイパーである。第90図S141～第91図S145は打製石斧である。S142は短冊形、その他は撥形である。S141は刃部

第81図　10層・9層出土遺物（石鏃）

裏面に擦痕を残す。第93図S155は磨製石斧である。第97図174～第101図S176は磨石・凹石類である。順に2-0-0、1-0-0、0-2-0である。

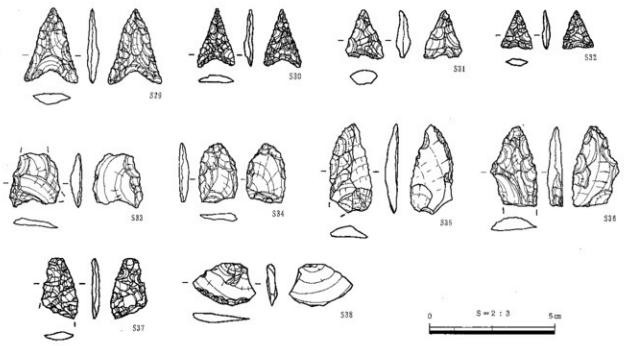
〔時期不明〕

第83図S39～第85図S117は石鏃である。S39～S86は黒曜石製で、S39～S71は凹基式、S72～S79は平基式、S80・S181は凸基式である。S82～S86は基部が欠損しており不明である。S87～S117はサヌカイト製で、S87～S108が凹基式、S109～S112が平基式、S113凸基式である。S114～S117は基部が欠損しており不明である。第87図S129は加工痕のある剥片である。黒曜石製である。S131～S133はスクレイパーである。S130～S132はサヌカイト製、S133は黒曜石製である。いずれも扁平な剥片の側縁を調整している。第86図S123～S128は楔形石器である。S123～S125がサヌカイト製、S126～S128が黒曜石製である。第88図S135、第89図S136～S139は石核である。いずれも黒曜石製である。第91図S146～第92図S153は打製石斧である。S146～S149・S152・S153は撥形、S150は短冊形である。第93図S156～S163は磨製石斧である。S157・S158は乳棒状、S160・S162は撥形、S163は短冊形を呈するものである。S159は刃部片である。S162・S163は部分的に磨られており、未製品と思われる。S161は小型の磨製石斧である。第97図S177～第101図S195は礫石器類。S177・S194の凹石の他は全て磨り面をもつ。S189～S191・S193～S195は磨石と凹石の要素をあわせもつ。S180・S192は磨石と敲石の要素をあわせもつ。磨石の多くは表裏両面に磨面をもつが、S179・S182・S184・S188といった比較的大型の製品は片面のみ磨面をもつものがみられる。S196は砥石である。角柱状を呈しており、側縁の磨面は面取りを行っている。第102図S200・S201は石錘である。いずれも両端を打ち欠いている。（濵）

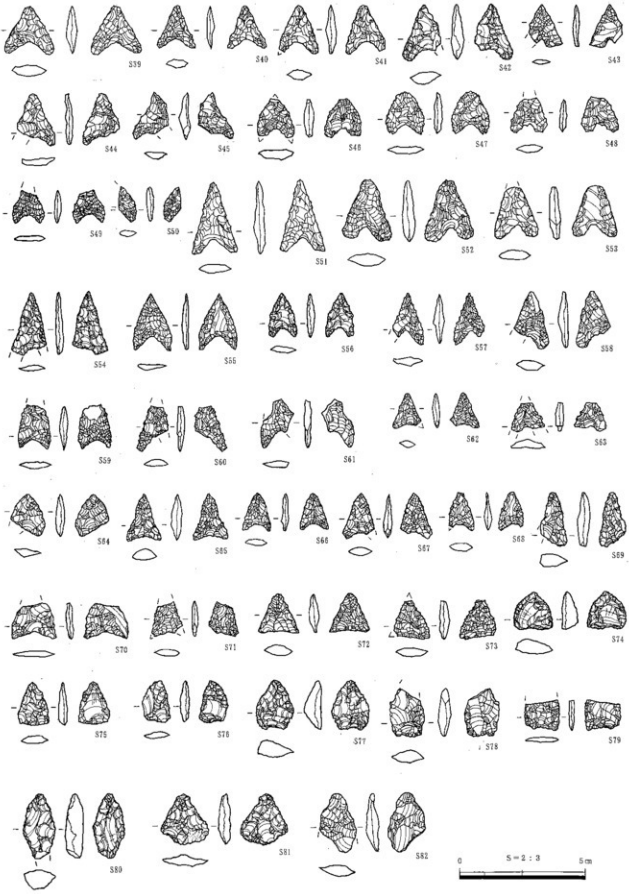
註　1）10層に包含される遺物を取り上げるさい、10層上面に形成された第2遺構面の遺物と分けて取り上げることができなかった場合がある。「第3節　5．包含層出土の遺物　10層出土の中・後期の土器」は、取り上げ時の層位に準じ、第2遺構面に帰属すると思われる遺物を分離していない。

このように、第1遺構面と第2遺構面との時間差については判然としない部分もあるが、3区においては、明らかに第1遺構面を第2遺構面の下で検出しており、前後関係にあることは確実である。

2）磨石、凹石、敲石などは各要素をあわせもつものが多く、今回の報告ではこれらを一括して礫石器と呼称する。

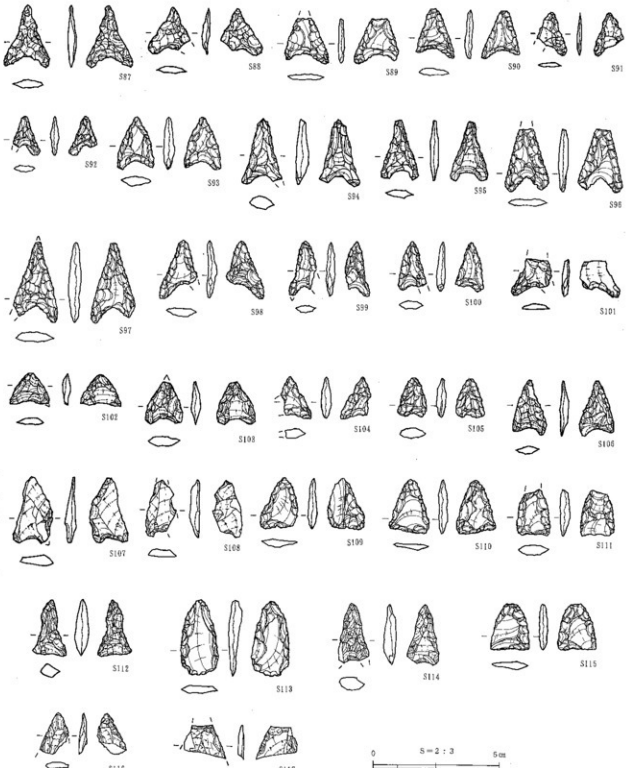


第82図　8層出土遺物（石鏃）

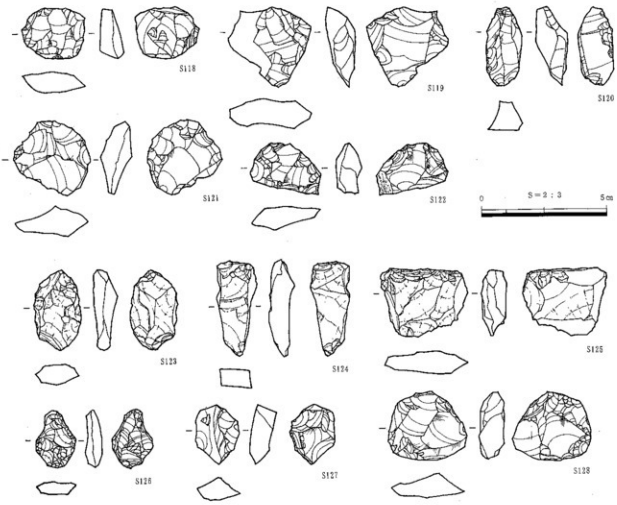


第83図　5～3層ほか出土遺物（石鏃）1

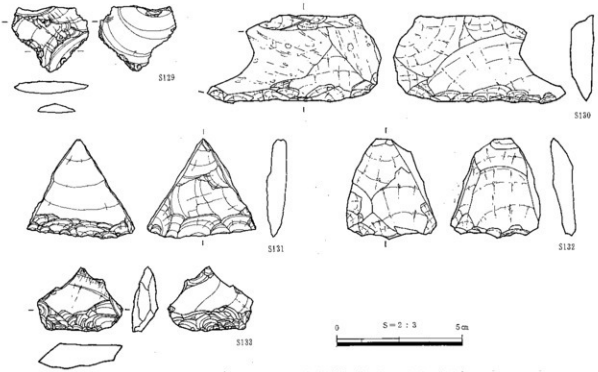
第84図　5～3層ほか出土遺物（石鏃）2



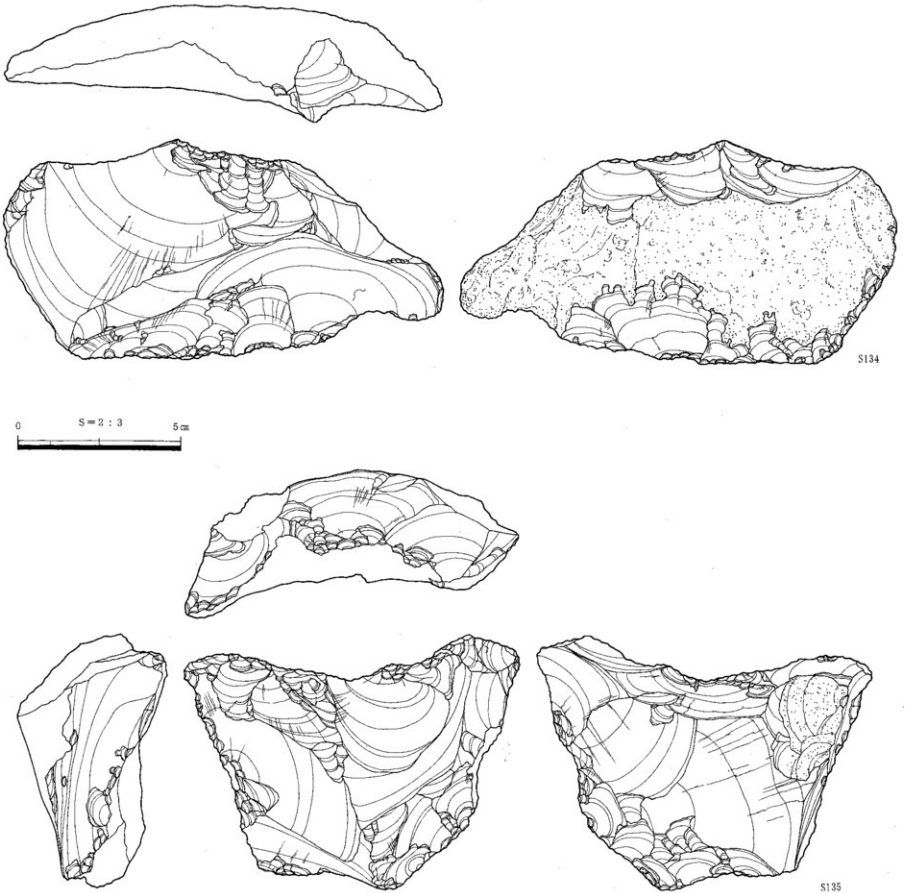
第85図　5～3層ほか出土遺物（石鏃）3



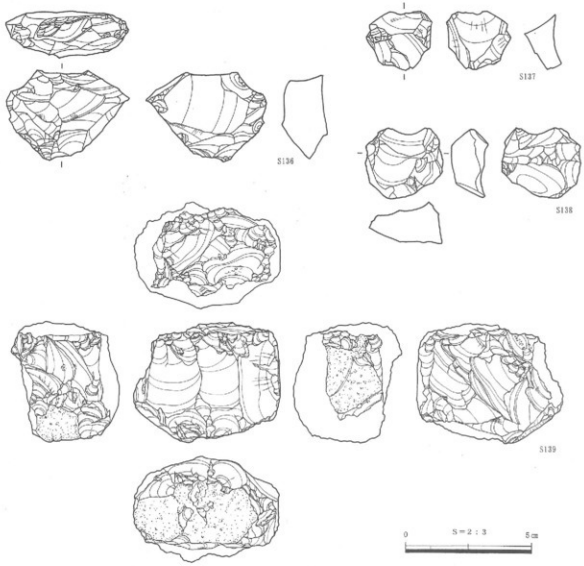
第86図　11～8層および5～3層出土遺物（楔形石器）



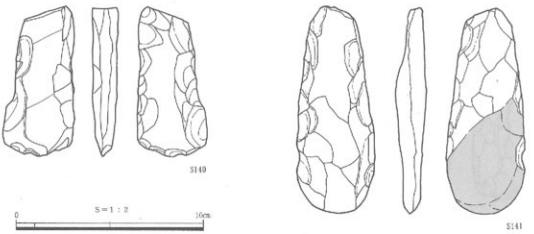
第87図　8層および4・3層ほか出土遺物（スクレイパーほか）



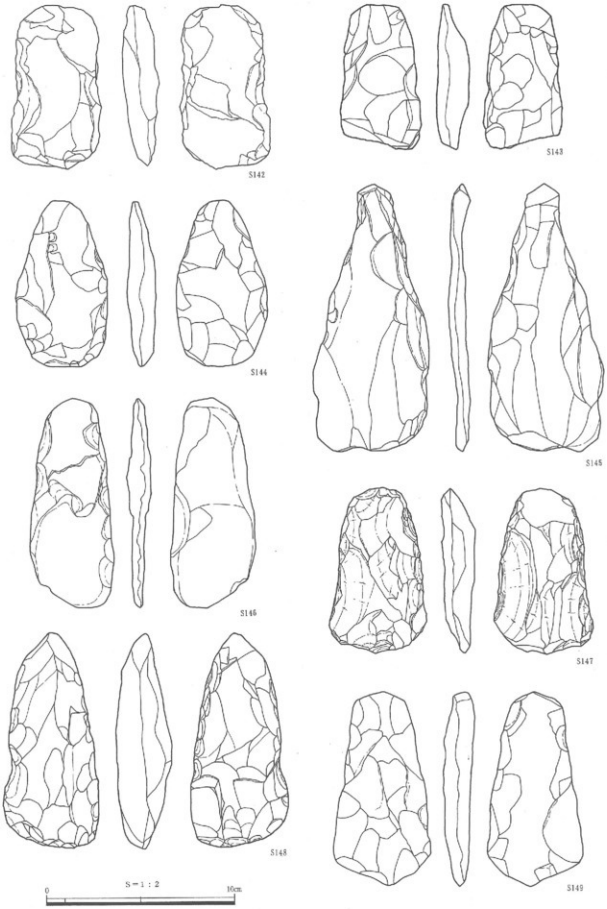
第88図　ＳＤ04および３層出土遺物（石核）



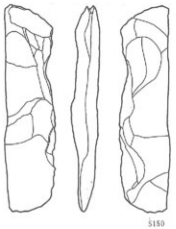
第89図　3層出土遺物（石核）

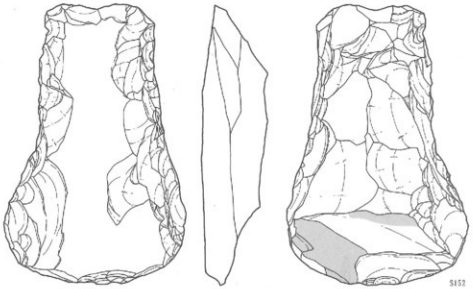


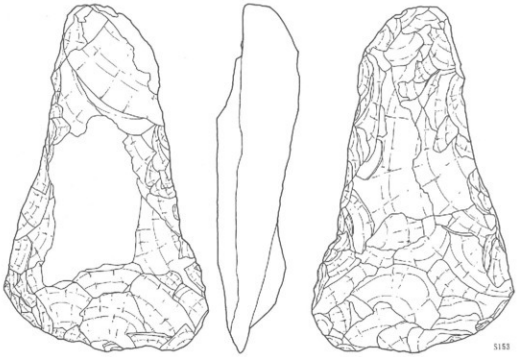
第90図　10・8層出土遺物（打製石斧）



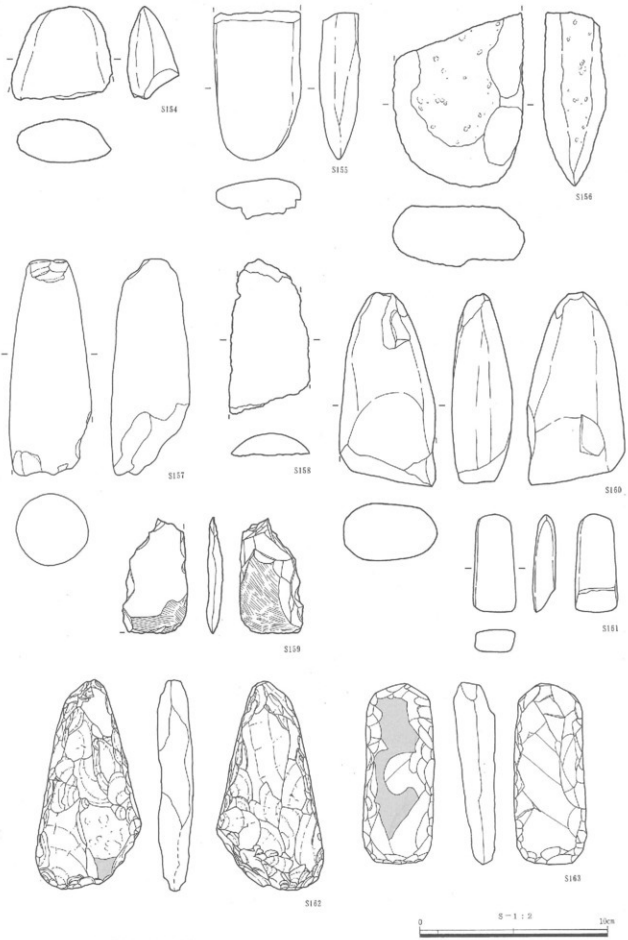
第91図　8層および5～3層ほか出土遺物（打製石斧）



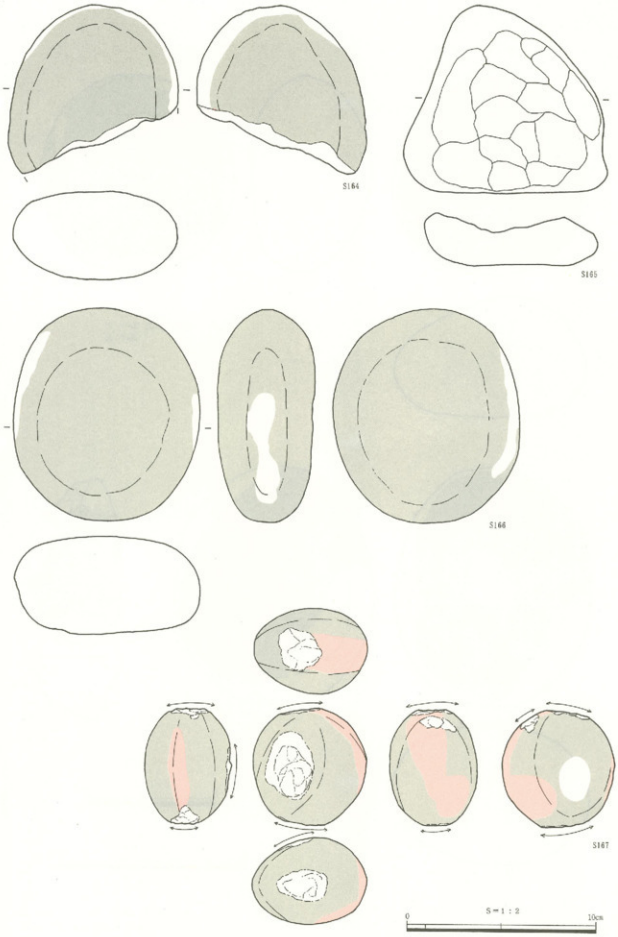




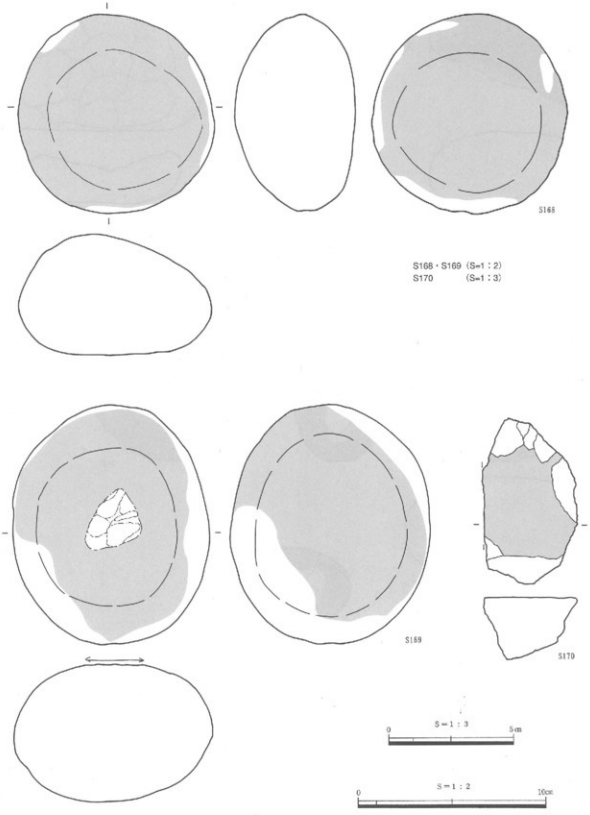
第92図　5～3層ほか出土遺物（打製石斧）



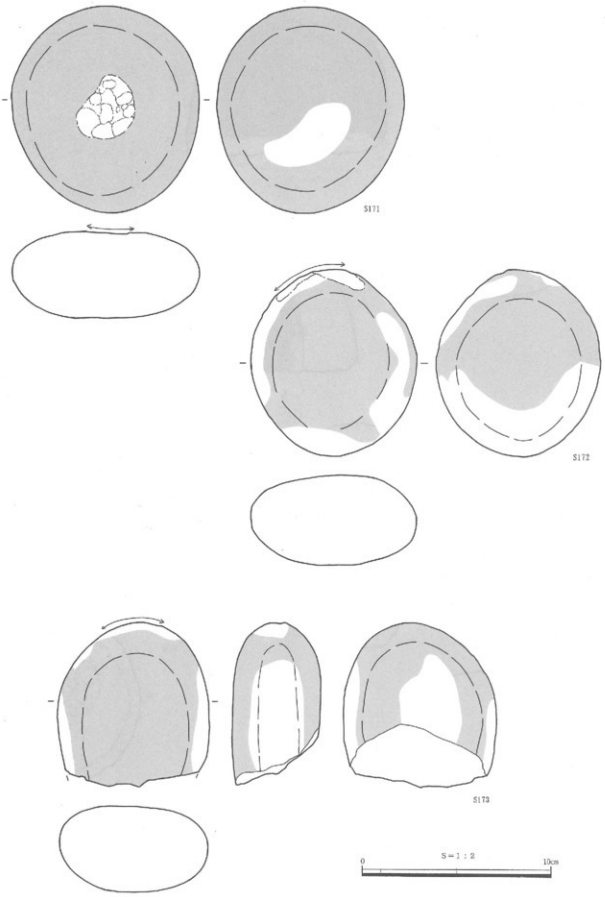
第93図　9・8層および5～3層ほか出土遺物（磨製石斧）



第94図　11・10層出土遺物（礫石器）

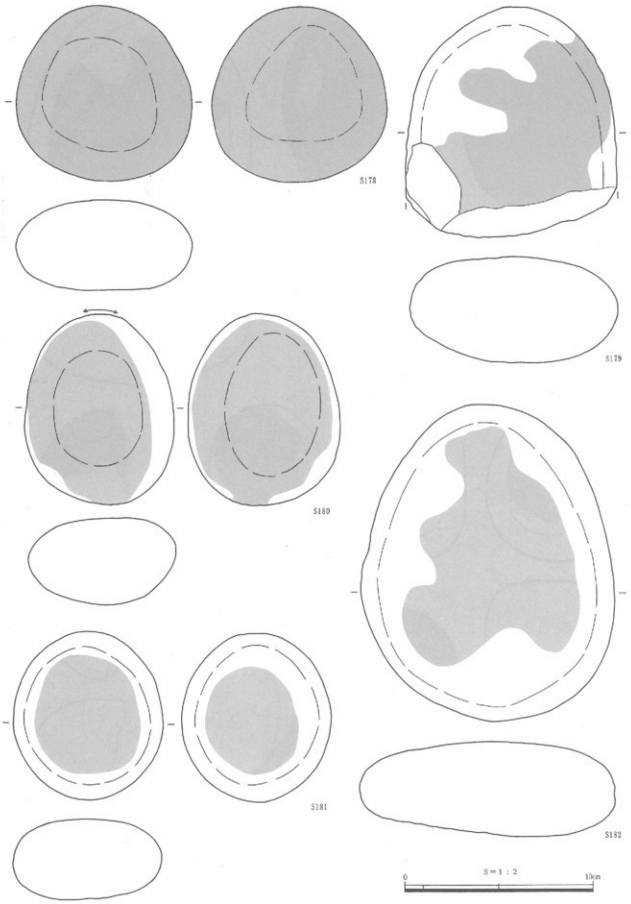


第95図　10・9層出土遺物（礫石器）1

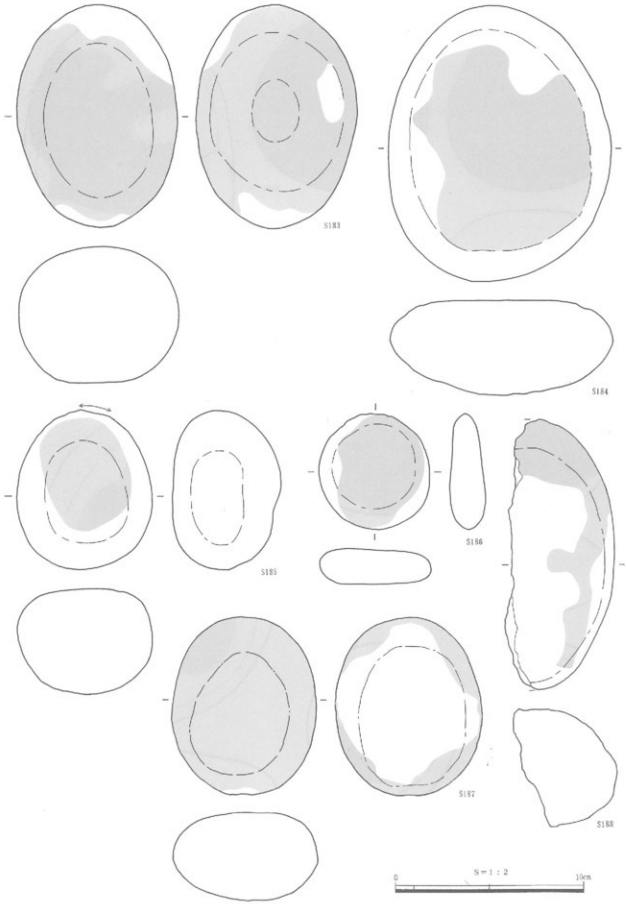


第96図　10・9層出土遺物（礫石器）2

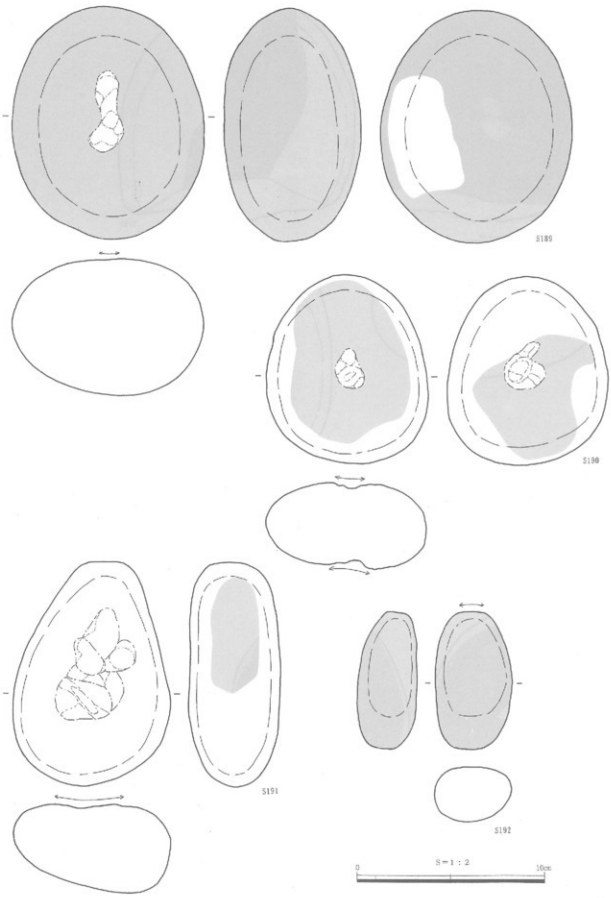
第97図　8層ほか出土遺物（礫石器）



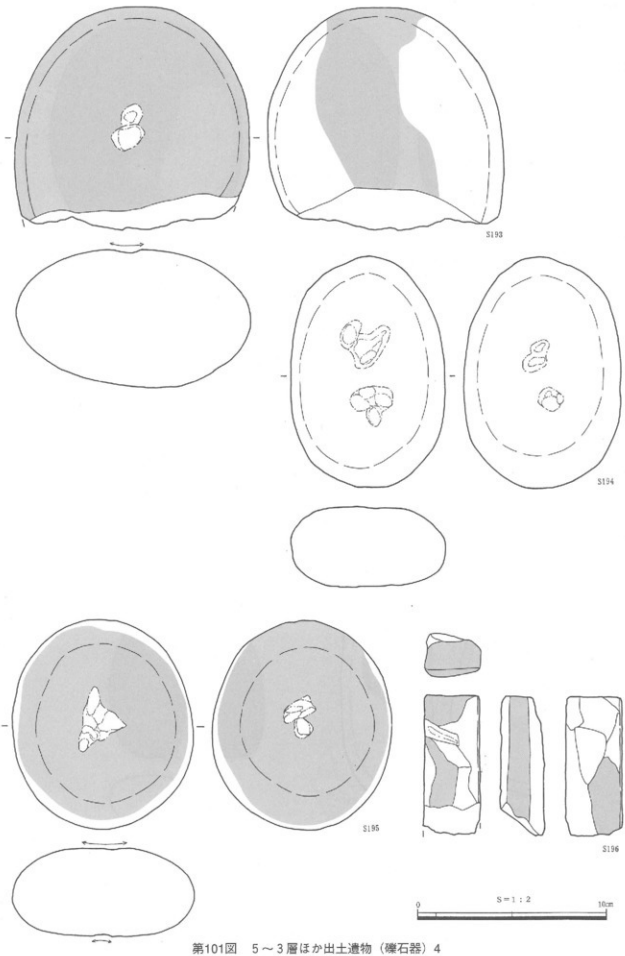
第98図　5～3層ほか出土遺物（礫石器）1



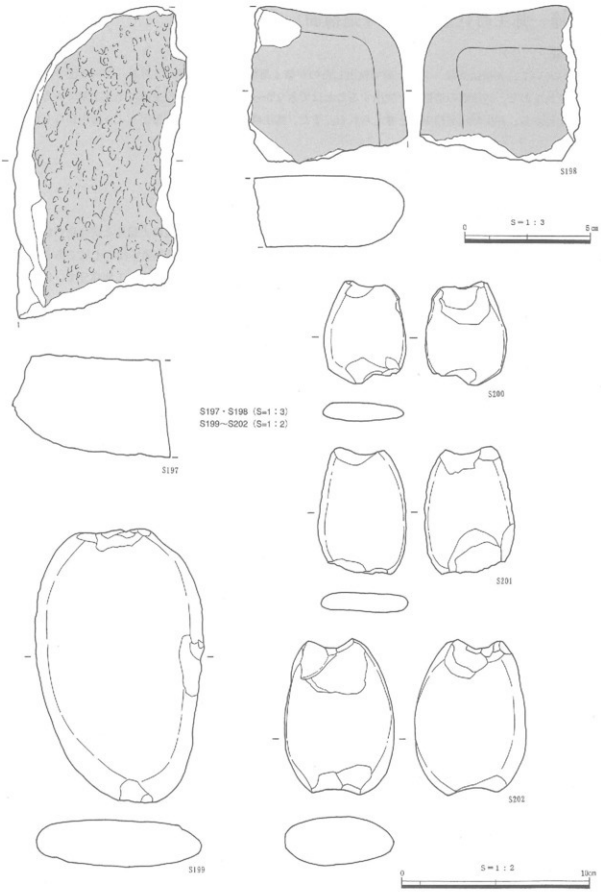
第99図　5～3層ほか出土遺物（礫石器）2



第100図　5～3層ほか出土遺物（礫石器）3



第101図　5～3層ほか出土遺物（礫石器）4



第102図　10・9層および5～3層ほか出土遺物（礫石器）

第４節　弥生時代前期（第４遺構面）の遺構と遺物

１．概要

１区において、６層除去後、７層上面で検出したのが第４遺構面（第103図）である。２～３区では、遺構面が削平されており、当該期の遺構面を検出することはできなかった。検出できた遺構は土坑１基である。土坑内出土の土器から、弥生時代前期中葉と考えられる。また、弥生時代前期後葉の土器が５・４層中からも出土している。（濱田）

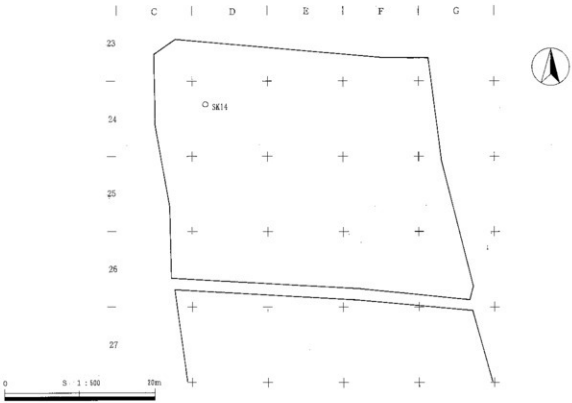
２．遺構と遺物

ＳＫ14（第104図）

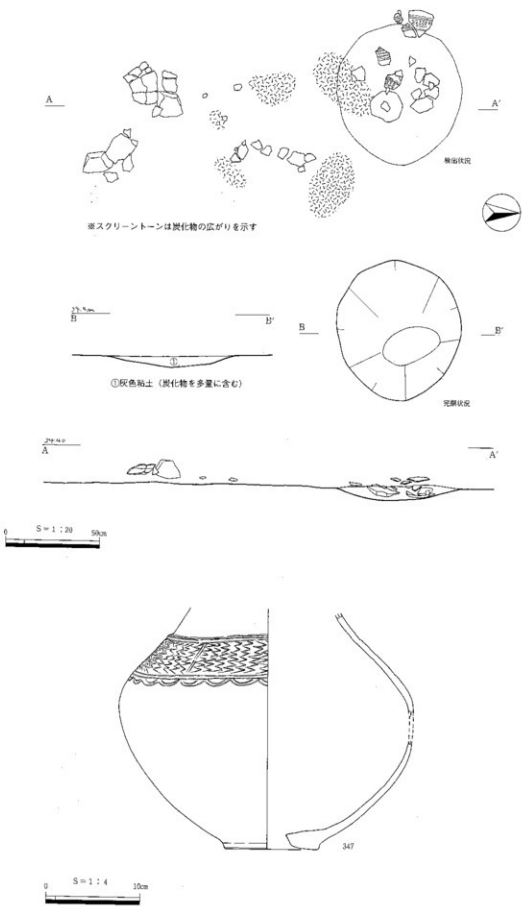
１区、D24グリッドに位置する土坑である。検出時、遺構上面およびその周辺に土器片と炭化物の広がりが認められた。遺構の規模は長軸0.64m、短軸0.57m、深さ0.08mを測る。ほぼ円形を呈す浅い土坑である。土坑内には炭化物が混ざる灰色粘土が堆積していた。土坑内および周辺から出土した土器片は１個体分で、口縁部を欠き、底部に焼成後、穿孔が施されている壺（347）である。胴部上半に二枚貝による文様が施文され、弥生時代前期中葉に位置づけられる。出土状況から、土坑内に埋納されていた可能性も考えられる。（濱田）

３．包含層出土の遺物（第105図）

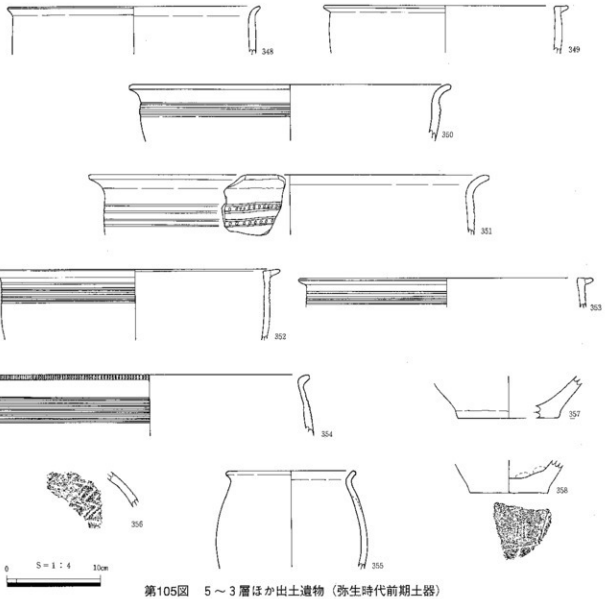
ここでは、５・４層中から出土した弥生時代前期の土器について概略する。348は如意形口縁の甕、349は口縁端部に貼付突帯を施し、逆Ｌ字状を呈す。350は削り出すように一段高くした部分に２条の沈線を施している。351は沈線周に刺突が加わる。352・353は口縁部に貼付突帯、胴部上半に多条沈線が施される。354は口縁端部を刻み、胴部上半には多条沈線が施される。355は無文の甕であろう。356は壺の胴部片で、羽状文が施文されている。357・358は底部片で、358の底面には沈線で方形の文様が描かれている。これらの時期については、355が前



第103図　弥生時代前期（第４遺構面）遺構配置



第104図　ＳＫ14および出土遺物



第105図　５～３層ほか出土遺物（弥生時代前期土器）

期中葉にさかのぼると思われるが、それ以外は概ね前期後葉のものと考えられる。　（濱田）

第５節　弥生時代中・後期の遺構と遺物

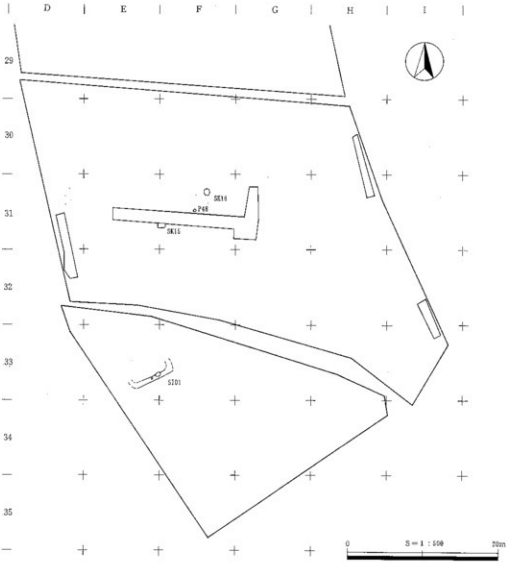
１．概要

３・４区の一部で弥生時代後期の遺構を確認した（第106図）。圃場整備に伴う削平を受けており、弥生時代中・後期に相当する遺構面は調査区全域で既に消失していたが、３区において第２遺構面精査中に、縄文時代後期の遺構とともに弥生時代後期の土器が含まれる土坑などを検出した。検出できた遺構の数は、土坑２基、溝の一部が残る住居跡１棟およびピット１基である。縄文時代と判断した遺構の中に、本来、当期に含まれるものがあるかもしれない。　（濱田）

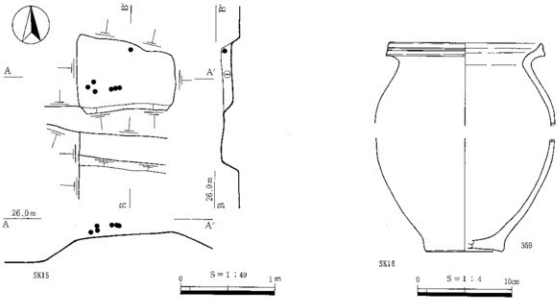
２．遺構と遺物

ＳＫ15（第107図）

３区のほぼ中央にあるＦ31グリッドに位置する。遺構の周囲は攪乱によって削平されており、遺構の上部は失われている。規模は不明であるが、長軸1m以上、短軸0.6m以上と推定され、現状で深さ0.1mほど遺存していた。



第106図　弥生時代後期遺構配置



第107図　ＳＫ15およびＳＫ16出土遺物

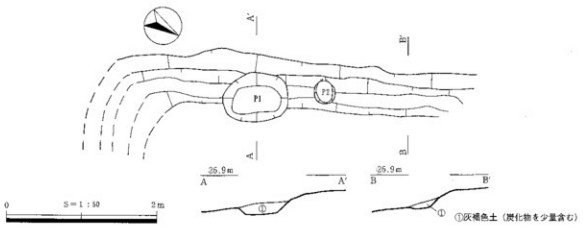
埋土は、0.5～２㎝程度の黄白色粒、小礫を含んだ暗灰色土である。埋土中から弥生土器を検出したが、小片のため図化できなかった。（吉田）

ＳＫ16（第59・107図）

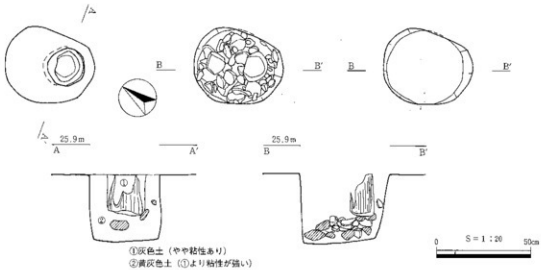
３区のほぼ中央、Ｆ31グリッドに位置している。同じ時代の遺構であるＳＫ15は、南西に約７m離れて位置する。土坑の南側は削平を受けており本来の規模は明らかでないが、推定で長軸約0.9m、短軸約0.8m以上の不整円形を呈していたものと考えられる。深さは約0.1mほど遺存しており、埋土は、炭化物と0.5～２㎝程の黄色・白色粒を含んだ暗灰色土である。埋土中から拳大程度の多くの礫とともに、弥生時代後期の甕（359）が出土している。著しく摩滅しているが、口縁部には２条の凹線文ないし疑凹線文、胴部内面は頸部までケズリが施されている。弥生時代後期前葉と考えられる。（吉田）

ＳＩ01（第108図）

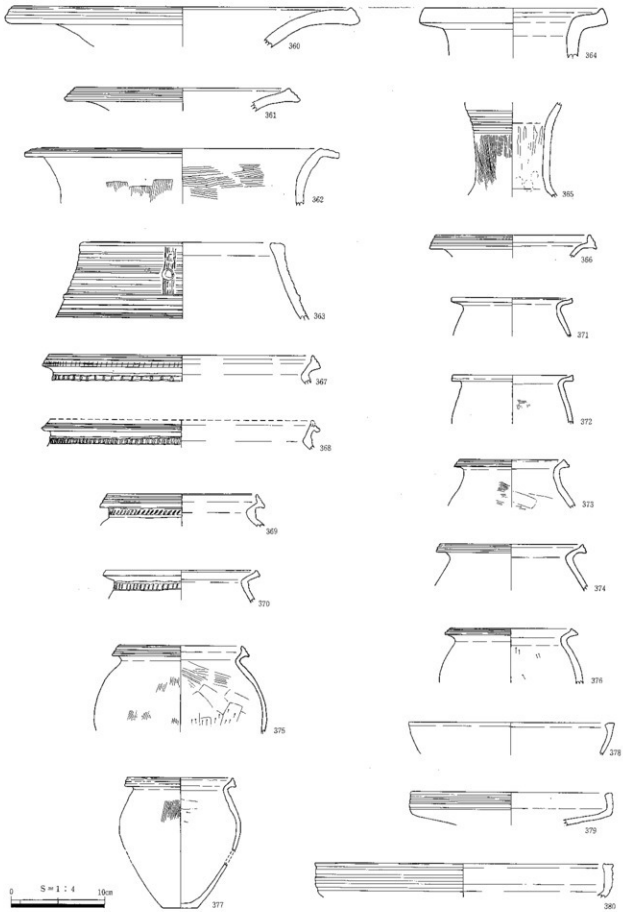
４区の北西、Ｆ・Ｅ33グリッドで、住居跡と思われる側溝の一部とピットを検出した。側溝は北東－南西方向に軸をとり、長さ約4.4m、幅約0.6m、深さ0.13mを測る。埋土は灰褐色土である。ピットは側溝を切り込む形で２基検出された。Ｐ１は楕円形状を呈し、長軸0.85m、短軸0.65m、深さ0.18mを測る。Ｐ２は、Ｐ１の西側に位置し、径0.3m、深さ0.11mである。これらのピットが側溝にともなうものかどうかは不明である。埋土中から土器小片が出土した程度で、時期を明らかにできる遺物は伴わないが、側溝が方形にめぐると想定されることから、弥生時代後期以降のものであろう。（吉田）



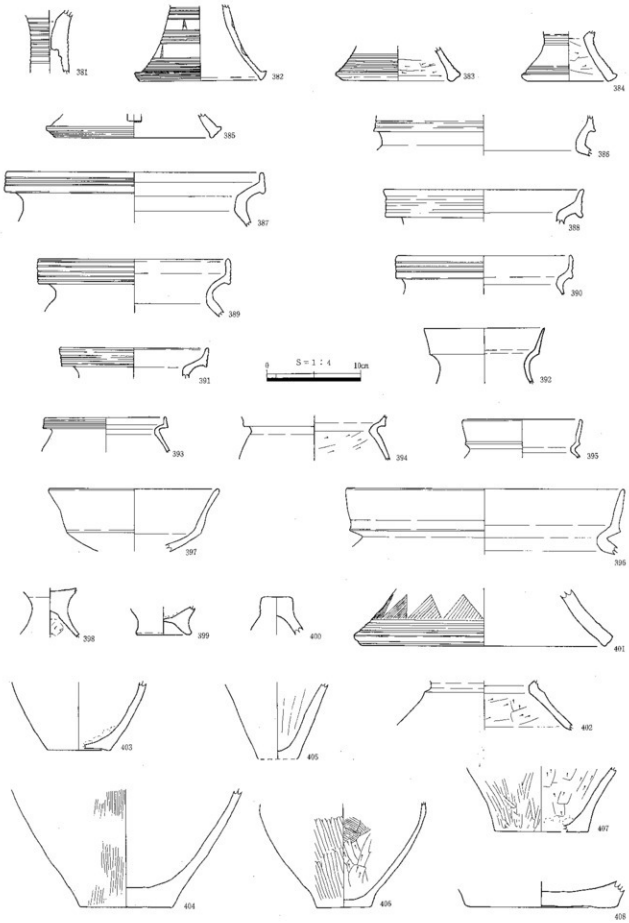
第108図　ＳＩ01



第109図　Ｐ48



第110図　5～3層ほか出土遺物（弥生時代中・後期土器）1



第111図　5～3層ほか出土遺物（弥生時代中・後期土器）2

P48（第109図）

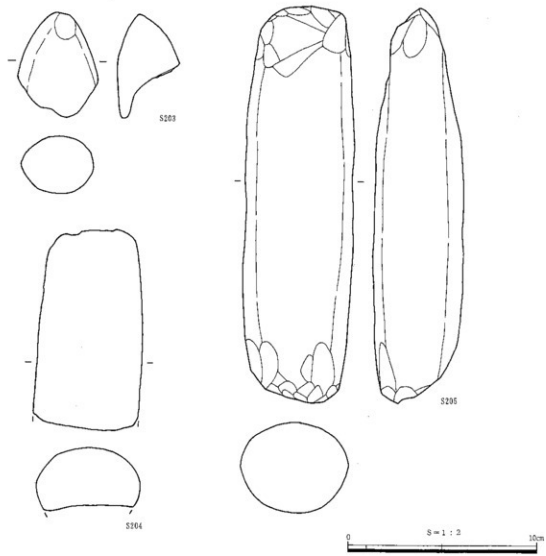
3区、F31グッリドで弥生時代後期のピットを検出した。柱痕に木質が遺存しており、^{14}C年代測定により1960±50年BP（補正値1900±50年BP）という値を得ている。ピットの規模は、長軸0.46m、短軸0.36mで深さ0.36mを測る。また、柱の径は約0.2mで、長さ0.22mである。また、遺構の底面には、拳大の礫が敷き詰められていた。遺物は出土していない。住居跡を想定したが、周辺に、明らかに同時期と判断できる遺構を検出することはできなかった。縄文時代の遺構面と判断したピットの中に、当期のものが含まれていた可能性もある。（濱田）

3．包含層出土の遺物（第110～112図）

弥生時代の堆積である5層中および4・3層から弥生時代中・後期の遺物が出土している。360～362は弥生時代中期後葉の広口壺の口縁部である。ともに大きく口縁部が外反し、口縁端部には2～3条の凹線文を施している。362は内面と外面に刷毛目調整を施している。363は無頸壺であり、口縁部に凹線文、胴部に貼付突帯をもつ。

ピット名	地区	グリッド	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	出土遺物	時代	備考
P48	3区	F31	0.17	0.16	0.11		弥生時代後期	

表3　弥生時代後期ピット一覧



第112図　5～3層ほか出土遺物（磨製石斧）

364・365は長頸壺であり、364は口縁端部が短く立ち上がる。365は頸部上半に5条の凹線文を施し、頸部下半の内面には指オサエの痕跡が認められる。366も壺と考えられる。363～366は弥生時代中期後葉に位置づけられる。367～377は甕である。367～369は口縁部直下に指頭による刻目の施された貼付突帯をもち、口縁部に凹線文を施す。弥生時代中期中葉から中期後葉と思われる。また、370～372は弥生時代中期中葉に位置づけられ、口縁部に凹線文をもたないタイプの甕である。370は口縁部直下に指頭による刻目の施された貼付突帯をもつ。373～377は口縁部に2～3条の凹線文を施す。373～377の内面調整は、いずれもケズリが頸部直下まで上がりきっていないことから弥生時代中期後葉の時期に位置づけられる。378～380は高坏の坏部である。378は口縁端部が肥厚し面を成す。弥生時代中期中葉と考えられる。379は口縁部に、380は口縁部と口縁端部に凹線文が施される。381は高坏の脚部で、11条の平行沈線が施される。382～385も高坏の脚部である。382は平行沈線で二段の文様帯が形成され、未貫通の三角透し孔が施される。383は下半に6条の平行沈線、384は二段にわたり3条の平行沈線が施される。いずれも内面はケズリを施している。385は脚部に透しが入り、端部に2条の凹線文を施している。379～385は弥生時代中期後葉に位置づけられる。386～392は壺である。386～391は口縁部に2～5条の擬凹線文が施され、内面調整のケズリが頸部まで達していることから、後期中葉に位置づけられよう。392は器壁が薄く、口縁端部は薄く尖りぎみであることから弥生時代後期後葉のものと考えられる。393～396は甕である。393は口縁部に3条の擬凹線文を施し、394～396と同様に頸部直下までケズリが達している。393は弥生時代後期前葉、394は弥生時代後期後葉と思われる。397は高坏の坏部である。398は高坏の脚部で、脚下半内面にはケズリを施している。399は低脚坏の脚部であり、400は蓋である。401は器台の脚部で、脚裾部に鋸歯文をめぐらす。402は鼓形器台の脚部で、外面にナデ、内面にはケズリを施している。398～401は弥生時代後期後葉と考えられる。395～397・402は弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭と思われる。403～408は弥生時代中期～後期の壺ないしは甕の底部片である。第112図S203～S205は太型蛤刃石斧、S203は基部である。（吉田）

第6節　古墳時代（第5遺構面）の遺構と遺物

1．概要

1区において、4層除去後、5層上面で古墳時代の溝状遺構を2条検出した（第113図）。2～4区では、圃場整備に伴う削平を受けており、当該期の遺構を検出することはできなかった。（濵）

2．遺構と遺物

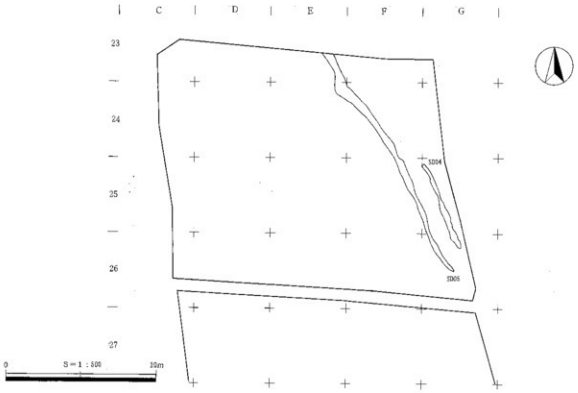
S D04（第114・115図）

1区東側、G25～G26グリッドに位置する。南東から北西方向にほぼ直線的に延び、S D05と並行している。全長約15m、幅0.3～1.0m、深さ0.03～0.11mを測る。5層上面でS D05とともに検出されたことから、古墳時代中期の遺構と考えられる。遺物は弥生時代中期の高坏脚部（418）が1点出土しているにすぎない。（濵）

S D05（第88・114・115図）

1区東側、E23グリッドからG26グリッドに位置する。5層上面で検出され、南東から北西方向に向かってS D04に並行してほぼ直線的状に延びるが、調査区外へと続いており、全長は不明である。幅0.5～1.6m、深さ0.07～0.42mを測る。底面のレベル差から、南東から北西方向、谷から平野部へ向けて流れていたものと推察される。出土した遺物から、古墳時代中期の遺構と思われる。

遺構内からは土器、石器が出土している。409・410・412・413は土師器の甕である。409は口縁部が外反する複合口縁をもつ。下端の突出は鈍く、古墳時代中期と思われる。411は壺である。416は弥生時代前期の甕である。415は高坏の脚部、417は底部片である。S134は黒曜石製の石核である。背面に自然面を大きく残している。折り込み挿図になるため、縄文時代の石器とともに第88図に掲載した。S206は石皿、S207は短冊形の打製石斧である。（濵）



第113図　古墳時代（第５遺構面）遺構配置

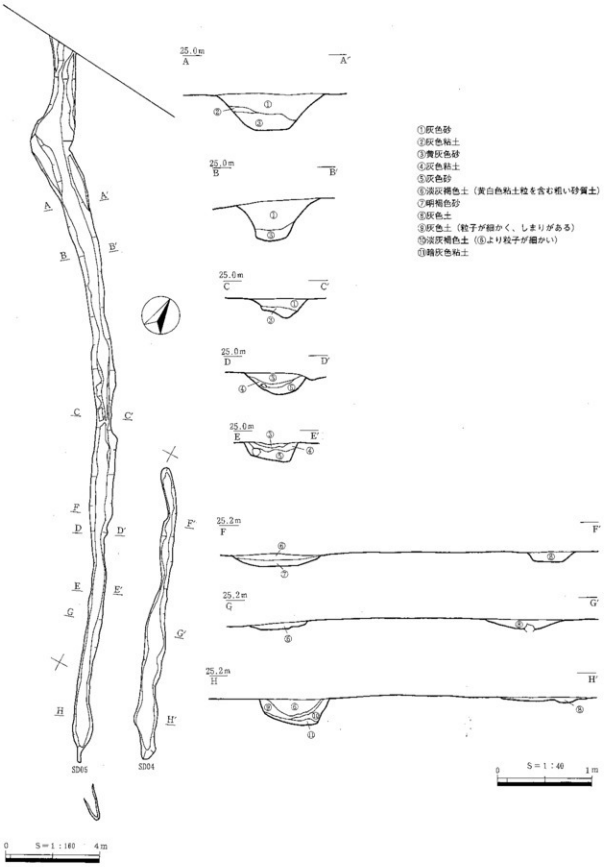
３．包含層出土の遺物（第116図）

ここでは４・３層出土の遺物のうち、古墳時代～奈良時代に属する遺物について報告する。419・420は甕である。420の口縁部は外反気味に立ち上がり、肩部は張らない。421～423は土師器の坏蓋である。いずれも環状のつまみをもつ。425は須恵器の坏蓋、426～428は須恵器の坏身である。425は口縁部内面の沈線が端部まで下がっており、肥厚させない薄手の口縁端部がゆるく段状に仕上げられている。陰田４期、ＴＫ43並行、６世紀後半と思われる。426は口縁端部は丸く、坏部の最外周はヘラケズリ後回転ナデ調整によって仕上げられている。立ち上がりは判然としないがハリツケ手法によっているとみられ、口径はやや小振りである。形態的にはＴＫ10とみられるが、手法上の特徴を考慮すると、ＴＫ216の可能性もある。427は口縁端部が丸く、立ち上がりはオリコミ手法によっている。陰田４期、ＴＫ43並行、６世紀後半と思われる。428は口縁端部が残存しておらず、判然としないが、器形から陰田４期～５期、ＴＫ43～ＴＫ209、６世紀後半と思われる。429は底部ヘラケズリ後ナデにより仕上げられている。430は底部糸切りである。429・430は陰田８期以降の時期、７世紀後葉以降であろう。424は土師器の高坏である。431は土馬である。頭部・脚部を欠き、胴部のみ残存している。432は土錘、433は土玉である。（濵）

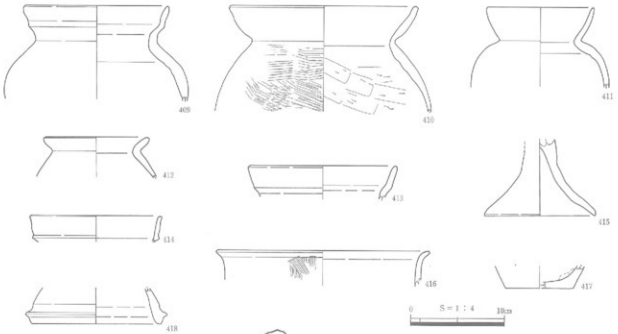
第７節　中・近世の遺構と遺物

１．概要

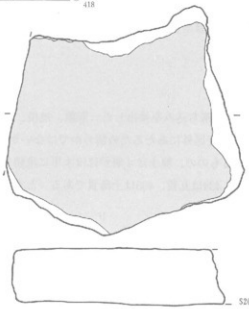
今回の調査では、調査区全域にわたって圃場整備に伴う削平を受けており、中世以降の遺構面は失われている。遺構としては、３区において中世の池と思われる深い落ち込みを検出した（第117図）。（濵）

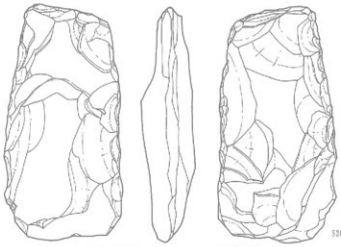


第114図　ＳＤ04・05

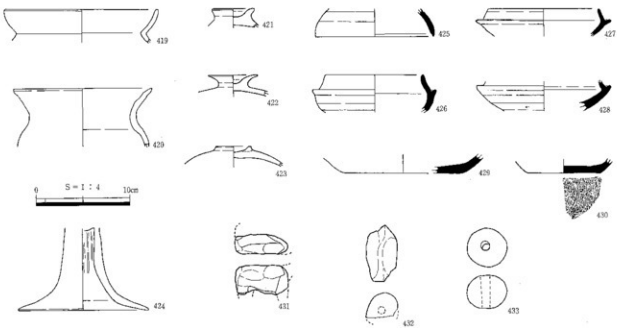


409~418 (S=1:4)
S206 (S=1:3)
S207 (S=1:2)





第115図　ＳＤ04・05出土遺物

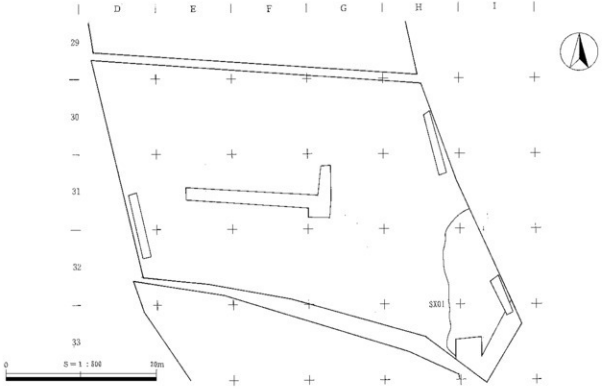


第116図　4・3層ほか出土遺物

2．遺構と遺物

S X01（第118図）

3区の南西、H32・33、I31・32・33グリッドに広がる落ち込みを検出した。形態、規模、埋土の状態から池の可能性が考えられる。規模は、遺構の西側、南側が調査区外にあたるため明らかではないが、長軸20m以上、短軸7m以上、深さ約1mを測る。一部攪乱を受けているものの、埋土は4層がほぼ水平に堆積している。埋土中より中世の土器が出土している。434・435は鍋である。434は瓦質、435は土師質である。ともに口縁部は受け口

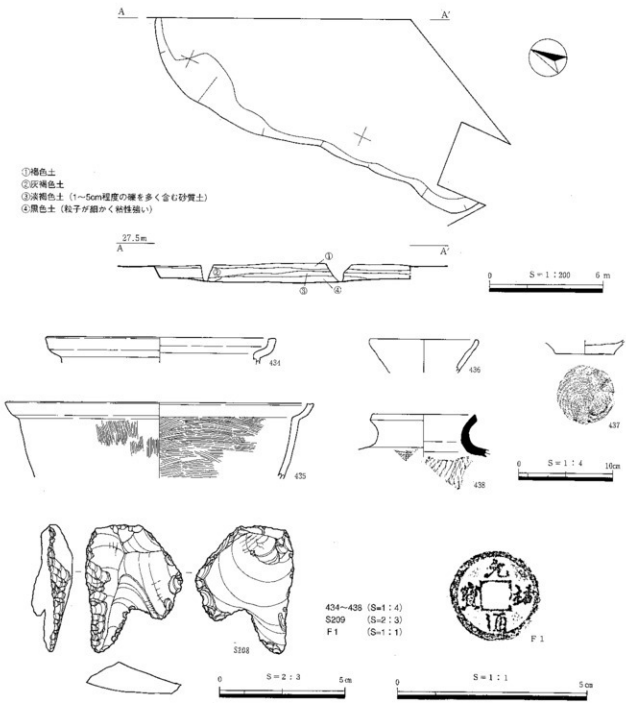


第117図　中・近世遺構配置

状を呈しており、形態的特徴から在地で生産されたものであろう。13世紀から14世紀のものと思われる。436・437は坏である。両者とも胎土は細かい。437は底部が厚く、やや円盤高台状を呈している。13～14世紀のものと思われる。438は須恵器の甕である。S208は黒曜石製のスクレイパーである。（吉田・濱）

3．包含層出土の遺物（第118図）

Ｆ１は1086年初鋳の元祐通寶である。このほかに、３層中から陶磁器類の小片、17世紀後半と18世紀代の煙管２点が出土している。（濱）



第118図　ＳＸ01およびＳＸ01ほか出土遺物

古市河原田遺跡　土器観察表

1．法量については、口径、頸径、胴部径、底径、場合によっては脚部径を計測した。
2．反転復元による推定値は（　）で示した。
3．胎土、焼成については記号で、以下のように表記した。
　胎土：密1　やや粗2　粗3　（砂粒の量　多く含む＋　含む±　少量含む－）
　焼成：堅緻1　硬質2　良好3　やや軟質4　軟質5

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
1	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部は内湾。沈線が4条施される。調整不明。内外面ナデ調整？	1＋3	暗黄褐色	
2	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、波状口縁。2条の沈線を山形に施す。内外面ナデ調整？	1－3	淡褐色	
3	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部片。平行沈線が1条施される。内外面ナデ調整？	2＋3	淡明褐色	
4	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部片。平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整	2＋3	黄褐色	
5	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部は肥厚する。沈線が1条施される。内外面ナデ調整？	1±3	淡褐色	
6	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部は内傾する。平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整？	2±3	淡褐色	
7	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部片。平行沈線が1条施される。内外面ナデ調整？	2±3	淡褐色	
8	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整？	1±3	淡褐色	
9	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線と波状沈線が施される。内外面ナデ調整？	1±3	淡褐色	
10	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、底部片。平行沈線が施される。内外面ナデ調整。	1±3	淡褐色	
11	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部片。波状口縁を呈すか？2条の沈線、口縁部に縄文LR。内面ナデ調整？	2＋3	淡褐色	
12	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、口縁部片。2条の平行沈線と弧状を呈す沈線が施される。口縁部に縄文LR。内面ナデ調整。	2＋3	淡褐色	
13	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文、2条の平行沈線が施される。縄文LRL。内面ナデ調整？	2＋3	淡褐色	
14	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文、1条の沈線が施される。縄文LR。外面ミガキ、内面不明。	2＝3	褐色（外）黒色（内）	
15	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文？、1条の平行沈線と、斜め方向に3条の沈線が施される。縄文LR。内面ナデ調整。	2＋3	暗灰褐色（外）褐色（内）	
16	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文、沈線が弧状に施される。縄文RL。内面ナデ調整？	1±3	淡黄褐色	
17	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文、2条の沈線が弧状に施される。縄文LR。	2＋3	淡褐色（外）暗褐色（内）	
18	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文？、斜め方向に1条の沈線が施される。結節縄文LR？　内面ナデ調整。	2＋3	暗褐色（外）淡褐色（内）	
19	49 32	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。貼付突帯？棒状工具による刻目。調整不明。	2＋3	淡灰褐色	
20	49	SD01	埋土		縄文土器。有文、胴部片。隆帯を施し、棒状工具で刺突する。調整不明。	2＋3	淡褐色（外）淡灰褐色（内）	
21	49 32	SD01	埋土	口径（34.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。調整は不明。二次焼成によると思われる赤化が認められる。	2＋3′	暗褐色（外）淡褐色（内）	
22	49	SD01	埋土	口径（33.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面、擦痕の残るナデ調整。	2±3	暗灰褐色（外）灰褐色（内）	
23	49	SD01	埋土	口径（31.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。外面、擦痕の残るナデ調整。	2±3	淡褐色	
24	49	SD01	埋土		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。外面条痕調整、内面ナデ調整？	2＋3	黒色（外）暗灰褐色（内）	
25	49 32	SD01	埋土		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。調整ナデ？　穿孔あり。	2＋3	淡褐色	
26	49	SD01	埋土	口径（23.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。擦痕の残るナデ調整。	2＋3	淡灰褐色	
27	49	SD01	埋土	口径（19.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。調整不明。	1－3	淡褐色	
28	50	SD01	埋土	底径（10.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。	1±3	淡褐色	

遺物番号	挿図	図版	地区	遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
29	50	SD01	堆土		底径（14.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。			1＋3	淡褐色	
30	50	SD01	堆土		底径（ 5.0）	縄文土器。底部片。凹底を呈す。内外面ナデ調整。			1＋3	淡褐色	
31	50	SD01	堆土		底径（11.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。			1＋3	淡褐色（外） 黒色（内）	
32	50	SD01	堆土		底径（11.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。			1－3	淡褐色	
33	50 35	SD01	堆土			土製品。中空を呈す。例えば、注口土器の注口部の可能性も考えたが、底面が生きているため土製品と考えた。一見、足形を呈す。			2＋3	淡褐色	
34	53 32	SK01	埋土		口径（32.0）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。内外面粗いナデ調整。			2＋3	灰褐色	
35	54 33	SK02	埋土		頸径（35.0） 胴径（36.0）	縄文土器。有文深鉢、胴部片。頸部にはミガキを施す。胴部は平行ないし斜行する沈線、結節縄文LR。内面ナデ調整。			1＋3	暗褐色（外） 淡褐色（内）	外面煤付着
36	54 33	SK02	堆土		口径（15.5） 頸径（13.0） 胴径（13.5）	縄文土器。有文浅鉢。頸部ナデ調整？胴部には4条の沈線を施す。沈線内には細かい刺突を施す。内面ナデ調整？			1＋3	黄褐色	
37	54 33	SK02	堆土		口径（28.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。外面調整不明、内面二枚貝条痕。			1＋3	淡黄褐色（外） 暗褐色（内）	
38	54	SK02	埋土		底径（ 8.5）	縄文土器。底部片。内外面ナデ調整？			3＋3	淡褐色	
39	54	SK02	埋土		口径（26.0）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			1＋3	淡灰褐色（外） 暗灰褐色（内）	
40	55	SK03	堆土		底径（ 8.0）	縄文土器。底部片。内外面ナデ調整？			3＋3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
41	56 33	SK04	堆土		口径（30.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			2＋3	淡褐色	
42	56 33	SK04	埋土		口径（25.5）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			3＋3	淡灰褐色	
43	56 33	SK04	堆土		口径（15.0）	縄文土器。複製浅鉢。内外面ナデ調整。			1＝3	灰褐色	
44	56 33	SK04	堆土		口径（17.0）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。口縁部は外反する。外面ナデ、内面一部に二枚貝条痕が残る。			2＋3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
45	56 33	SK04	埋土		口径（21.0）	縄文土器。口縁部片。外反しながら立ち上がり、口縁部は屈曲し直立する。内外面ナデ調整？			2＋3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
46	56	SK04	埋土		底径（ 6.5）	縄文土器。底部片。内外面ナデ調整？			3＋3	淡褐色	
47	57	SK05	堆土		口径（30.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。			1＋3	淡褐色	
48	57	SK05	埋土			縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			2＋3	橙褐色	
49	57 33	SK05	埋土			縄文土器。有文の胴部片。ヘラ状工具により弧状およびクランク状の沈線が施される。また、斜行する縄文ないし羽縄文が施文されているが、摩滅が著しく分からない。			1＋3	灰褐色（外） 暗灰褐色（内）	
50	57	SK05	埋土			縄文土器。有文、口縁部片。平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整			1＝3	灰褐色（外） 淡褐色（内）	
51	58 33	SK06	埋土		口径（31.0） 底径（ 5.5）	縄文土器。無文浅鉢。ほぼ完形。底部は凹底を呈す。胴部には穿孔後施されている。外面ナデ調整、内面二枚貝条痕が残る。			1＋3	灰褐色（外） 淡褐色（内）	
52	59	SK07	埋土		口径（16.5）	縄文土器。口縁部片。口縁部に2条の沈線が施される。内外面ナデ調整？			1＋3	淡褐色	
53	64 53	P 45	堆土			縄文土器。複製土器、口縁部片。内外面ナデ調整。			1－3	淡灰褐色（外） 暗褐色（内）	
54	65 34	E 30	11層			縄文土器。有文、口縁部装飾。中空で、沈線文が施される。背面には焼成前に貫通孔が施されている。			2＋3	淡灰褐色	
55	65	E 30	11層			縄文土器。胴部片。斜行する縄文が施されているが、詳細不明。			2＋3	黒色	
56	65	E 30	11層			縄文土器。胴部片。縄文RL？が施されているが、詳細不明。			2＝3	灰褐色	
57	65	E 30	11層		口径（21.5）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			1＋3	黄褐色	
58	65	E 30	11層		口径（20.0）	縄文土器。複製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			2＋3	暗黄褐色	
59	65 34	E 30	11層		口径（15.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？			2＋3	暗黄褐色（外） 淡黄褐色（内）	
60	65 34	E 30	11層		口径（31.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。外面ナデ調整？、内面二枚貝条痕。			1＝3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
61	66 34	G24	10層			縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は2条の平行沈線で区画され、二枚貝の背面による文様が施される。および2条の平行沈線が幅・斜め方向に施される。調整は不明。			2＋3	黄褐色（外） 灰褐色（内）	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
62	66	D-27	10層		縄文土器。有文、口縁部片。二条の沈線が斜め方向に施されている。内外面ナデ調整か？	1＋3	黄褐色	
63	66	G-27	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部には沈線で扁平な楕円が描かれる。口縁部下方には低い段が形成される。内外面ナデ調整？	1＋3	黄褐色	
64	66 34	E-29	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部に平行沈線が1条施される。内外面ナデ調整。	2＋3	暗灰褐色（外） 淡褐色（内）	
65	66	D-29	10層		縄文土器。有文、口縁部片。沈線が施され、沈線間は刻まれる。内外面ナデ調整。	2＋3	淡褐色	
66	66	D-27	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁端部は肥厚する。2条の平行沈線とそこから垂下する沈線が確認できる。内外面ナデ調整？	1＝3	淡黄褐色	
67	66 34	D-28	10層		縄文土器。有文、1段部片。口縁部直下に方形、さらにその下に楕円形が沈線により描かれている。口縁端部は肥厚しており、その上面には浅い沈線が施される。調整不明。	2＝3	淡褐色	
68	66		10層		縄文土器。有文、口縁部片。波状を呈す可能性あり。沈線文が施される。口縁端部は肥厚し、その上面にも沈線が施される。内外面ナデ調整。	2＋3	灰褐色（外） 黒色（内）	
69	66	E-30	10層		縄文土器。有文、胴部片。器壁は厚く、平行沈線と波状沈線が施される。内外面ナデ調整。	1＝3	暗黄褐色	
70	66	D-29	10層		縄文土器。有文、胴部片。沈線文が施される。内外面ナデ調整。	1＝3	灰褐色	
71	66	F-24	10層		縄文土器。有文、胴部片。沈線により扁平な楕円状の文様が施される。内外面ナデ調整？	2＝3	灰褐色	
72	66	D-28	10層		縄文土器。有文、胴部片。沈線により対向する山形文、と扁平な楕円状の文様が施されている。調整は不明。	2＝3	黄褐色	
73	66	D-27	10層		縄文土器。有文、胴部片。沈線により三角形を呈す文様が施される。調整は不明。	2＋3	黄褐色（外） 暗灰褐色（内）	
74	66	E-30	10層		縄文土器。有文、胴部片。沈線により三角形ないし方形を呈す文様が施される。調整は不明。	1＝3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
75	66	D-28	10層		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線が施される。調整は不明。	2＋3	黄褐色	
76	66	E-31	10層		縄文土器。有文、胴部片。3条の沈線が施される。	2＋3	淡褐褐色	
77	66 34	E-29	10層		縄文土器。有文、胴部片。器壁は厚く、沈線が弧状に施される。調整は不明。	1＝3	暗褐色（外） 淡褐色（内）	
78	66 34	E-31	10層		縄文土器。有文、胴部片。4条の沈線、沈線内には棒状工具により刺突が施される。調整は不明。	2＋3	暗灰褐色	
79	66 34	E-32	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は内傾に肥厚帯があり、平行沈線2条が、縦方向の短い沈線3条により寸断される。内外面ナデ調整？	1＝3	灰褐色（外） 淡黄褐色（内）	
80	66	D-32	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は内傾に肥厚帯があり、平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整。	1＝3	淡褐色	
81	66	E-32	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は内傾に肥厚帯があり、平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整。	1＋3	灰褐色	
82	66 34	D-28	10層		縄文土器。有文、胴部片。2条1単位の沈線が弧状に施される。また、縄文RLが施文される。内面ナデ調整。	2＋3	暗灰褐色	
83	66	D-28	10層		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線および磨消縄文が施される。縄文RL。内面ナデ調整？	1＝3	暗褐色	
84	66	E-29	10層		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線および磨消縄文が施される。縄文RL。内面ナデ調整？	1－3	淡黄褐色	
85	66 34	E-31	10層		縄文土器。有文、胴部片。2条1単位の沈線が弧状に施される。また、磨消縄文が施文される。縄文の条、節は不明。内面ナデ調整。	1＋3	灰褐色	
86	66	E-30	10層		縄文土器。有文、胴部片。2条の沈線と縄文LRが施される。内面の調整は不明。	2＝3	淡灰褐色	
87	66	D-28	10層		縄文土器。有文、胴部片。低い貼付突帯に刺突が施される。原体は不明。内外面ナデ調整。	2＋3	暗褐色（外） 灰褐色（内）	
88	66 34	D-29	10層		縄文土器。有文、胴部片。屈曲部に突帯を貼り付け、指で刺突する。内外面に二枚貝条痕が認められる。	2＋3	暗褐色（外） 灰褐色（内）	
89	66 34	D-27	10層		縄文土器。有文、胴部片。貼付突帯を施し、竹管状工具で刺突する。外面に一部、二枚貝条痕が残る。内面ナデ調整？	2＋3	淡褐色	
90	66	F-24	10層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部直下に分厚い突帯がめぐる。調整は不明。	2＋3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
91	66	E-29	10層		縄文土器。有文、口縁部。口縁部に接して突帯がめぐる。また、3カ所に刺突が施されている。調整は不明。	2＝3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
92	66	E-30	10層		縄文土器。有文、口縁部装飾。棒状工具により、刺突文が施される。調整は不明。	1＝3	淡褐色	
93	67 35	F・G-25	10層		縄文土器。注口土器、注口部。下方に円形の浮文が貼り付けられる。	1－3	灰褐色	

遺物番号	挿図図版	遺区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
94	67 35	D 27	10層		縄文土器。注口土器、注口部。調整はナデ調整か？	1 ± 3	灰褐色	
95	67	D 29	10層	口径（22.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	暗灰褐色（外） 淡灰褐色（内）	
96	67	D 29	10層	口径（15.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。２次焼成と思われる赤化が認められる。	2 ± 3	黄褐色±（外） 暗褐色±（内）	
97	67	D 28	10層	口径（28.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面に二枚貝条痕が残る。	2 + 3	淡灰褐色	
98	67	D 29	10層	口径（15.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
99	67	F 25	10層	口径（23.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	黄褐色（外） 灰褐色（内）	
100	67	D 27	10層	口径（18.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 + 3	灰褐色	
101	67	F 25	10層	口径（21.5）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？	2 + 3	暗灰褐色	
102	67	D 29	10層	口径（15.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 + 3	淡褐色	
103	67	D・ E 24	10層	口径（24.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 + 3	淡橙褐色（外） 淡褐色（内）	
104	67 34	E 31	10層	口径（17.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。内外面丁寧なナデ調整。	1 − 3	暗灰褐色	
105	67	D 29	10層		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 − 3	暗灰褐色	
106	67	E 30	10層		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。２次調整と思われる赤化が認められる。	2 + 3	淡褐色	
107	67	D 29	10層		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 − 3	暗灰褐色	
108	68	D 27	10層	底径（8.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。調整は不明。	2 ± 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
109	68	E 30	10層	底径（9.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。調整は不明。	2 + 3	淡褐色	
110	68	E 30	10層	底径（10.0）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。調整不明。外面は２次焼成を思わせるような橙褐色を呈す。	2 + 3	橙褐色（外） 淡灰褐色（内）	
111	68	D 28	10層	底径（10.0）	縄文土器。底部片。調整は不明。	2 + 3	淡褐色	
112	68	D 29	10層	底径（9.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。外面ケズリ、内面には二枚貝条痕が残る。	2 + 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
113	68	E 31	10層	底径（10.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡褐色	
114	68	D 27	10層	底径（9.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
115	68	E 30	10層	底径（7.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	黄褐色	
116	68	D 27	10層	底径（6.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡褐色	
117	68	E 31	10層	底径（8.0）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡灰褐色	
118	68	E 30	10層	底径（7.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
119	68	E 30	10層	底径（8.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡褐色	
120	68	E 30	10層	底径（7.5）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡褐色	
121	68	D 28	10層	底径（8.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。外面ナデ調整、内面には二枚貝条痕が残る。	2 ± 3	暗褐色	
122	68	E 30	10層	底径（12.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡灰褐色	
123	68	D 27	10層	底径（9.0）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。外面ナデ調整？	2 ± 3	淡褐色	
124	68 35	E 27	10層	底径（11.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。外面ナデ調整？	2 + 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
125	68	E 28	10層	底径（10.5）	縄文土器。底部片。やや丸みをもつ平底を呈す。調整不明。	2 + 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
126	68	D 27	10層	底径（4.5）	縄文土器。底部片。凹底を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡灰褐色	
127	69 35	E 30	9層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁端部に刻目、口縁部は沈線による扁平な楕円形、刺突文が施される。内面ナデ調整。	2 + 3	黄褐色	
128	69 35	E 30	9層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部に沈線を弧状に施し、区画した部分に縄文RLを施す。内外面に二枚貝条痕が残る。	2 ± 3	暗黄褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
129	69	E31	9層		縄文土器。有文、胴部片。二枚貝の腹縁部で文様を施文する。調整不明。	1 ± 3	暗褐色（外） 淡灰褐色（内）	
130	69	E31	9層		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線が2条施される。内外面ナデ調整？	1 ± 3	暗灰褐色	
131	70 35	D26	8層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は肥厚し、波状を呈す。波頂部下に幅広の沈線、さらにその下には沈線で扁平な楕円形を呈す文様が施される。また、口縁部は低い段により頸胴部と区画されるようである。調整は不明。	2 + 3	暗褐色	
132	70	F24	8層		縄文土器。有文、口縁部装飾。沈線文が施される。両側面は円錐状の窪みが施されている。調整は不明。	2 + 3	淡褐色	
133	70	C25	8層		縄文土器。有文、胴部片。竹管？状の工具で刺突が施される。調整は不明。	2 ± 3	淡褐色	
134	70	E24	8層		縄文土器。有文、口縁部。平行沈線が施される。調整は不明。	2 ± 3	暗褐色	
135	70	C23	8層		縄文土器。有文、胴部片。平行沈線が2条施される。調整は不明。	1 ± 3	淡褐色	
136	70	F25	8層		縄文土器。有文、胴部片。2条の平行沈線、その上にU字状の浮文が施される。外面はミガキ？、内面はナデ調整と思われる。	2 + 3	暗黄褐色	
137	70	C23	8層		縄文土器。有文、口縁部片。平行沈線が施される。調整は不明。	1 − 3	淡褐色	
138	70	C23	8層		縄文土器。有文、浅鉢胴部片。細かな結節縄文LRが施される。内面ナデ調整。	1 ± 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
139	70	D24	8層		縄文土器。有文、浅鉢口縁部片。口縁部内面に突帯を貼り付ける。内外面は丁寧にナデ調整が施され、赤色顔料の付着が認められる。	1 − 3	淡褐色	
140	70 35	F27	8層		縄文土器。注口土器、注口部。注口部分は比較的短い。ナデ調整か？	1 ± 3	淡褐色	
141	70	E25	8層		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面二枚貝と思われる条痕が残る。	2 + 3	黄褐色	
142	70	E25	8層	口径（18.0）	縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。調整不明。	1 ± 3	灰褐色	
143	71	F25	5層		縄文土器。有文、口縁部片。沈線により扁平な楕円形を呈す文様が施される。調整は不明。	2 + 3	暗褐色	
144	71	D27	4層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は肥厚し、波状を呈す。平行沈線が施されている。調整は不明。	1 ± 3	暗灰褐色	
145	71	D29	4層		縄文土器。有文、口縁部片。口縁部は肥厚し、波状を呈す。口縁端部には刻目が施される。また、沈線による文様が施文される。調整は不明。	2 ± 3	灰褐色	
146	71	E28	4層		縄文土器。有文、口縁部片。沈線により文様が施される。調整はナデ調整と思われる。	2 + 3	黒色	
147	71	2区	不明		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文が施されている。縄文RL。調整はナデと思われる。	1 + 3	灰褐色	
148	71	F26	5層		縄文土器。有文、胴部片。磨消縄文が施されている。縄文RL。内外面丁寧なナデ調整。	2 ± 3	暗灰褐色	
149	71	D28	4層		縄文土器。有文、口縁部片。沈線による文様が施されている。調整は不明。	2 − 3	淡灰褐色	
150	71	D28	不明		縄文土器。有文、胴部片。沈線により扁平な楕円形を呈す文様が施される。調整は不明。	2 ± 3	淡灰褐色	
151	71	F25	5層		縄文土器。口縁部片。外反しながら立ち上がり、口縁部が肥厚する。調整は不明。	2 ± 3	暗灰褐色	
152	71	2区	表採		縄文土器。粗製深鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？	1 ± 3	暗黄褐色	
153	72 36	D24	8層	口径（27.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともかさめのD字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整が施される。	1 ± 3	灰褐色	
154	72 36	D24	8層	口径（27.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。外面二枚貝条痕後ナデ、内面ナデ調整が施される。	2 ± 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	
155	72 36	E26	8層	口径（29.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともO字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 + 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	
156	72	E23	8層	口径（25.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目は端部、突帯とも二枚貝による。内外面二枚貝条痕後ナデ調整。	2 ± 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
157	72 36	C24	8層	口径（23.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目は端部、突帯とも棒状工具による。外面二枚貝条痕、内面ナデ調整が施される。	2 3	暗灰褐色	
158	72 36	D24	8層	口径（30.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目は端部、突帯とも棒状工具による。外面二枚貝条痕、内面二枚貝条痕後？ナデ調整が施される。	2 3	暗灰褐色（外） 淡灰褐色（内）	
159	72 36	E26	8層	口径（31.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面下さがり三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともV字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	外面煤付着
160	72	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面下さがり三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	暗灰褐色	
161	72	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に幅狭三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯とも小ぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
162	72	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色	
163	72	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色	
164	72	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。尖形を呈すし縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともV字状を呈す。外面二枚貝条痕、内面ナデ調整。	2 3	黒色（外） 淡褐色（内）	突帯下にモミ圧痕
165	72	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡黄褐色	
166	72	E24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	灰褐色	
167	72	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面上向きの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部はV字状、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	暗灰褐色（外） 淡灰褐色（内）	
168	72	E25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。やや尖気味に丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともやふりなO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	暗黄褐色（外） 淡褐色（内）	
169	72	E23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面扇平台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部はV字状、突帯ともV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色	
170	72	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡黄褐色	
171	72	E25	8層	口径（24.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 3	淡灰褐色	
172	72 36	E27	8層	口径（20.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色（外） 灰褐色（内）	
173	72	F25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖形を呈す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	
174	72	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色	
175	72	E27	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 3	淡褐色	

遺物番号	挿図	図版	地区	遺構	出土層位	法量 (cm)	特徴	胎土	焼成	色調	備考
176	72		D24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		淡褐色	
177	72		E23		8層	口径 (24.5)	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は指によると思われる凋笙びした浅いO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		灰褐色	
178	73 36		E26		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はかぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		黄褐色	
179	73		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		暗灰褐色	
180	73		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		淡黄褐色	
181	73		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 + 3		淡褐色	
182	73 36		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はかぶりなD字状を呈す。内外面丁寧なナデ調整。	2 + 3		灰褐色	
183	73		1区		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		暗灰褐色	
184	73		E26		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖形を呈す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		淡黄褐色	
185	73 36		E26		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3		淡黄褐色	
186	73		E26		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		淡黄褐色	
187	73		E24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		灰褐色	
188	73		D24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面上むきの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3		淡褐色	
189	73		E23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はかぶりなO字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		淡褐色	
190	73		E24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2 + 3		灰褐色	
191	73		E24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は小ぶりなO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
192	73 36		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3		淡灰褐色	
193	73		D24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		暗灰褐色（外） 淡褐色（内）	
194	73 36		E24		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2 ± 3		淡黄褐色（外） 淡灰褐色（内）	
195	73 36		D23		8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面臨平な台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2 ± 3		淡灰褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
196	73	E 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖形を呈す。口縁端部から下がった位置に断面台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。外面ナデ、内面調整不明。	2 ～ 3	黄褐色（外） 灰褐色（内）	
197	73	E 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面台形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
198	73	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面上ひきの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	暗灰褐色	
199	73	E 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	暗灰褐色	
200	73	D 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡灰褐色	
201	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡褐色	
202	73	E 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡灰褐色	
203	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整不明。	2 + 3	淡灰褐色	
204	73	E 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
205	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は小ぶりなO字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	暗黄褐色	
206	73	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は小ぶりなV字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	暗灰褐色	
207	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面丸形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	暗褐色	
208	73	F 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形の刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 4	暗灰褐色	
209	73	E 25	8 層	口径（21.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。外面ケズリ、内面ナデ調整？	2 ± 3	暗灰褐色（外） 淡灰褐色（内）	
210	73	E 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 + 3	灰褐色	
211	73	E 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 + 3	淡灰褐色	
212	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 + 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
213	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	暗灰褐色	
214	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3	灰褐色（外） 黄褐色（内）	
215	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3	淡褐色	
216	73	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
217	73 37	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3	淡褐色	
218	74	F 27	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にはほ接するように断面三角を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2 + 3	灰褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
219	74	E25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はV字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2+3	灰褐色	
220	74	E23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	灰褐色	
221	74	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2±3	灰褐色	
222	74	E25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2±3	淡褐色	
223	74	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	淡黄褐色（外）淡灰褐色（内）	
224	74	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	淡黄褐色（外）暗灰褐色（内）	
225	74	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。調整は不明。	2+3	淡灰褐色	
226	74 37	E24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2=3	淡灰褐色	
227	74	D23	8層	口径（25.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目は棒状工具の側面で押さえる。内外面ナデ調整。	2±3	灰褐色（外）黄褐色（内）	
228	74 37	E23	8層	口径（28.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整。	2±3	淡褐色	
229	74	E26	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	淡黄褐色	
230	74	E23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2±3	淡灰褐色	
231	74	E24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	淡褐色	
232	74 37	F27	8層	口径（21.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内端接合。内外面ナデ調整。	2±3	暗灰褐色	外面煤付着
233	75	E23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はV字状を呈す。内端接合。内外面ナデ調整。	2±3	暗褐色	
234	75	E25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。内端接合。内外面ナデ調整？	2+3	淡褐色（外）淡灰褐色（内）	
235	75	F25	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2±3	淡灰褐色（外）淡褐色（内）	
236	75 37	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はV字状を呈す。内端接合。内外面ナデ調整。	2+3	淡褐色（外）淡灰褐色（内）	
237	75	D23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整。	2+3	淡橙褐色（外）淡褐色（内）	
238	75	E23	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。内外面ナデ調整？	2−3	暗黄褐色	
239	75 37	F24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目は棒状工具の側面で押さえる。内外面ナデ調整？	2±3	黄褐色	
240	75	E26	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2±3	淡褐色	
241	75	D24	8層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2±3	暗褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
242	75	E 26	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はかぶりなO字状を呈す？。調整不明。	2 ± 4	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
243	75	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目は棒状工具の側面で押さえる。内外面ナデ調整。	2 − 3	淡褐色（外） 灰褐色（内）	
244	75 37	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目は棒状工具の側面で押さえる。内外面ナデ調整。	2 − 3	淡灰褐色	
245	75 37	D 24	8 層	口径（30.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部から垂れ下がるように刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2 + 3	淡褐色	
246	75 37	E 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部から垂れ下がるように刻目突帯が施される。刻目の形状は小かりなD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡褐色	
247	75	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部から垂れ下がるように刻目突帯が施される。刻目の形状は小かりなD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡褐色	
248	75 38	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整。	2 ± 3	暗黄褐色	
249	75	C 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。調整は不明。	2 + 3	淡灰褐色	
250	75 38	F 25	8 層	口径（24.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡褐色	
251	75	C 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡灰褐色	
252	75	E 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整。	2 − 3	淡褐色	
253	75	E 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形の無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整。	2 − 3	淡灰褐色	外面煤付着
254	75	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面三角形の無刻目突帯が施される。調整不明。	2 ± 3	暗褐色	
255	75	D 26	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面丸形の無刻目突帯が施される。調整不明。	2 + 3	暗黄褐色（外） 黄褐色（内）	
256	75	C 23	8 層		縄文土器。深鉢、U縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面丸形の無刻目突帯が施される。調整不明。	2 − 3	淡褐色	
257	75	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面三角形の無刻目突帯が施される。調整不明。	2 − 3	淡褐色	
258	75	E 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部にほぼ接するように断面三角形を呈す無刻目突帯が施される。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
259	75	F 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接するように断面下さがりの三角形を呈す無刻目突帯が施される。調整不明。	2 + 3	淡褐色	
260	75	D 24	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接するように断面下さがりの三角形を呈す無刻目突帯が施される。調整不明。	2 ± 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	外面煤付着
261	75 38	D 23	8 層	口径（23.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接するように断面丸形を呈す無刻目突帯が施される。外面二枚貝条痕？後ナデ、内面ナデ調整。	2 − 3	淡褐色	
262	75	E 25	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接するように断面下さがりの三角形を呈す無刻目突帯が施される。調整不明。	2 + 3	淡褐色	
263	75 38	C 23	8 層	口径（30.0）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接するように断面三角形を呈す無刻目突帯が施される。外面は横い条痕の残るナデもしくはケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	2 ± 3	淡黄褐色	
264	76	E 26	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面丸形の刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整不明。	2 − 3	淡黄褐色	
265	76	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面三角形の刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡褐色	
266	76	D 23	8 層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面三角形の刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	暗褐色	

遺物番号	挿図	図版	地区	遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土	焼成	色調	備考
267	76	E 24	8	層			縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面丸形の刻目突帯が施される。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整。	2 ± 3		暗灰褐色	外面煤付着
268	76	D 23	8	層			縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面丸形を呈す無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整？	2 − 3		淡灰褐色	
269	76	E 23	8	層			縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。口縁部には断面三角形を呈す無刻目突帯が施される。調整不明。	2 ± 3		淡褐色	
270	76	F 25	8	層			縄文土器。深鉢、胴部片。二条突帯文土器で、断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。調整は不明。	2 ± 3		橙褐色	
271	76	E 25	8	層			縄文土器。深鉢、胴部片。二条突帯文土器で、断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はDないしU字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3		淡黄褐色	
272	76 38	D 24	8	層			縄文土器。深鉢、胴部片。二条突帯文土器で、断面三角形を呈す無刻目突帯が施される。内外面ナデ調整？	2 − 3		淡灰褐色（外）淡褐色（内）	外面煤付着
273	76	D 24	8	層	口径（12.5）		縄文土器。壺、口縁部片。丸くおさめられた口縁端部から下がった位置に断面丸ないし三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はDないしV字状を呈す。調整不明。	2 ± 3		淡灰褐色	
274	76	C 23	8	層	口径（10.5） 頸径（11.0）		縄文土器。壺、口縁部片。口縁部は短く外屈する。調整不明。	2 + 3		黒色	
275	76	D 23	8	層	頸径（12.5）		縄文土器。壺、頸部片。口縁部が短く外屈する形態を呈す。内外面ともに丁寧なナデ調整が施されている。	2 ± 3		灰褐色	
276	76 38	C 23	8	層	口径（13.5） 頸径（14.0）		縄文土器。壺、口縁部片。口縁部は短く外屈する。内外面ミガキ調整。	2 ± 3		黒色	
277	76	D 23	8	層	口径（20.0） 胴径（22.0）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部下には1条の沈線がめぐる。内外ナデ調整？	2 ± 3		淡褐色	
278	76	E 23	8	層	口径（22.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部下には1条の沈線がめぐる。内外ナデ調整？	2 − 3		淡褐色	
279	76 38	C 24	8	層	口径（20.0） 胴径（21.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁部は丁寧なナデ調整、胴部はケズリの痕跡を残す。内面は丁寧なナデ調整。	2 ± 3		淡灰褐色（外）灰褐色（内）	
280	76	E 26	8	層	口径（25.5） 胴径（26.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部下には1条の沈線ないし強いナデがめぐる。調整は不明であるが、ミガキが施されていたものと思われる。	2 + 3		暗灰褐色	
281	76	C 24	8	層			縄文土器。浅鉢、口縁部片。外面、口縁端部下は横ミガキにより強調される。内面端部直下にも1条の弱い沈線が施されている？ 内外面ミガキ？	2 − 3		暗灰褐色	
282	76	D 23	8	層			縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部下には1条の沈線がめぐる。内外ナデ調整？	2 − 3		淡褐色	
283	76	E 25	8	層	口径（20.0） 胴径（22.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3		淡褐色	
284	76	E 25	8	層	口径（25.0） 胴径（27.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整？	2 ± 3		淡褐色	
285	76 38	C 23	8	層	口径（18.0） 胴径（19.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面丁寧なナデ調整。	2 ± 3		暗褐色	外面煤付着
286	76 38	D 24	8	層			縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面丁寧なナデ調整。	2 − 3		灰褐色（外）暗灰褐色（内）	
287	76	E 23	8	層			縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面丁寧なナデ調整。	2 ± 3		暗灰褐色	
288	76	D 23	8	層	胴径（12.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。外面ミガキ、内面ナデ調整。	2 − 3		暗灰褐色	
289	76	C 24	8	層	胴径（17.0）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。内外面丁寧なナデ調整。	2 ± 3		淡褐色	
290	76 38	D 23	8	層	胴径（22.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部は欠損する。内外面ミガキ調整。	2 ± 3		黒色	
291	76	E 24	8	層	胴径（23.5）		縄文土器。浅鉢、胴部片。頸部丁寧なナデないしミガキ、胴部は横い振痕を残すナデ調整。内面ナデ調整。	2 ± 3		黄褐色	
292	76	D 24	8	層			縄文土器。浅鉢、底部片。胴部には波状に突帯が貼り付けられる。波状方形を呈す浅鉢の胴部片と考えられる。内外面ナデ調整。	2 ± 3		淡褐色（外）灰褐色（内）	
293	77	C 23	8	層	口径（21.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁部内面に1条の沈線。内外面ナデ調整。	2 + 3		暗灰褐色	
294	77	D 24	8	層	口径（21.0）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内径接合が認められる。内外面ナデ調整。	2 ± 3		淡褐色	
295	77 38	D 24	8	層	口径（20.0）		縄文土器。浅鉢、外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。底部は粘土帯を貼り付け高台状に成形する。	2 ± 3		灰褐色	
296	77	D 23	8	層	口径（28.5）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3		暗灰褐色	外面煤付着
297	77	E 25	8	層	口径（22.0）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。外面ケズリ後ナデ、内面ナデ調整。	3 + 3		淡褐色（外）淡灰褐色（内）	
298	77	C 23	8	層	口径（16.0）		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3		淡灰褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
299	77	C23	8層	口径（19.0）	縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡灰褐色	
300	77	D24	8層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
301	77	D23	8層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡灰褐色	
302	77	E26	8層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	黄褐色	外面煤付着
303	77	D25	8層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 ± 3	黄褐色	
304	78	E24	8層	底径（8.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡褐色	
305	78	E23	8層	底径（8.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	3 + 2	淡黄褐色	
306	78	D23	8層	底径（8.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。	2 + 3	淡褐色	
307	78	F26	8層	底径（6.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	黒色（外） 灰褐色（内）	
308	78	D24	8層	底径（8.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡黄褐色	
309	78	D23	8層	底径（10.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	3 + 4	橙褐色（外） 淡褐色（内）	
310	78	D23	8層	底径（6.5）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。底部に粘土帯を貼り付け底形する。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡黄褐色	
311	78	E25	8層	底径（7.5）	縄文土器。底部片。やや凹底気味の平底を呈す。外面丁寧なナデ、内面ナデ調整。	2 + 3	淡褐色	
312	78 43	D23	8層	底径　7.0	縄文土器。底部片。平底を呈す。底部に焼成後、穿孔が施されていえる。調整不明。	2 ± 3	淡橙褐色	
313	78	F・G24	8層	底径　10.0	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡黄褐色（外） 淡灰褐色（内）	
314	78	F26	8層	底径（7.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡黄褐色（外） 暗灰褐色（内）	
315	78	D23	8層	底径　7.0	縄文土器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整？	3 + 3	淡褐色	
316	78	D23	8層	底径（11.5）	縄文土器。底部片。平底を呈す。底部に粘土帯を貼り付け、高台状に成形する。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡褐色	
317	78	D24	8層	底径（0.50）	縄文土器。底部片。平底を呈す。底部に粘土帯を貼り付け、高台状に成形する。内外面ナデ調整。	2 + 3	淡褐色（外） 暗灰褐色（内）	
318	78	D24	8層	底径（6.0）	縄文土器。底部片。平底を呈す。底部に粘土帯を貼り付け、高台状に成形する。内外面ナデ調整。	2 ± 3	暗灰褐色	
319	78	D23	8層	底径（6.5）	縄文土器。底部片。凹底を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
320	78	E25	8層	底径　5.5	縄文土器。底部片。凹底を呈す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡灰褐色（外） 暗褐色（内）	
321	78	E25	8層	底径　7.0	縄文土器。底部片。丸底を呈す。調整不明。	2 + 3	黄褐色	
322	79	1区	不明		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部V、突帯D字状を呈す。内外面ナデ調整。	3 + 4	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	
323	79	E24	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともD字状を呈す。外面二枚貝条痕後ナデ、内面ナデ調整。	2 ± 3	淡褐色	
324	79	E24	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。丸くおさめた口縁端部に刻目を施す。口縁端部から下がった位置に断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は端部、突帯ともV字状を呈す。内外面二枚貝条痕後、ナデ調整。	2 + 3	淡黄褐色	
325	79	E25	5層	口径（23.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 4	淡灰褐色	
326	79	F26	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整不明。	2 + 3	灰褐色	
327	79	D24	4層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。調整不明。	3 + 3	淡褐色	
328	79	F26	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。調整不明。	2 + 3	暗灰褐色	

遺物番号	挿図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
329	79	F26	4層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	暗黄褐色	
330	79	F26	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部はやや尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はV字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
331	79	F26	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部はやや尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状は棒状工具の側面を押し当てて施す。調整不明。	2 ± 3	灰褐色	
332	79	C24	4層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部は尖り気味に丸くおさめる。口縁端部から下がった位置に断面三角形を呈す刻目突帯がめぐる。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	3 + 3	灰褐色（外） 淡褐色（内）	
333	79	E25	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整不明。	2 ± 4	橙褐色（外） 淡褐色（内）	
334	79	G26	5層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整不明。	2 ± 4	淡灰褐色	
335	79	E23	4層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はO字状を呈す。調整不明。	3 ± 4	淡褐色	
336	79	E25	5層	LI径（13.5）	縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整不明。	2 ± 4	淡褐色	
337	79	F26	4層		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部に接して断面下さがりの三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状は小ぶりなD字状を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
338	79	D24	不明		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部を欠損する。断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はDないしO字状？を呈す。内外面に二枚貝条痕が残る。	3 + 3	黄褐色	
339	79	D23	不明		縄文土器。深鉢、口縁部片。口縁端部を欠損する。断面丸形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はDないしO字状？を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
340	79	D24	4層		縄文土器。深鉢、胴部片。二条突帯文土器で、断面三角形を呈す刻目突帯が施される。刻目の形状はD字状を呈す。内外面ナデ調整？	2 ± 3	淡灰褐色	
341	79 38	E24	4層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。口縁端部は玉縁状に肥厚する。内外面ナデ調整。	2 ± 3	淡灰褐色	
342	79 38	E26	5層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。水平な口縁に、扁平な突起を施す。内外面ナデ調整？	2 + 3	淡褐色（外） 淡灰褐色（内）	
343	79	F26	4層		縄文土器。浅鉢、口縁部片。波状口縁を呈す。外面ケズリ後ナデ、口縁部は丁寧なナデ調整。内面もナデ調整。	2 ± 3	暗灰褐色（外） 淡黄褐色（内）	
344	80 35	E29	10層	高さ（5.0）	土偶の右手身と思われる土製品。底面側部、腕・腰部側面に刺突が施される。胸部は貫通穴で表現される。	1 ± 3	暗灰褐色	
345	80 35	F26	5層		土偶の胸部と思われる土製品。胸部は刺突で表現され、膨らみをもつ。また、短い棍線で正中線を表現する。断面面に棒状の芯と思われる痕跡が認められる。	2 ± 3	灰褐色	
346	80	E26	8層		土器片を円形に加工した土製円盤。	2 ± 3	淡黄褐色（外） 灰褐色（内）	
347	104 43	SK14	上面遺土 遺構覆辺	頸径（19.4） 胴径（30.4） 底径（9.8）	弥生土器。壺、口縁部を欠損する。頸胴部は段および沈線で区画される。胴部上半には、二枚貝の腹縁部で羽状文などを施す。平行沈線も二枚貝による。土器全体の調整については、摩滅著しく不明。	2 + 3	淡褐色	
348	105	D25	4層	口径（26.0） 頸径（25.0）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部は外反し、如意形を呈す。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
349	105	D23	5層	口径（25.0）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に突帯を貼り付ける。調整不明。	2 ± 3	暗灰褐色	
350	105 43	E26	不明	口径（33.5） 頸径（31.0）	弥生土器。甕、口縁部片。胴径部は幅広の刺りだした突帯によって区画される。突帯上には、2条の沈線が施される。内外面ナデ調整。	1 ± 3	淡橙褐色	
351	105 43	D25	5層	LI径（41.5） 頸径（37.5）	弥生土器。甕、口縁部片。頸部下に4条の沈線を施し、沈線間に刺突を加える。調整不明。	2 ± 3	淡褐色	
352	105 43	F26	4層	口径（30.0）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に貼付突帯を施す。胴部上半には6条の沈線を施す。内外面ナデ調整。	2 ± 3	灰褐色（外） 黄褐色（内）	外面煤付着
353	105	F25	4層	口径（30.5）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に貼付突帯を施す。胴部上半には4条以上の沈線を施す。内外面ナデ調整。	2 − 3	灰褐色（外） 黄褐色（内）	外面煤付着
354	105 43	F26	5層	口径（33.0） 頸径（32.0）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁端部には胴部、頸部下には9条の沈線を施す。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
355	105 43	D25	5層	口径（13.0） 頸径（12.5） 胴径（15.5）	弥生土器。甕、口縁部片。器形は内湾気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。内外面ナデ調整。	1 3	淡黄褐色	
356	105	F26	4層		弥生土器。壺、胴部片。二枚貝により羽状文が施される。調整不明。	2 3	灰褐色	
357	105	E24	4層	底径（10.5）	弥生土器。底部片。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	
358	105 43	D25	5層	底径（8.0）	弥生土器。底部片。底面にヘラ状工具で文様が施される。内外面ナデ調整。	2 3	淡灰褐色（外） 灰褐色（内）	
359	107	SK17	埋土	口径（16.0） 頸径（14.0） 器高（22.5） 底径（8.0）	弥生土器。甕。口縁部に2条の凹線または擬凹線が施され、胴部内面は頸部までケズリが施されている。底部は、やや凹底を呈する。	1 3	淡褐色	
360	110	G28	4層	口径（36.0）	弥生土器。広口壺、口縁部片。口縁部には2条の凹線文が施される。調整不明。	1 3	褐色（外） 淡褐色（内）	
361	110	F27	4層	口径（22.5）	弥生土器。広口壺、口縁部片。口縁部には3条の凹線文が施される。ナデ調整？	1 3	淡黄褐色	
362	110	F27	4層	口径（33.5）	弥生土器。広口壺、口縁部片。口縁部には3条の凹線文が施される。頸部外面は縦方向の刷毛目調整、頸部内面は横方向の刷毛目調整を施す。	1 3	淡黄褐色	
363	110	F27	4層	口径（22.0）	弥生土器。無頸壺、口縁部片。口縁部に14条の凹線文を施し、口縁部下方に突帯を施す。さらに、凹線の上に櫛毛目工具により縦方向に文様を施す。また、指頭による圧痕が認められる。	2 3		
364	110	H30	4層	口径（19.0） 頸径（15.0）	弥生土器。長頸壺、口縁部片。調整不明。	2 3	淡褐色	
365	110	E26	4層	頸径（8.5）	弥生土器。長頸壺、頸部片。頸部外面上半に5条の凹線文を施し、外面下半は縦方向の刷毛目調整。頸部内面は縦方向にケズリが施され、内面下方に指頭による圧痕が認められる。	2 3	淡黄褐色	
366	110	D29	不明	口径（16.5）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に3条の凹線文を施す。調整不明。	2 3	淡黄褐色	
367	110	C24	5層	口径（28.5） 頸径（27.5）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に3条の凹線文を施した後、ヘラ状工具による刺目を施す。頸部には指頭による貼付突帯をもつ。調整不明。	2 3	淡黄褐色	
368	110	F27	4層	口径（28.5） 頸径（28.0）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に3条の凹線文を施し、頸部に指頭による貼付突帯をもつ。内外面ナデ調整。	2 3	褐色土	
369	110	D26	5層	口径（16.0） 頸径（15.5）	弥生土器。甕、口縁部片。口縁部に3条の凹線文を施し、頸部に指頭による貼付突帯をもつ。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	
370	110	E27	4層	口径（16.0） 頸径（14.5）	弥生土器。甕、口縁部片。頸部に指頭による貼付突帯をもつ。内外面ナデ調整。	1 3	淡黄褐色	
371	110	E26	5層	口径（12.8） 頸径（10.5）	弥生土器。甕、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	
372	110	D26	5層	口径（13.0） 頸径（11.0）	弥生土器。甕、口縁部片。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	
373	110	E26	5層	口径（11.5） 頸径（10.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に2条の凹線文を施す。胴部外面は刷毛目、内面は胴部上半にまでケズリが施されるが、頸部にまで達していない。	1 2	淡黄褐色	
374	110	E26	5層	口径（15.0） 頸径（13.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に2条の凹線文を施す。内外面調整不明。	2 3	淡褐色	
375	110	D26	5層	口径（13.0） 頸径（12.5） 胴径（18.5）	弥生土器。甕。口縁部に3条の凹線文を施す。胴部外面は刷毛目調整を施す。内面は胴部上半に刷毛目調整を施し、胴部上半にまでケズリが施されるが、頸部にまで達していない。	2 3	淡褐色	
376	110	E27	4層	口径（12.9） 頸径（12.0）	弥生土器。壺。口縁部に2条の凹線文を施す。内面は胴部上半にまでケズリが施されるが、頸部にまで達していない。	2 3	淡黄褐色	
377	110	E27	不明	口径（11.0） 頸径（10.0） 胴径（13.0） 器高（14.0） 底径（4.0）	弥生土器。甕。口縁部に2条の凹線文が施され、外面は縦方向の刷毛目調整。内面は胴部上半にまでケズリが施されるが、頸部にまで達していない。	2 4	淡褐色	
378	110	E26	5層	口径（22.0）	弥生土器。高坏、坏部片。内外面調整不明。	2 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
379	110	E27	4層	口径（21.5）	弥生土器。高坏、坏部片。口縁部に4条の凹線文が施される。内外面ナデ調整。	2 3	淡黄褐色	
380	110	F27	4層	口径（31.5）	弥生土器。高坏、坏部片。口縁部に4条の凹線文、口縁端部に2条の凹線文が施される。	2 3	淡褐色	
381	111	E27	4層	脚径（4.0）	弥生土器。高坏、脚部。11条の半行沈線が施される。脚部と坏部を棒状の芯によって接合した痕跡がある。	1 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
382	111	F 27	4 層	底径（13.0）	弥生土器。高杯、脚部。脚部に上から4条、5条、6条の平行沈線が施され、沈線の間に未貫通の三角透し孔が二段にわたり、施されている。脚裾部の端部には3条の凹線文が施される。	2 ± 3	淡褐色	
383	111	F 27	4 層	底径（11.5）	弥生土器。高杯、脚部。脚部に6条の平行沈線が施されている。内面はケズリ調整が施される。	2 ± 3	淡褐色	
384	111	D 25	4 層	脚径（5.5） 底径（8.5）	弥生土器。高杯、脚部。脚部に3条の平行沈線が二段にわたり施される。内面はケズリ調整が施される。	1 − 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
385	111	E 27	不明	底径（16.5）	弥生土器。高杯、脚部片。脚部下方に貫通する透しが施される。脚裾部の端部には2条の凹線文が施される。調整不明。	2 ± 3	淡褐色	
386	111	E 26	5 層	口径（23.5） 頸径（22.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に2条の擬凹線文が施される。調整不明。	2 ± 3	淡黄褐色	
387	111	F 27	4 層	口径（28.0） 頸径（24.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に3条の擬凹線文が施される。内面調整はケズリが頸部まで達している。	2 ± 3	淡灰褐色（外） 淡褐色（内）	
388	111	F 26	4 層	口径（21.5） 頸径（17.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に3条の擬凹線文が施される。調整不明。	2 ± 3	淡褐色	
389	111	G 28	4 層	口径（20.5） 頸径（16.5）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に5条の擬凹線文が施される。外面は刷毛目調整、内面調整はケズリが頸部まで達している。	2 − 3	淡褐色	
390	111	F 27	3 層	口径（19.0） 頸径（17.0）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に3条の擬凹線文が施される。内面調整はケズリが頸部まで達している。	2 ± 3	淡褐色	
391	111	E 25	4 層	口径（16.0） 頸径（11.5）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に4条の擬凹線文が施される。調整不明。	2 − 3	淡黄褐色	
392	111	E 26	5 床	口径（13.0） 頸径（ 9.5）	弥生土器。壺、口縁部。口縁端部が厚く尖りぎみに仕上げられる。調整不明。	2 − 4	淡黄褐色	
393	111	F 27	4 床	口径（13.0） 頸径（11.5）	弥生土器。壺、口縁部片。口縁部に3条の擬凹線文が施される。内面調整はケズリが頸部まで達している。	1 ± 3	淡灰褐色	
394	111	不明	不明	頸径（13.5）	弥生土器。甕、頸部片。内面調整はケズリが頸部まで達している。	2 ± 4	淡褐色	
395	111	D 26	5 層	口径（13.0） 頸径（11.0）	弥生～古墳時代前期初頭の土器。甕、口縁部片。口縁端部をやや面取り気味に整形している。	1 − 3	淡黄褐色	
396	111	E 26	5 層	口径（29.5） 頸径（26.0）	弥生～古墳時代前期初頭の土器。甕、口縁部片。内面調整はケズリが頸部まで達している。	2 − 3	淡褐色	
397	111	G 27	4 床	口径（18.0）	弥生～古墳時代前期初頭の土器。高杯、坏部片。口縁部はやや外反している。	2 ± 3	淡橙褐色	
398	111	G 28	4 層	脚径（ 3.8）	弥生土器。高杯、脚部。脚部内面下半にケズリが施されている。	1 ± 3	淡褐色（外） 暗褐色（内）	
399	111	E 26	4 層	脚径（ 5.5） 底径（ 6.0）	弥生土器。低脚杯。坏部内面は、指オサエした後、ナデ調整を施す。	2 ± 3	淡黄褐色	
400	111	F 25	不明	摘径（ 3.5）	弥生土器。蓋。調整不明。	2 + 3	黄褐色	
401	111	G 28	3 層	底径（26.0）	弥生土器。器台、脚部。脚裾部に櫛描文をめぐらし、鋸歯文の下には3条の凹線文が施される。脚裾部の端部には1条の沈線がめぐる。	1 ± 3	淡褐色	
402	111	F 28	4 床	脚径（11.5）	弥生土器。鼓形器台、脚部。外面ナデ、内面ケズリ調整が施されている。	2 ± 4	淡褐色	
403	111	E 26	5 層	底径（ 6.5）	弥生土器。底部片。底部は平底で、外面はナデ調整、内面は指オサエした後、ナデ調整を施す。	1 + 3	淡褐色	
404	111	D 24	4 層	底径（ 9.8）	弥生土器。底部片。底部は平底で、外面は縦方向の刷毛目調整、内面はナデ調整が施される。	2 + 3	淡褐色	
405	111	E 26	5 層	底径（ 4.5）	弥生土器。底部片。底部は平底を呈す。内面はケズリ調整を施す。	2 ± 3	淡褐色	
406	111	E 24	5 層	底径（ 6.0）	弥生土器。底部片。底部は平底で、外面は縦方向のミガキが施され、内面はケズリ調整が施される。	1 − 3	暗褐色	
407	111	E 26	不明	底径（10.0）	弥生土器。底部片。底部は平底で、外面は縦方向のミガキが施される。内面はケズリ調整が施され、底には指オサエが見られる。	2 + 3	淡褐色	
408	111	C 24	4 層	底径（16.0）	弥生土器。底部片。底部は平底で、内面底部は指オサエが見られる。	2 ± 3	淡橙褐色	
409	115	SD05	堀土	口径（15.0） 頸径（13.0）	土師器。甕。口縁部は外反しながら立ち上がる複合口縁。下端の突出は鋭い。口縁端部は丸くおさめる。内頸接合。口頸部内外面ナデ調整。胴部外面不明。胴部内面ケズリ。	2 ± 3	灰褐色	
410	115	SD05	堀土	口径（20.0） 頸径（15.5）	土師器。甕。内湾しながら外傾する単純口縁。口縁端部は丸くおさめる。内頸接合。口径部内外面ナデ調整。頸部下外面刷毛目調整、内面ヘラケズリ。	2 + 3	灰褐色	
411	115	SD05	堀土	口径（11.5） 頸径（ 9.0）	土師器。壺。口縁部はやや内湾気味に外傾する。口縁部内外面ナデ調整。頸部下調整不明。	2 ± 4	橙褐色	
412	115	SD05	堀土	口径（11.0） 頸径（ 8.5）	楕形土器。口縁部片。口縁部は短く外傾する。口縁端部は丸くおさめる。口縁部外面ナデ調整。口縁部内面および頸部下内外面調整不明。	2 + 3	淡黄褐色	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	法量（cm）	特徴	胎土焼成	色調	備考
413	115	SD05	埋土	口径（15.5）	土師器。甕。口縁部片。複合口縁の退化したもの。口縁端部は丸くおさめる。	2＋3	暗黄褐色	
414	115	SD05	埋土	口径（14.0）	土師器。甕。複合口縁の口縁部片。口縁端部は面をもつ。内外面調整不明。	2±3	灰褐色	
415	115	SD05	埋土	底径（11.5）	土師器。高坏、脚部。内外面調整不明。	2±3	黄褐色	
416	115	SD05	埋土	口径（22.5） 頸径（21.0）	弥生上器。甕、口縁部片。外面ハケメ調整、内面ナデ調整。	2－3	橙褐色	
417	115	SD05	埋土	底径（ 7.0）	弥生上器。底部片。平底を呈す。内外面ナデ調整。	2－3	暗褐色	
418	115	SD04	埋土	底径（13.5）	弥生土器。高坏、脚部片。内外面ナデ調整？	2±3	黄褐色	
419	116	F24	4	口径（16.0） 頸径（14.0）	土師器。甕、口縁部片。口縁端部は丸くおさめる。口縁部内外面ナデ調整。	2±3	黄褐色	
420	116	G27	4	口径（14.5） 頸径（12.5）	土師器。甕。口縁部は頸部から緩やかに外傾する。口縁端部は丸くおさめる。内外面ナデ調整。	2±3	黄褐色	
421	116	F27	4	摘径（ 4.5）	土師器。坏蓋の摘部片。内外面ナデ調整。	2±3	黄褐色	
422	116	F24	3	摘径（ 5.5）	土師器。坏蓋の摘部片。内外面ナデ調整。	2－3	淡黄褐色	
423	116	F24	3	摘径（ 3.5）	土師器。坏蓋の摘部片。環状を呈する。内外面ナデ調整。	2±	灰褐色	
424	116	F28	4	脚径　3.75 底径（14.0）	土師器。高坏、脚部。内外面ナデ調整。脚部内面にシボリメがみられる。	2±3	淡黄灰色	
425	116	E23	4	口径（12.5）	須恵器。坏蓋、口縁部片。口縁端部内面やや上に一条の沈線を施し、段状に仕上げる。内外面ナデ調整。	1±1	灰色	
426	116	G25	3	口径（10.5）	須恵器。坏身。口縁部はたちあがり、かえりともに丸くおさめる。口縁部内外面回転ナデ調整。底部外面回転ヘラケズリ後ナデ消し。	1－1	青灰色	
427	116	C23	3	口径（12.0）	須恵器。坏身。口縁部はたちあがり、かえりともに丸くおさめる。オリコミ手法。内外面回転ナデ調整。	1－1	灰色	
428	116	1区	不明		須恵器。坏身。かえり端部は丸くおさめる。オリコミ手法。内外面回転ナデ調整。底部外面は回転ヘラケズリ。	1－1	灰色	
429	116	D25	3	底径（12.5）	須恵器。坏身、底部片。内外面ナデ調整。底部外面は糸切り後ナデ消し。	1－1	青灰色	
430	116	F24	3	底径（ 8.0）	須恵器。坏身、底部片。底部内面乱方向のナデ調整、外面回転糸切り。	1－1	青灰色	
431	116	F24	3		土師質の土馬。胴部片。頭部・脚部を欠く	2±3	淡黄褐色	
432	116	1区	不明		土錘。大型。	2±3	淡黄褐色	
433	116	F27	3	径　4.3	土玉。完形。	2±3	淡黄褐色	
434	118	SX01	埋土	口径（24.5） 頸径（21.0）	瓦質土器。土鍋、口縁部。口縁部は受け口状を呈し、端部は面をもつ。口縁部内外面ナデ調整。	1－2	淡黄灰色（外） 暗灰色（内）	
435	118	SX01	埋土	口径（33.0） 頸径（30.0）	土師質土器。土鍋。口縁部は受け口状を呈し、端部は面をもつ。口縁部内面ナデ調整、外面調整不明。胴部内外面磨滅毛目調整。	1－3	淡黄褐色	外面煤付着
436	118	SX01	埋土	口径（11.5）	土師質上器。坏身、口縁部片。口縁部はほぼ直線上に立ち上がる。口縁端部は丸くおさめる。	1－3	淡黄褐色	
437	118	SX01	埋土	底径　6.3	土師質土器。坏身、底部。内面ナデ調整。外面回転糸切り。やや厚く、円盤高台状を呈する。	1－3	淡黄褐色	
438	118	SX01	埋土	口径（11.0） 頸径（10.0）	須恵器。甕。口縁部は短く外反する。口縁端部は面をもつ。口縁部内外面回転ナデ調整。体部外面格子目タタキ？体部内面は平行線状の当て具痕を残す。	1－1	灰色	

古市河原田遺跡　石器・石製品一覧表

1．石鏃の分類に関しては、基部の形態から凹基式、平基式、凸基式に分類した。

2．礫石器の分類に関しては、磨石―凹石―敲石の順に、要素をもつ面の数を数値で示した。

3．石材に関して、いわゆる安山岩は石材鑑定から金山産サヌカイトという分析結果を得ており、大山系安山岩を除き、サヌカイトと表記した。

4．残存値は（　）で示した。

遺物番号	掛図図版	地区遺構	出土層位	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅　(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S1	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	13.5	15	3	0.4	
S2	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	13	12.5	2	0.2	
S3	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	20	14.5	4.5	0.7	
S4	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	24	19.5	5	1	
S5	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	サヌカイト	31	(15)	3.5	(1.2)	
S6	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	(14)	10.5	2	(0.3)	
S7	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	20	(12.5)	3.5	(0.6)	
S8	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	24	14	4	0.8	
S9	50	SD01	埋土	石鏃	凹基式	黒曜石	(2)	(15.5)	4	(1)	
S10	50 39	SD01	埋土	楔形石器		黒曜石	33	22.5	9	6.6	
S11	50 39	SD01	埋土	楔形石器		黒曜石	19	21.5	5	1.3	
S12	50 39	SD01	埋土	楔形石器		黒曜石	(20.5)	17	(8)	(2.4)	
S13	50	SD01	埋土	楔形石器		水晶	29	44.5	1	13.4	
S14	50 39	SD01	埋土	微細剥離痕のある剥片		サヌカイト	30	54	8.5	12	
S15	50	SD01	埋土	磨製石斧		閃緑岩	45.5	40	30	56	
S16	50 42	SD01	埋土	石錘		変成岩	54.5	43	5.5	30.4	
S17	51	SD01	埋土	礫石器	2-0-0	凝灰角礫岩	120	103	77	1200	
S18	51	SD01	埋土	礫石器	2-0-0	大山系安山岩	(53)	(106.5)	43	(300)	
S19	51 41	SD01	埋土	礫石器	2-1-1	閃緑岩	76	58	47.5	280	
S20	51 42	SD01	埋土	砥石		花崗岩	(130)	59	35	(560)	
S21	55	SK03	埋土	石鏃	凹基式	サヌカイト	28	(16.5)	(5.5)	(1.5)	
S22	56	SK04	埋土	礫石器	2-0-0	サヌカイト	76	62	33	250	
S23	57	SK05	埋土	石鏃	凹基式	サヌカイト	(22)	(15.5)	4.5	(0.9)	
S24	80 35	D29	3層	岩偶		石英					
S25	81	E30	9層	石鏃	平基式	黒曜石	20	18	6.5	2	
S26	81	E32	10層	石鏃	凹基式	サヌカイト	8	(8.5)	2	(0.1)	
S27	81	E30	10層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(15)	17	3.5	(0.7)	
S28	81	E32	10層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(19.5)	(11.5)	3	(0.6)	
S29	82 39	C24	8層	石鏃	凹基式	サヌカイト	29.5	21	4.5	1.4	
S30	82	E26	8層	石鏃	凹基式	黒曜石	23.5	15	3	0.5	
S31	82	F24	8層	石鏃	凹基式	黒曜石	19	15	5.5	0.9	
S32	82	F25	8層	石鏃	凹基式	黒曜石	15.5	12	3	0.4	
S33	82	C23	8層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(21.5)	(20)	4.5	(1.4)	

遺物番号	挿図 図版	地区 遺構	出土層位	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S34	82	C23	8層	石鏃	平基式	サヌカイト	23	15	4	1.3	
S35	82	C23	8層	石鏃	不明	サヌカイト	(31)	18	6	(3.1)	
S36	82	E24	8層	石鏃	不明	サヌカイト	35.5	17	5	2.8	
S37	82	F25	8層	石鏃	不明	黒曜石	(24.5)	(14.5)	3	(0.9)	
S38	82	E25	8層	加工痕のある剥片		黒曜石	17	25	4	1.2	
S39	83	D27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	19	20	4	0.9	
S40	83 39	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	17	15	3	0.5	
S41	83	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	20	(15.5)	4	(0.9)	
S42	83	F30	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	22.5	15	5.5	1.1	
S43	83	D27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	17	(13)	2	(0.4)	
S44	83	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	21	19.5	3	0.7	
S45	83	D29	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	19	(14)	5	(0.6)	
S46	83	D29	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(15)	14.5	4	(0.6)	
S47	83	E29	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	17	15	3	0.6	
S48	83	D27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(14)	14.5	3	(0.4)	
S49	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(13)	13	2.5	(0.3)	
S50	83	D27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(14)	(7)	3	(0.2)	
S51	83 39	E27	4層	石鏃	凹基式	黒曜石	29	18	4.5	1.3	
S52	83	G25	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	24.5	19.5	5	1.5	
S53	83	D28	4層	石鏃	凹基式	黒曜石	(20.5)	17.5	4.5	(1.1)	
S54	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(25)	(14)	2.5	(0.6)	
S55	83	D29	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	23	15	2.5	0.6	
S56	83	D27	4層	石鏃	凹基式	黒曜石	17	11	3	0.4	
S57	83	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	20.5	(12)	4.5	(0.5)	
S58	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	23	(13.5)	4	(0.8)	
S59	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(18)	13	3.5	(0.6)	
S60	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(18.5)	(12.5)	3	(0.4)	
S61	83	D28	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(19)	(13)	3	(0.5)	
S62	83 39	E23	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	14	11.5	3	0.3	
S63	83	D23	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	(11.5)	(13)	3	(0.4)	
S64	83	E27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	17	(13.5)	3.5	(0.7)	
S65	83 39	G26	5層	石鏃	凹基式	黒曜石	18.5	13.5	4.5	0.6	
S66	83	C25	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	15	11.5	3	0.3	
S67	83	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	18	(13)	3.5	(0.5)	
S68	83	D24	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	15.5	(10)	3	(0.4)	
S69	83	D27	3層	石鏃	凹基式	黒曜石	21.5	(9.5)	5	(0.9)	
S70	83	E28	4層	石鏃	凹基式	黒曜石	(14)	18	3	(0.7)	
S71	83	1区	不明	石鏃	凹基式	黒曜石	14	12	2.5	0.4	
S72	83 39	E28	3層	石鏃	平基式	黒曜石	15.5	16	4	0.6	
S73	83	C26	3層	石鏃	平基式	黒曜石	(15.5)	(14.5)	4	(0.7)	
S74	83	C25	3層	石鏃	平基式	黒曜石	15	15	6.5	1.3	
S75	83 39	D25	3層	石鏃	平基式	黒曜石	17	12	3.5	0.8	
S76	83	E28	4層	石鏃	平基式	黒曜石	16.5	11	3.5	0.6	
S77	83	E28	3層	石鏃	平基式	黒曜石	19.5	15	7	1.6	
S78	83	D27	3層	石鏃	平基式	黒曜石	(19.5)	14	5.5	(1.1)	
S79	83	G25	3層	石鏃	平基式	黒曜石	(12)	19.5	2	(0.6)	
S80	83 40	D27	3層	石鏃	凸基式	黒曜石	(26)	17.5	7	(2.3)	
S81	83	D27	3層	石鏃	凸基式	黒曜石	20	18.5	5	1.2	
S82	83	E29	3層	石鏃	不明	黒曜石	(23)	(15)	5	(1.2)	
S83	84	D30	3層	石鏃	不明	黒曜石	(18.3)	(17.5)	4	(0.9)	
S84	84	D27	3層	石鏃	不明	黒曜石	(18)	(15)	4.5	(0.7)	
S85	84	D29	3層	石鏃	不明	黒曜石	(21.5)	(10.5)	3	(0.6)	
S86	84	E30	不明	石鏃	不明	黒曜石	(15.5)	(10)	3	(0.3)	
S87	85 39	D24	不明	石鏃	凹基式	サヌカイト	25	18	3	0.7	
S88	85	F25	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	19	(17)	3.5	(0.7)	
S89	85	E26	5層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(18)	17.5	2.5	(0.6)	
S90	85	F32	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	19.5	15	3	0.6	
S91	85	C24	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	17	(11.5)	2	(0.3)	
S92	85	133	不明	石鏃	凹基式	サヌカイト	16	(11)	3.5	(0.3	
S93	85	E31	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	21	14.5	4	1	
S94	85	E24	不明	石鏃	凹基式	サヌカイト	26	(16.5)	5	(1.4)	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S95	85	G26	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	24	15	3	0.9	
S96	85	D24	4層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(25)	(17)	4	(1.2)	
S97	85	E30	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(32)	(17.5)	5	(1.9)	
S98	85	E30	4層	石鏃	凹基式	サヌカイト	23.5	15	4	0.6	
S99	85	E31	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(21)	(10.5)	3.5	(0.5)	
S100	85	E31	4層	石鏃	凹基式	サヌカイト	19.5	(11.5)	3.5	(0.6)	
S101	85	D24	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(15)	(15.5)	2.5	(0.5)	
S102	85 39	D26	5層	石鏃	凹基式	サヌカイト	12.5	(15.5)	3	(0.4)	
S103	85	D29	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(17)	15	4	(0.7)	
S104	85	E31	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	17	(12.5)	4	(0.5)	
S105	85	D25	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	15	11.5	4	0.6	
S106	85 39	E28	4層	石鏃	凹基式	サヌカイト	22	13.5	3.5	0.8	
S107	85	E31	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	26	16	4.5	1.3	
S108	85	E31	3層	石鏃	凹基式	サヌカイト	(23)	(12.5)	4	(0.8)	
S109	85	E29	3層	石鏃	平基式	サヌカイト	20	14.5	3.5	0.9	
S110	85 39	E27	3層	石鏃	平基式	サヌカイト	21	16	3.5	0.8	
S111	85	F30	3層	石鏃	平基式	サヌカイト	(18.5)	13	4	(1)	
S112	85	D24	4層	石鏃	平基式	サヌカイト	23	13.5	5	1	
S113	85 39	D28	3層	石鏃	凸基式	サヌカイト	30	15	5	2	
S114	85	D24	不明	石鏃	不明	サヌカイト	(24)	(12.5)	5	(1.1)	
S115	85	C25	4層	石鏃	不明	サヌカイト	(18)	(15)	3	(0.9)	
S161	85	D25	4層	石鏃	不明	サヌカイト	(16.5)	(11.5)	3	(0.4)	
S117	85	E31	3層	石鏃	不明	サヌカイト	(13)	17	2.5	(0.6)	
S118	86 39	E30	11層	楔形石器		黒曜石	20	25.5	19	5	
S119	86 39	E30	9層	楔形石器		黒曜石	32	33	11.5	10.6	
S120	86 39	E23	8層	楔形石器		黒曜石	31.5	14	13	5	
S121	86 39	E31	10層	楔形石器		黒曜石	29.5	30.5	12.5	6.8	
S122	86 39	D23	8層	楔形石器		黒曜石	21	28	10.5	5.4	
S123	86 39	H30	3層	楔形石器		サヌカイト	32	19.5	9.5	5.7	
S124	86	D29	3層	楔形石器		サヌカイト	38	16	10.5	6.4	
S125	86 39	E31	3層	楔形石器		サヌカイト	27	34	10	10.8	
S126	86	1区	不明	楔形石器		黒曜石	23.5	16	6.5	2.3	
S127	86	E29	3層	楔形石器		黒曜石	24	18	11	3.4	
S128	86	F26	5層	楔形石器		黒曜石	27.5	31	1	7.5	
S129	87	E32	3層	加工痕のある剥片		黒曜石	26	30	5	3.4	
S130	87 39	C23	8層	スクレイパー		サヌカイト	35	(69)	9	(25.8)	
S131	87 39	G25	3層	スクレイパー		サヌカイト	(42)	(39)	8	(12.2)	
S132	87 39	F30	4層	スクレイパー		サヌカイト	40	(35.5)	9	(14)	
S133	87	D28	4層	スクレイパー		黒曜石	26	34	10	7.5	
S134	88 39	SD05	堆土	石核		黒曜石	67	132	36	220	
S135	88 39	E28	3層	石核		黒曜石	77	101.5	46	250	
S136	89 39	E29	3層	石核		黒曜石	36	48	19	28.8	
S137	89 39	E29	3層	石核		黒曜石	23	26	15	7.5	
S138	89 39	D26	4層	石核		黒曜石	(28)	31	15	(11.6)	
S139	89 39	G24	3層	石核		黒曜石	47	57.5	42	140	
S140	90	F30	10層	打製石斧		サヌカイト	80	38	13.5	58	
S141	90 40	F25	8層	打製石斧		大山系安山岩	111	41.5	16	76.5	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S142	91 40	E25	8 層	打製石斧		サヌカイト	88	49	19.5	96	
S143	91	E25	8 層	打製石斧		大山系安山岩	(77.5)	42	17.5	(71)	
S144	91	E23	8 層	打製石斧		大山系安山岩	88.5	49	15.8	65	
S145	91	C23	8 層	打製石斧		黒色片岩	143	61.5	12	101	
S146	91 40	F23	3 層	打製石斧		緑色片岩	112	44.5	13.5	71	
S147	91	F25	4 層	打製石斧		変成岩	88.5	52	18	90	
S148	91 40	E24	不明	打製石斧		花崗岩	114.5	51	30	200	
S149	91 40	C23	3 層	打製石斧		サヌカイト	103	51.5	16.5	95.5	
S150	92	1 区	不明	打製石斧		黒色片岩	110.5	(27)	15.5	(50)	
S151	92	F28	不明	打製石斧		サヌカイト	(81)	55.5	14.5	(76)	
S152	92 40	E25	5 層	打製石斧		流紋岩	150	91.5	35.5	540	
S153	92 40	F28	不明	打製石斧		花崗岩	185.5	108	44	770	
S154	93	E27	5 層	磨製石斧		花崗岩	(50)	(54)	(27)	(78)	
S155	93 40	2 区	不明	磨製石斧		黒色片岩	(79)	(46.5)	(22)	(130)	
S156	93 40	F24	4 層	磨製石斧		閃緑岩	(92.5)	(69)	(34)	(310)	
S157	93 40	F26	5 層	磨製石斧		緑色片岩	(115.5)	44.5	(41)	(310)	
S158	93	E25	不明	磨製石斧		花崗岩	(82.5)	(43)	(12)	(60)	
S159	93	C23	8 層	磨製石斧		黒色片岩	(62)	(35)	(9)	(23.8)	
S160	93	G26	3 層	磨製石斧		閃緑岩	(104)	(51)	32.5	(240)	
S161	93 40	G25	3 層	磨製石斧		サヌカイト	52	22	12.5	22.6	
S162	93	不明	不明	磨製石斧		黒色片岩	112	56.5	19	140	未製品
S163	93	H30	3 層	磨製石斧		黒色片岩	96.5	39	22	110	未製品
S164	94 41	3 区	11 層	礫石器	2-0-0	大山系安山岩	(90.5)	90	47	(400)	
S165	94	F27	10 層	礫石器		大山系安山岩	100	118.5	27.5	430	
S166	94 41	D31	10 層	礫石器	2-0-0	花崗岩	114	99	52	850	
S167	94 41	D31	10 層	礫石器	2-1-2	花崗岩	62	60	45.5	230	赤色顔料付着
S168	95	D30	10 層	礫石器	2-0-0	細粒花崗岩	106	103	64	1010	
S169	95	D30	10 層	礫石器	2-1-0	粗粒花崗岩	127.5	105	74	1450	
S170	95	E30	10 層	石皿		閃緑岩	(133.5)	(76.5)	50	(620)	
S171	96 41	D27	10 層	礫石器	2-1-0	閃緑岩	110	98.5	46	730	
S172	96	F27	10 層	礫石器	2-0-1	大山系安山岩	99	86.5	48.5	480	
S173	96	D30	10 層	礫石器	2-0-1	大山系安山岩	(87.5)	80	47	440	
S174	97	D23	8 層	礫石器	2-0-0	花崗岩	(84)	(104.5)	67	(920)	
S175	97	F24	8 層	礫石器	1-0-0	花崗岩	(90)	117	57.5	(770)	
S176	97 41	E23	8 層	礫石器	0-2-0	大山系安山岩	121	86	53	670	
S177	97	小明	不明	礫石器	0-1-0	花崗岩	89	76	41.5	280	
S178	98	E28	4 層	礫石器	2-0-0	流紋岩質凝灰角礫岩	93	93	48	610	
S179	98	G24	4 層	礫石器	1-0-0	大山系安山岩	(122)	(112)	57	(1060)	
S180	98	D29	3 層	礫石器	2-0-1	花崗岩	102.5	80	47	560	
S181	98	G32	3 層	礫石器	2-0-0	大山系安山岩	89	78.5	43.5	360	
S182	98	F28	不明	礫石器	1-0-0	花崗岩	168.5	134	51	1360	
S183	99	D27	4 層	礫石器	2-0-0	花崗岩	119	85	73	1000	
S184	99	4 区	小明	礫石器	1-0-0	大山系安山岩	147	118	51.5	1150	
S185	99	F30	4 層	礫石器	1-0-0	大山系安山岩	85	72	56.5	900	
S186	99	4 区	3 層	礫石器	1-0-0	花崗岩	62	58.5	19	88	
S187	99 41	E32	4 層	礫石器	1-0-0	閃緑岩	95	77	46.5	500	
S188	99	E25	5 層	礫石器	1-0-0	花崗岩	144	(59)	62.5	(610)	
S189	100	H32	3 層	礫石器	2-1-0	大山系安山岩	123.5	101.5	73	1260	
S190	100	D29	不明	礫石器	2-2-0	花崗岩	100.5	85	46	480	
S191	100	D27	3 層	礫石器	1-1-0	閃緑岩	119	83	47	730	
S192	100	H30	3 層	礫石器	2-0-2	緑色片岩	73	40.5	30	140	
S193	101	C25	不明	礫石器	2-1-0	大山系安山岩	(118.5)	124	73.5	(1640)	

遺物番号	挿図図版	地区遺構	出土層位	器種	分類	石材	長さ(mm)	幅 (mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考
S194	101	1区	不明	礫石器	0-2-0	花崗岩	123	87.5	43	580	
S195	101 41	D29	3層	礫石器	2-2-0	閃緑岩	112	95.5	47	760	
S196	101 42	D24	3層	砥石		緑色片岩	(74.5)	30.5	23	(87.5)	
S197	102 42	D27	4層	石皿		多孔質玄武岩	(252)	(132)	83	(4120)	
S198	102	E28	10層	石皿		花崗岩	(126)	(128)	57.5	(1520)	
S199	102 42	E30	9層	石錘		花崗岩	145.5	89	24	460	
S200	102 42	E32	10層	石錘		大山系安山岩	55	43	10	33.2	
S201	102 42	3区	不明	石錘		花崗岩	68	47	11	50.5	
S202	102 42	D27	4層	石錘		大山系安山岩	83	59	26	180	
S203	112	D24	4層	磨製石斧		大山系安山岩	(55.5)	(42)	(31)	(30)	
S204	112	D27	4層	磨製石斧		大山系安山岩	(107)	(56)	(33.5)	(320)	
S205	112 45	D24	4層	磨製石斧		花崗岩	(212)	58	48.5	(940)	
S206	115	SD05	埋土	石皿		流紋岩	(186)	(190)	45	(2380)	
S207	115 40	SD05	埋土	打製石斧		サヌカイト	125.5	68.5	29.5	260	
S208	118 39	SX01	埋土	スクレイパー		黒曜石	51	38.5	16	18.2	

古市河原田遺跡　銅製品一覧表

遺物番号	挿図	地区	出土層位	器種	備考
F1	118	F24	3層	銅銭	元祐通寶　背無文